
四万十市 男女共同参画に関する
市民意識調査

— 報告書 —

平成29年5月
高知県 四万十市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	3
1 性別	3
2 年齢別構成	3
3 職業別構成	4
4 世帯構成	5
5 未既婚	7
III 調査結果	9
【1】男女平等意識について	9
1 男女の地位の平等意識	9
【2】職業生活について	13
1 女性の働き方について	13
2 進路や職業選択時の性別意識	18
3 女性が働く上で支障となること	19
4 職場での男女の扱い	21
5 育児休業・介護休業取得状況	22
6 女性の働き方の変化	26
7 女性の働きやすさについて	29
8 女性が活躍できる職場環境に必要と思うこと	34
9 日常生活の理想と現実について	36
10 仕事と家庭の両立に必要と思うこと	39
11 各種ハラスメントの経験	42
【3】家庭生活と男女の役割について	45
1 結婚と家庭に関する考え方	45
2 子育てについての考え方	48
3 家庭内の仕事の分担について	51
【4】地域活動への参加などについて	55
1 地域活動の参加状況	55
2 地域活動における男女間格差の現状	58
3 地域社会で男女共同参画推進に必要だと思うこと	61
4 防災や・復興の場等における女性の参画	64
【5】ドメスティック・バイオレンス（DV）について	67
1 メディアにおける性・暴力表現について	67
2 ドメスティック・バイオレンスの経験について	70
3 DVを防ぐために必要だと思うこと	74

【6】男女共同参画社会について-----	76
1 男女共同参画に関する用語の認知状況-----	76
2 男女共同参画の推進に必要なだと思ふ施策-----	78
資料／調査票 -----	79

I 調査の概要

【調査の目的】

「新・しまんと男女共同参画プラン」の改定に当たって、市民の男女共同参画に関する意識や意見等を把握し、今後の計画づくりのための基礎的な資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

本市に居住する 18 歳以上の市民

【対象者抽出方法】

住民基本台帳による無作為抽出

【調査方法】

郵送配布・回収

【調査期間】

平成 29 年（2017 年）2 月

【回収結果】

配布数	2,000 件
有効回収数	750 件
有効回収率	37.5%

【報告書の見方について】

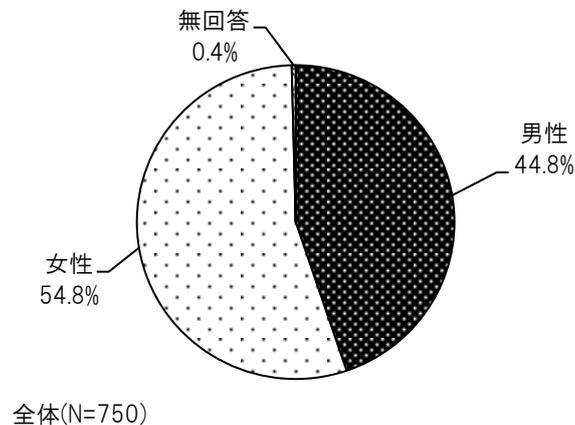
- (1) 集計は小数点以下第 2 位を四捨五入している。従って、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- (2) 2 つ以上の回答を可能とした設問（複数回答）の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示す N は、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数を「n」で表記している（該当数とは、例えば、問 A で 1 と回答した人のみが、問 B を答える場合の問 B の基数、あるいはクロス集計における「男性」や「30 歳代」・・・など、限定された回答者数を指す）。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。

- (5) 図中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 図表中におけるクロス集計結果については、属性の該当件数や属性間の差を事前に確認した上で、当該質問の分析に当たって必要と考えられるクロス項目を選別して掲載している（例えば、問Aでは「性別」と「年齢別（男女計）」、問Bでは「性別」と「性・年齢別（男女別の年齢別）」など）。
- (7) 設問によっては、「高知県男女共同参画社会に関する県民意識調査（平成 26 年 1 月実施）」（図表等では「高知県」と表記）及び国の「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年 9 月実施調査）」（図表等では「国」と表記）、との比較を行っている。
- (8) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

Ⅱ 回答者の属性

1 性別

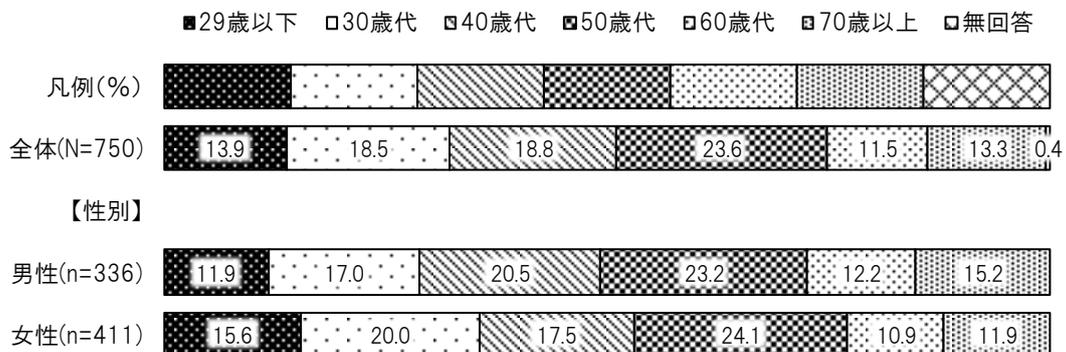
性別構成比は、「男性」44.8%、「女性」54.8%で、女性の割合がやや高い。



2 年齢別構成

年齢別構成は、「50歳代」の割合が23.6%と最も高く、次いで「40歳代」(18.8%)、「30歳代」(18.5%)の順となっており、『50歳代以下』合計で74.8%を占めている。

性別では、男性は女性に比べ『50歳代以上(合計)』の割合が高く、女性は特に、『30歳代以下(合計)』が男性を上回っている。

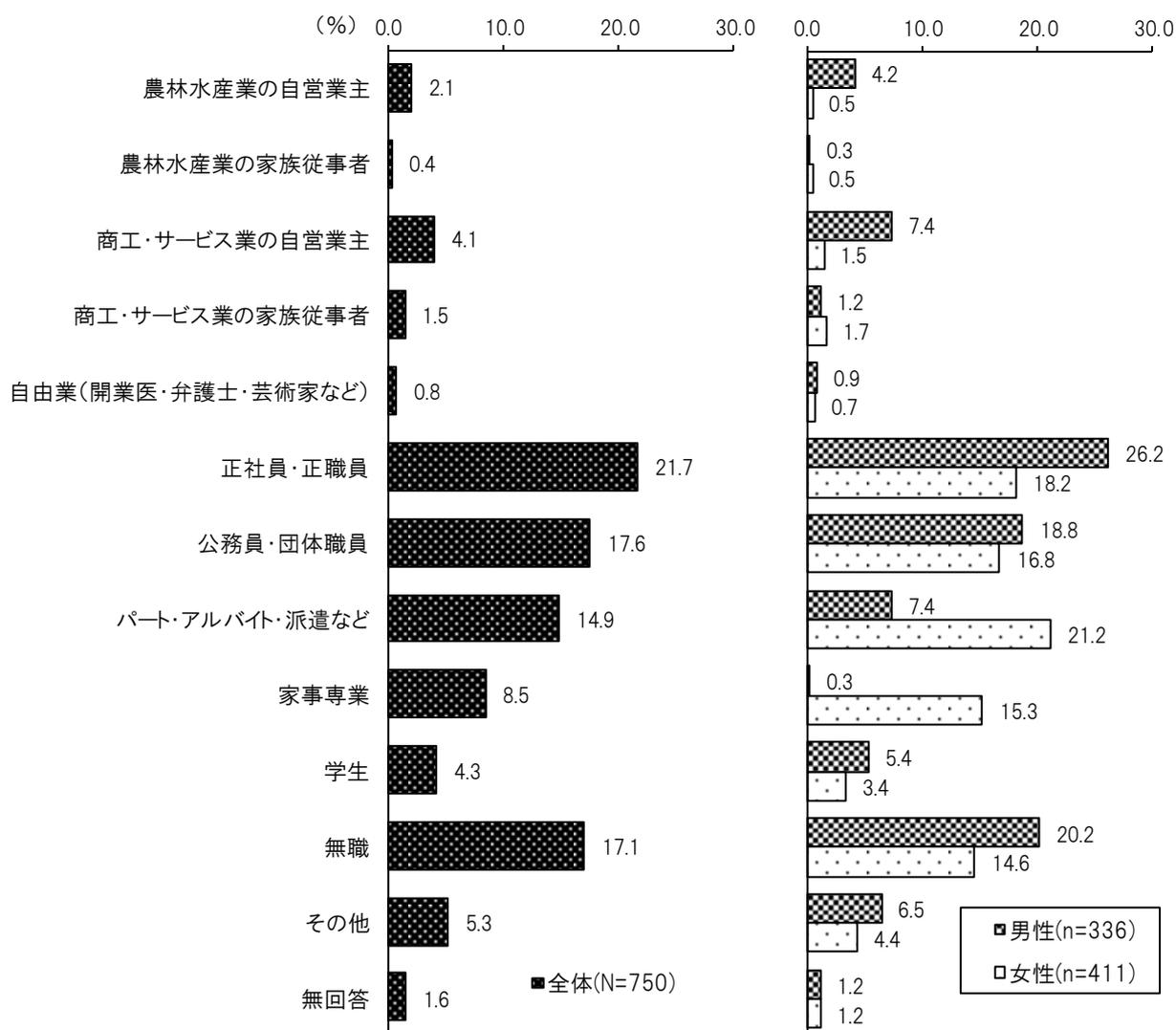


3 職業別構成

職業別構成については、「正社員・正職員」の割合が21.7%と最も高く、次いで「公務員・団体職員」(17.6%)、「無職」(17.1%)、「パート・アルバイト・派遣など」(14.9%)の順となっている。

『農林水産業』は「自営業主」(2.1%)と「家族従事者」(0.4%)を合計して2.5%、同様に『商工・サービス業』の「自営業主」と「家族従事者」の合計は5.6%となっている。

性別でみると、男性は女性に比べ「正社員・正職員」「無職」の割合が高く、女性は「パート・アルバイト・派遣など」「家事専業」が男性を大きく上回っている。

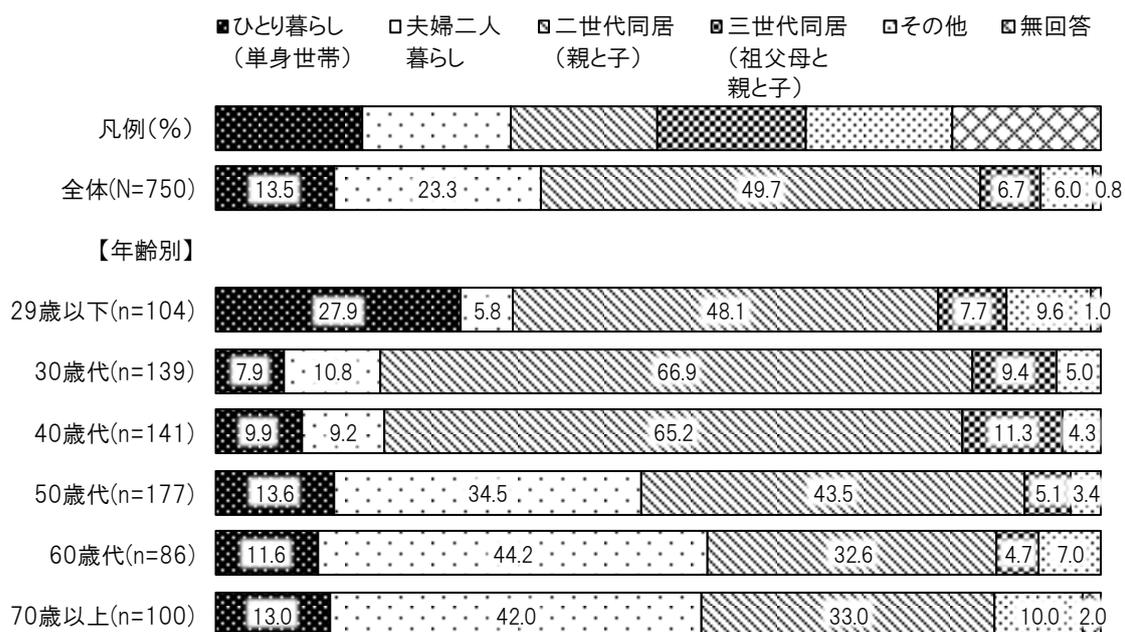


4 世帯構成

(1) 同居家族構成

同居家族の構成は、「二世帯同居（親と子）」の割合が49.7%と最も高く、次いで「夫婦二人暮らし」（23.3%）、「ひとり暮らし（単身世帯）」（13.5%）の順となっている。

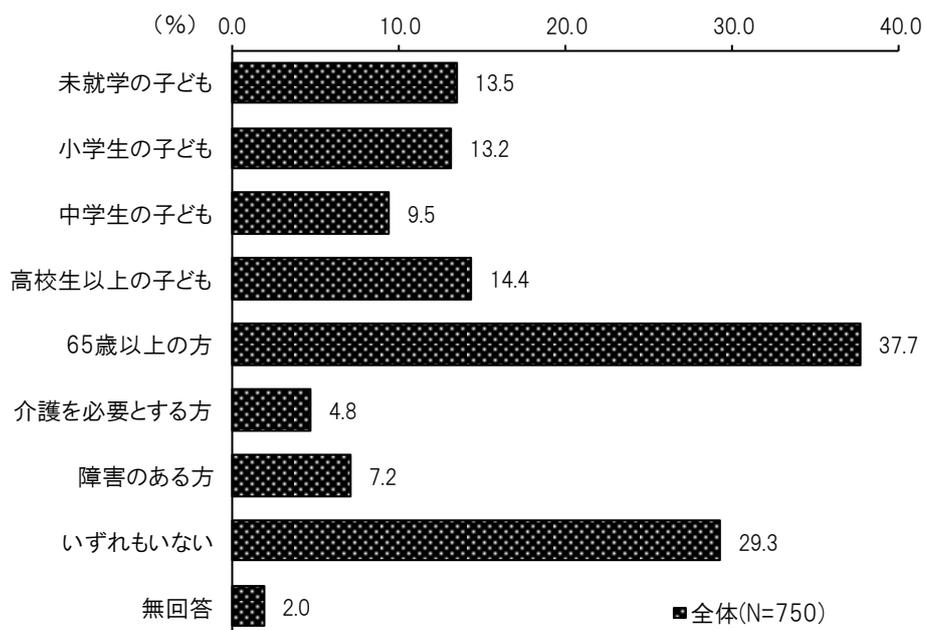
年齢別では、29歳以下で「ひとり暮らし（単身世帯）」、30～40歳代で「二世帯同居（親と子）」が他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっている。また、50歳代以上の年齢層では「夫婦二人暮らし」が高くなっている。



(2) 同居家族の内訳

同居家族の内訳をみると、「65歳以上の方」の割合が37.7%と最も高く、次いで「高校生以上の子ども」(14.4%)、「未就学の子ども」(13.5%)、「小学生の子ども」(13.2%)の順となっている。

年齢別でみると、30歳代で「未就学の子ども」、30～40歳代で「小学生の子ども」や「中学生の子ども」の割合がそれぞれ高くなっている。また、70歳以上で「介護を必要とする方」が他の年齢層に比べて高くなっている。



	未就学の子ども	小学生の子ども	中学生の子ども	高校生以上の子ども	65歳以上の方	介護を必要とする方	障害のある方	いずれもない
全体(N=750)	13.5	13.2	9.5	14.4	37.7	4.8	7.2	29.3
【年齢別】								
29歳以下(n=104)	16.3	3.8	7.7	16.3	14.4	0.0	4.8	51.0
30歳代(n=139)	37.4	25.9	10.8	5.0	23.0	1.4	5.8	25.2
40歳代(n=141)	17.7	31.9	22.0	19.9	26.2	2.8	7.8	18.4
50歳代(n=177)	2.3	6.2	6.2	20.9	26.0	4.5	7.9	45.8
60歳代(n=86)	1.2	1.2	2.3	11.6	61.6	9.3	9.3	29.1
70歳以上(n=100)	2.0	2.0	4.0	9.0	100.0	14.0	8.0	0.0

注:表中の「網掛け」は、年齢別クロス集計において最も高い割合を示している(最も割合が高い年齢層に網掛け)。但し、回答割合が10%未満の項目については網掛けしていない。また、「無回答」は表記から省略している。

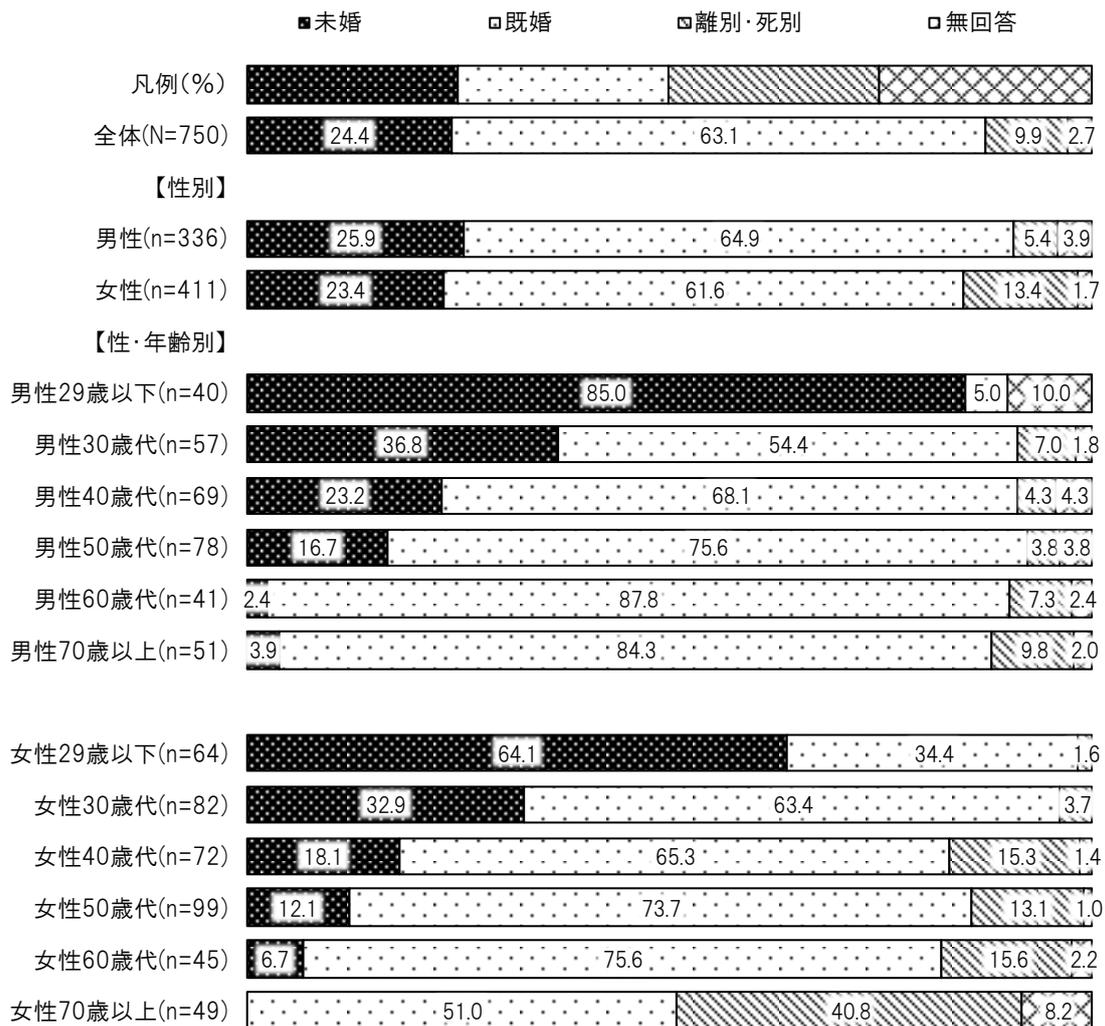
5 未既婚

(1) 未既婚

未既婚については、「既婚」の割合が 63.1%を占めており、「未婚」は 24.4%となっている。

性別では、女性は「離別・死別」の割合がやや高い。

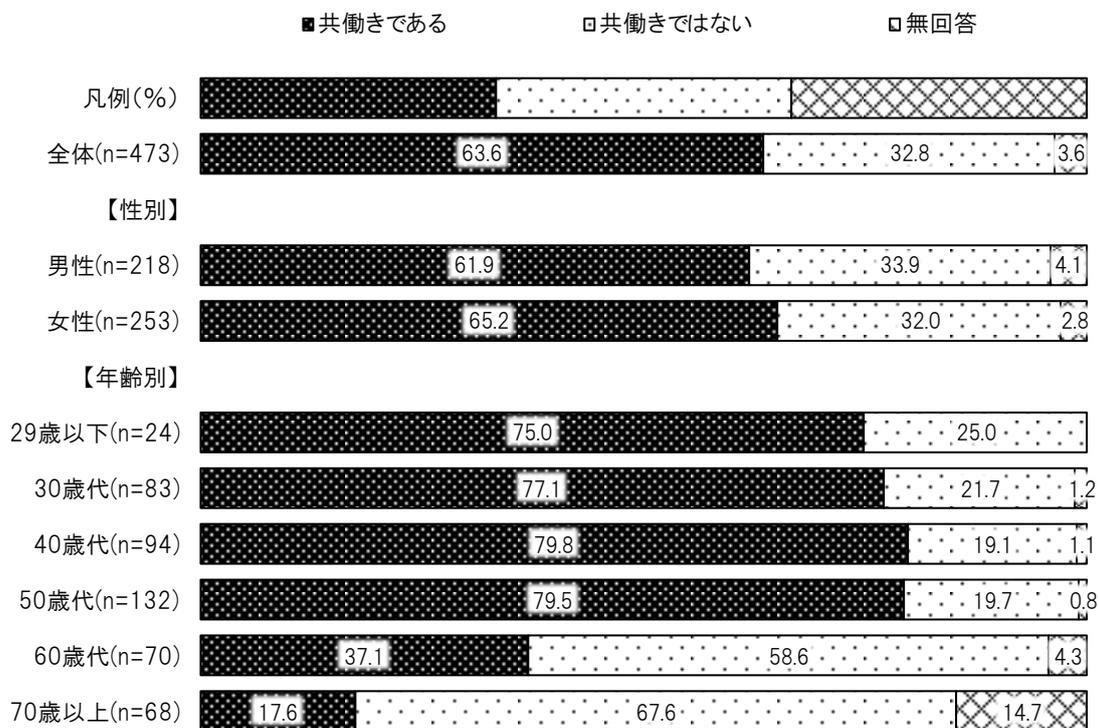
年齢別では、男女ともに若い年齢層ほど未婚率が高い傾向にあり、特に、男性 29 歳以下では 8 割以上を占める。また、女性 70 歳以上で「離別・死別」が他の年齢を大きく上回っている。



(2) 共働きの状況

既婚者のうち、「共働きである」の割合が 63.6%、「共働きではない」が 32.8%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では 50 歳代以下の各年齢層で「共働きである」割合が 7 割以上を占めている。



Ⅲ 調査結果

【1】男女平等意識について

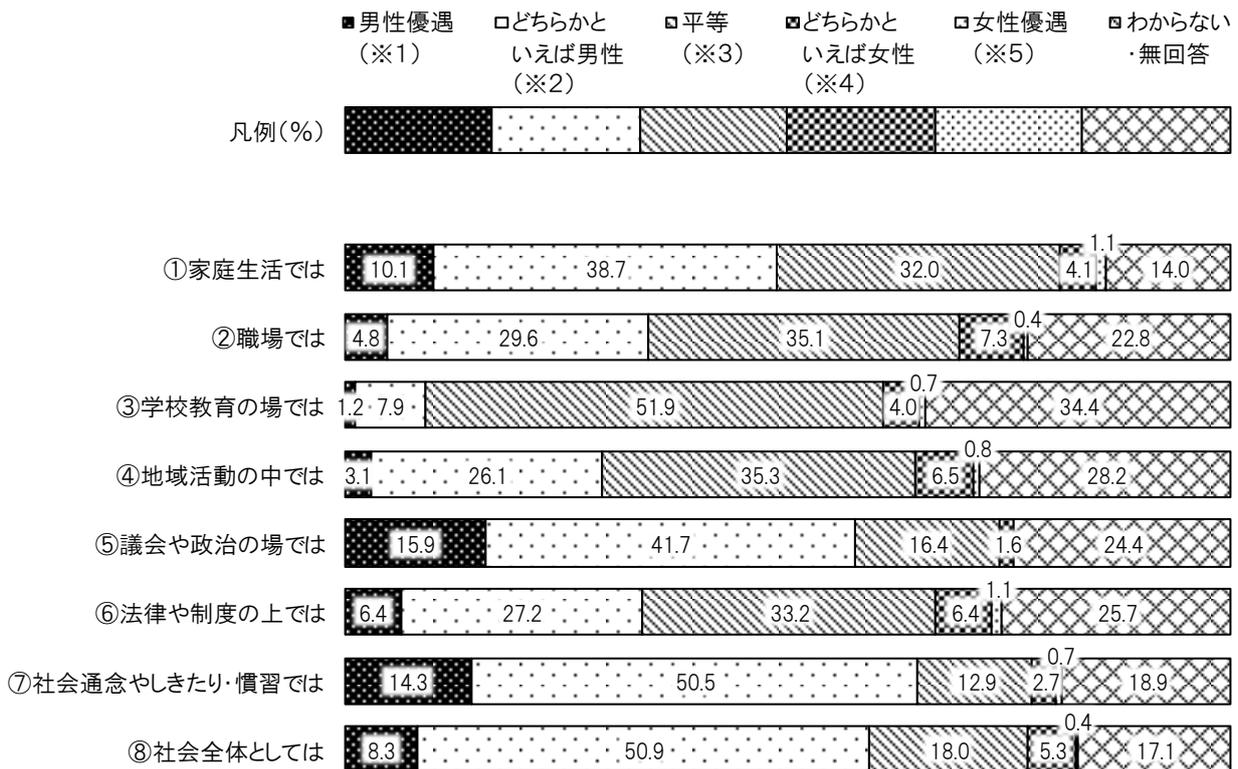
1 男女の地位の平等意識

問8 あなたは、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
①～⑧のそれぞれについてお答えください。（○印1つつ）

男女の地位の平等意識に関するすべての分野において、『男性優遇※』意識が『女性優遇※』意識を上回っている。

『男性優遇』意識が高い順に、「⑦社会通念やしきたり・慣習」(64.8%)、「⑧社会全体」(59.2%)、「⑤議会や政治の場」(57.6%)、「①家庭生活」(48.8%)となっている。

一方、「平等になっている」割合が高い項目としては、「③学校教育の場」が51.9%と過半数を占め最も高く、以下「④地域活動の中」(35.3%)、「②職場」(35.1%)、「⑥法律や制度の上では」(33.2%)の順となっている。

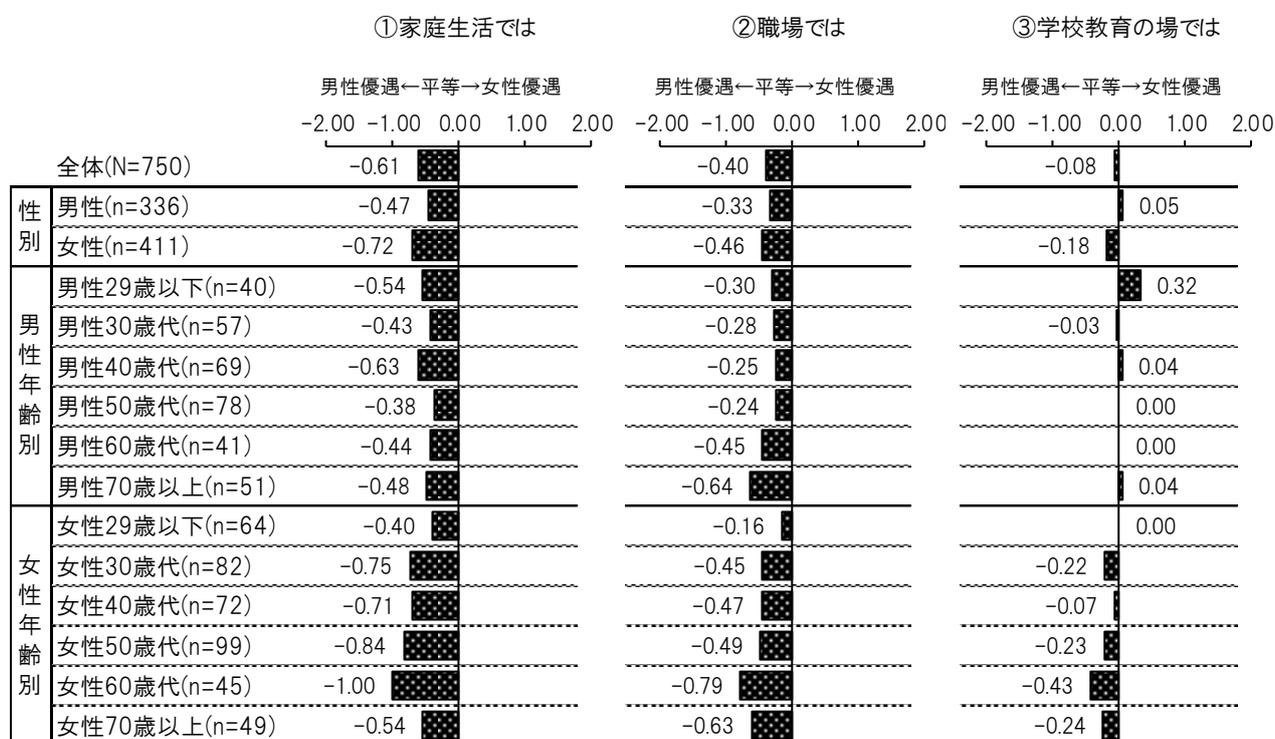


- ※1 男性の方が非常に優遇されている
- ※2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ※3 平等になっている
- ※4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ※5 女性の方が非常に優遇されている

※「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』とする。

平均評定値*による属性別傾向をみると、性別では、全ての項目において、女性は男性に比べ『男性優遇』意識が高くなっている。

『男性優遇』意識が高い年齢層をみると、特に「①家庭生活」「②職場」「③学校教育」では女性60歳代が高く、「⑤議会や政治の場」では女性の若い年齢層ほど高い傾向にある。



※平均評定値による属性別傾向

平均評定値とは、「男性の方が非常に優遇されている」に-2点、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」に-1点、「平等になっている」に0点、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」に+1点、「女性の方が非常に優遇されている」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど男性優遇、+2点に近いほど女性優遇、0点に近いほど平等を示す指標である。また、この数値はあくまでも「統計上の指標」であり、マイナス、プラスによって男女の優劣を判定するものではない。

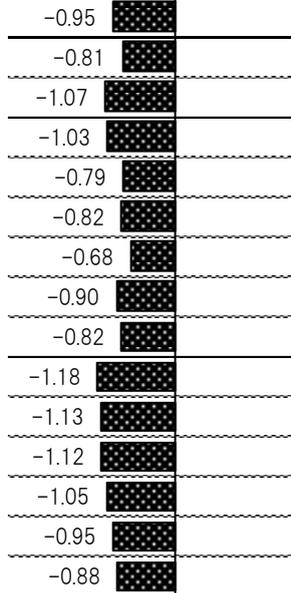
④地域活動の中では

男性優遇←平等→女性優遇
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



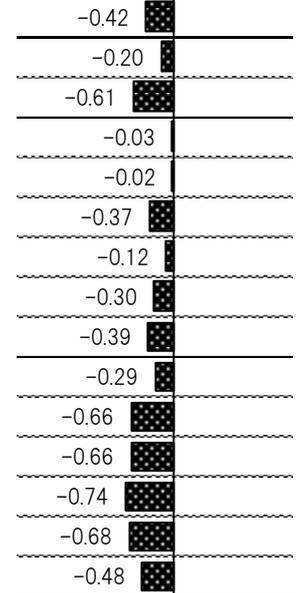
⑤議会や政治の場では

男性優遇←平等→女性優遇
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



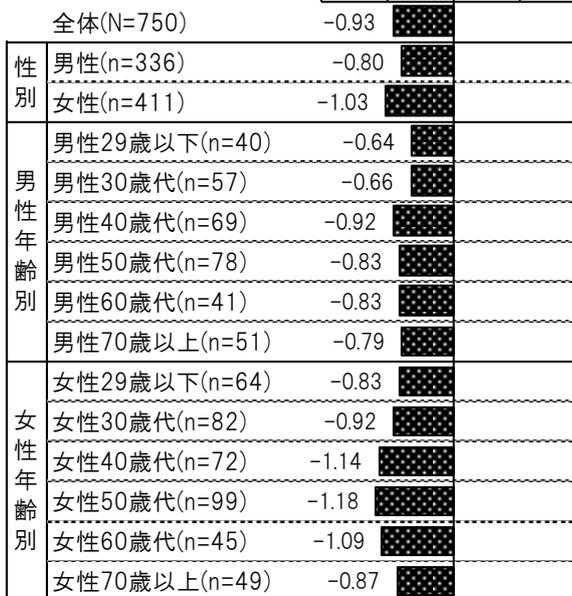
⑥法律や制度の上では

男性優遇←平等→女性優遇
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



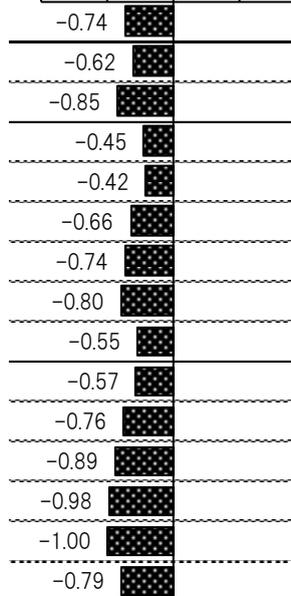
⑦社会通念やしきたり・慣習では

男性優遇←平等→女性優遇
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



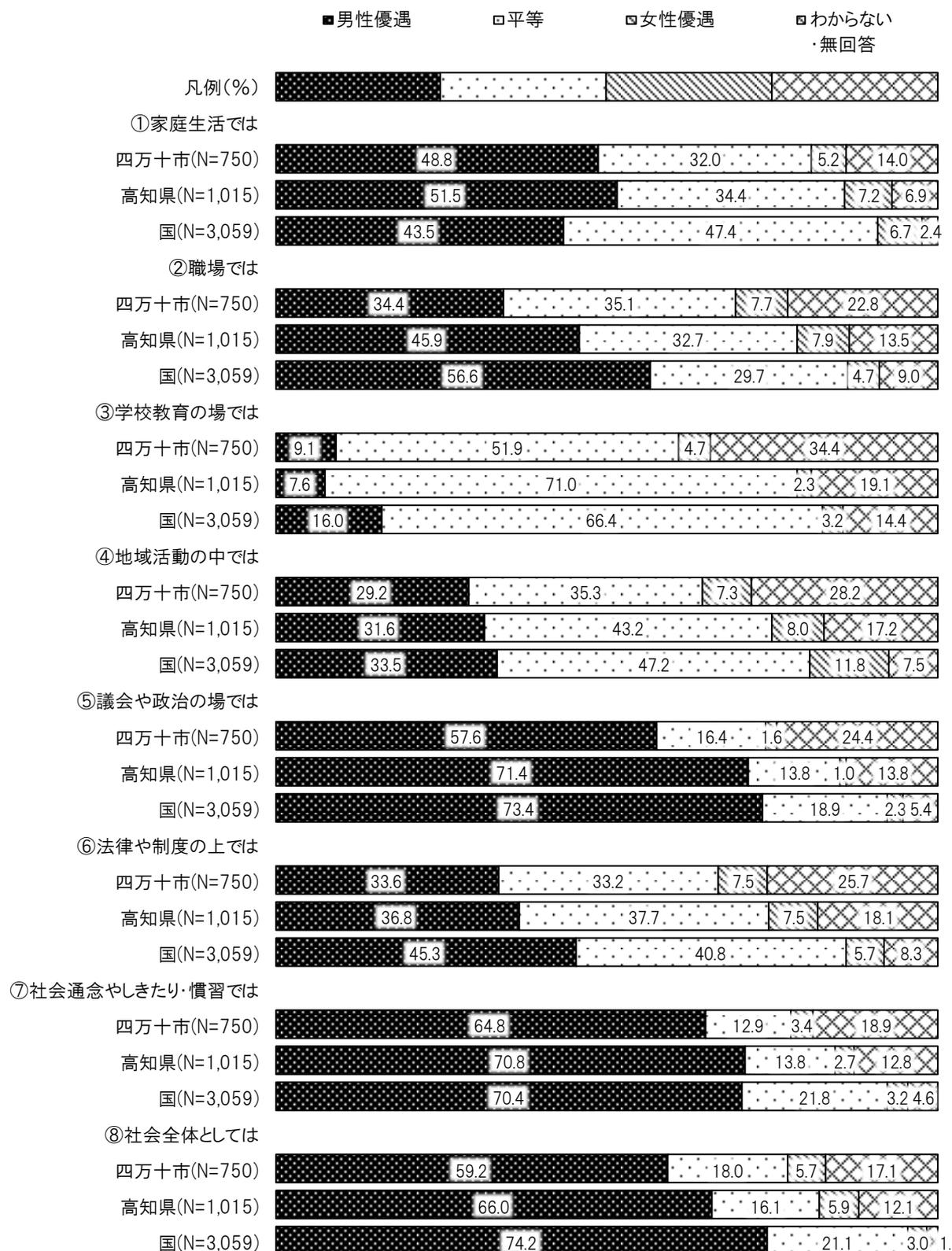
⑧社会全体としては

男性優遇←平等→女性優遇
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



参考／高知県・国との比較

高知県や国と比較すると、「②職場」「⑤議会や政治の場」「⑧社会全体」などで、四万十市は国や県の『男性優遇』意識を下回っている。一方で「①家庭生活」では国の割合を上回っている。



【2】職業生活について

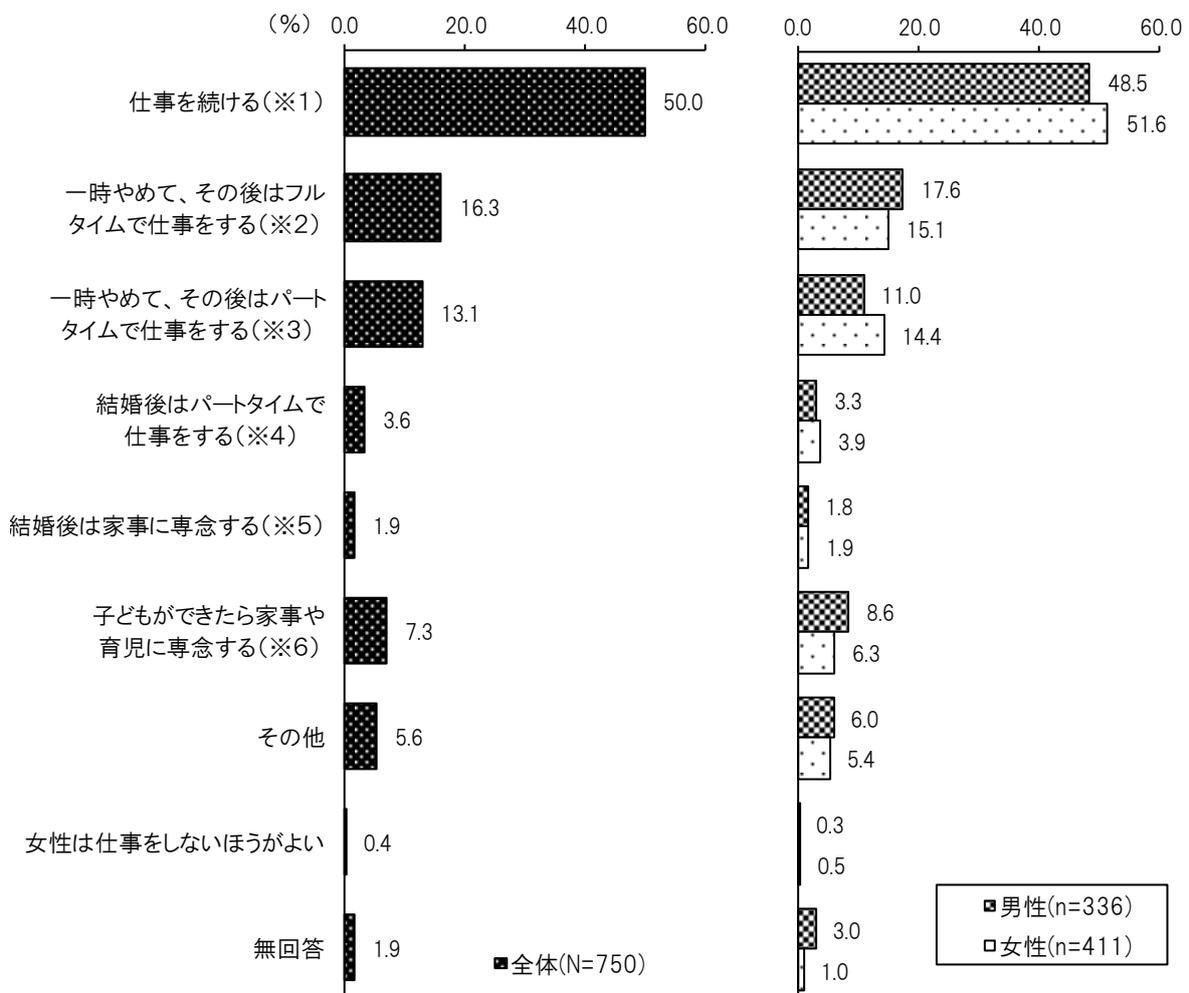
1 女性の働き方について

(1) 望ましいと思う女性の働き方

問9 女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の働き方として「望ましい」と思うのはどれですか。(○印1つ)

女性の望ましい働き方については、「結婚や出産に関わらず仕事を続ける(産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む)」の割合が50.0%と最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」(16.3%)、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」(13.1%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」がやや高く、女性は「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」が男性をやや上回るが、大きな差はみられない。



※1 結婚や出産に関わらず仕事を続ける(産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む)

※2 子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする

※3 子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする

※4 結婚するまでは仕事をして、結婚後はパートタイムで仕事をする

※5 結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念する

※6 子どもができるまでは仕事をするが、子どもができたら家事や育児に専念する

職業別でみると、公務員・団体職員では、約7割が「結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む）」と回答している。農林水産・自営の家族従業者では「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイム（またはパートタイム）で仕事をする」が高くなっている。学生・その他では、他の層に比べ「子どもができるまでは仕事をするが、子どもができたら家事や育児に専念する」の割合が高くなっている。

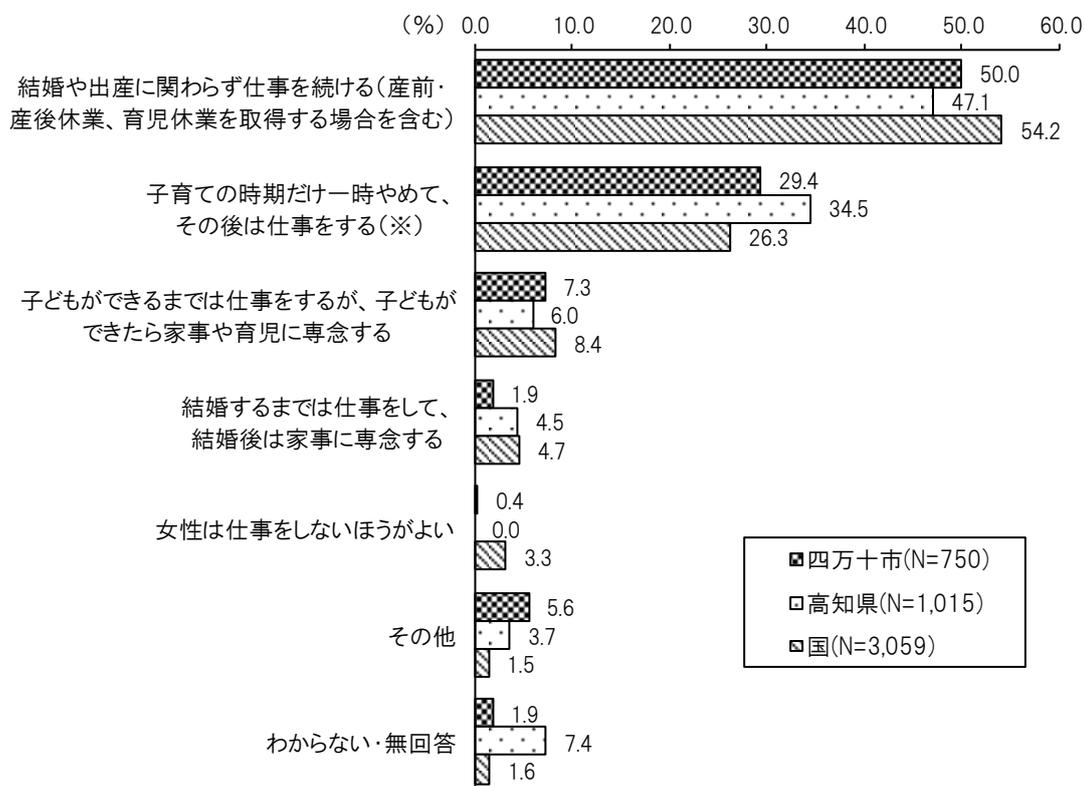
	(※1) 仕事を続ける	は一時 フルタイム (※2) でその後	は一時 パートタイム (※3) でその後	(※4) 結婚後は パートタイ ムで仕事 をする	結婚後 (※5) は家事に 専念す	(※6) 子どもが できたら 専念する	その他	女性が よい仕事 をしない
全体(N=750)	50.0	16.3	13.1	3.6	1.9	7.3	5.6	0.4
【職業別】								
農林水産業(n=19)	36.8	10.5	26.3	5.3	5.3	5.3	5.3	0.0
農林水産・自営の家族従業者(n=14)	35.7	28.6	28.6	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
商工サービス・自由業(n=48)	41.7	27.1	10.4	2.1	0.0	10.4	6.3	0.0
正社員・正職員(n=163)	54.6	13.5	16.0	4.3	0.0	4.3	6.7	0.0
公務員・団体職員(n=132)	71.2	15.2	4.5	0.8	0.8	0.8	6.8	0.0
パート・アルバイト(n=112)	42.9	15.2	17.0	6.3	3.6	6.3	8.0	0.9
家事専業(n=64)	39.1	15.6	23.4	3.1	3.1	10.9	1.6	0.0
無職(n=128)	50.0	15.6	9.4	3.9	3.9	10.2	2.3	0.8
学生・その他(n=72)	34.7	19.4	9.7	4.2	1.4	19.4	5.6	0.0

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(上表では職業別)において最も高い割合を示している。

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。
また「無回答」は表記を省略している。(本書においては以下同様)

参考／高知県・国との比較

高知県や国と比較すると、四万十市はおおむね国や県と同傾向にあるが、「結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む）」が県の割合をやや上回っている。また、「子育ての時期だけ一時やめて、その後は仕事をする（※）」は、県をやや下回っている。

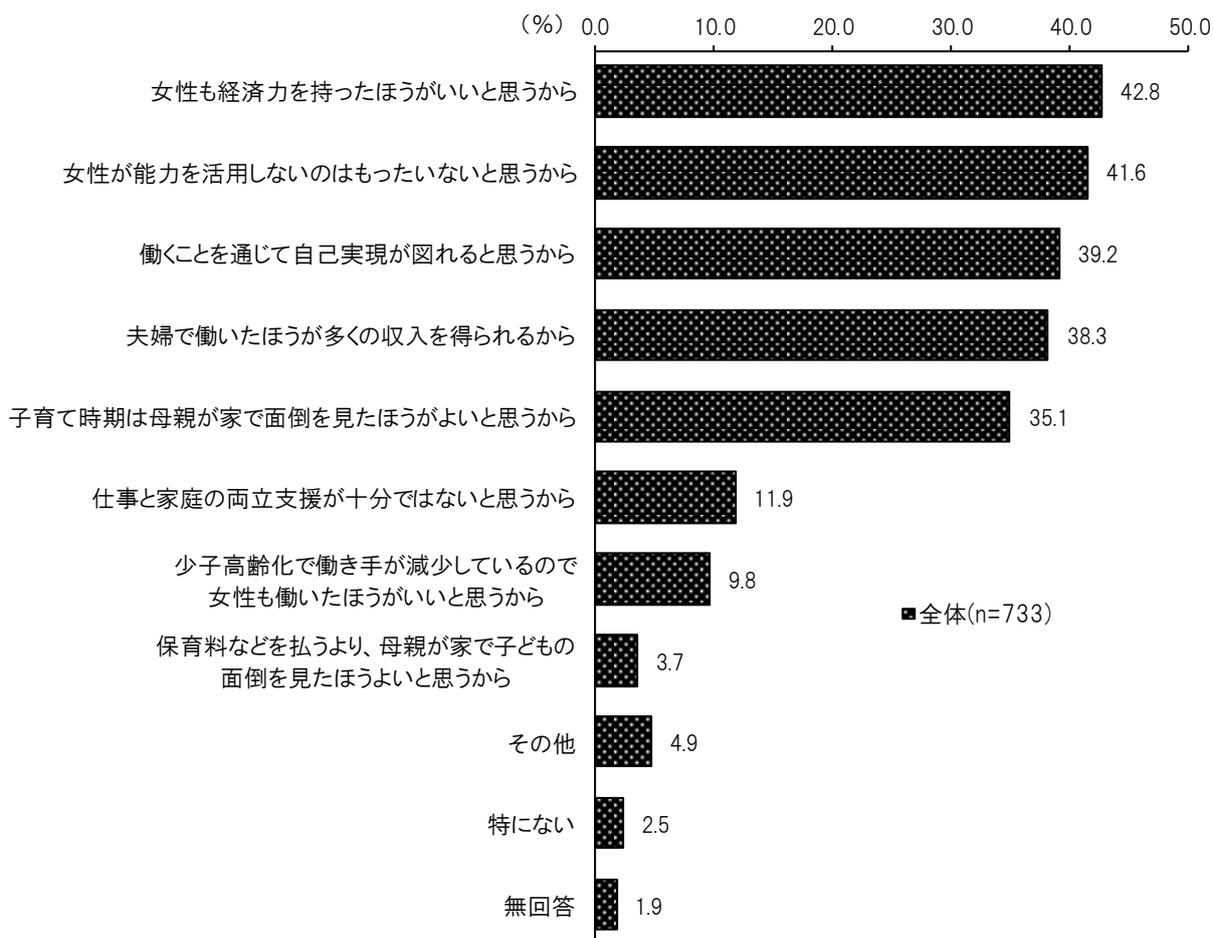


※四万十市、県については、国と比較するために「フルタイムで仕事をする」と「パートタイムで仕事をする」を合算している。

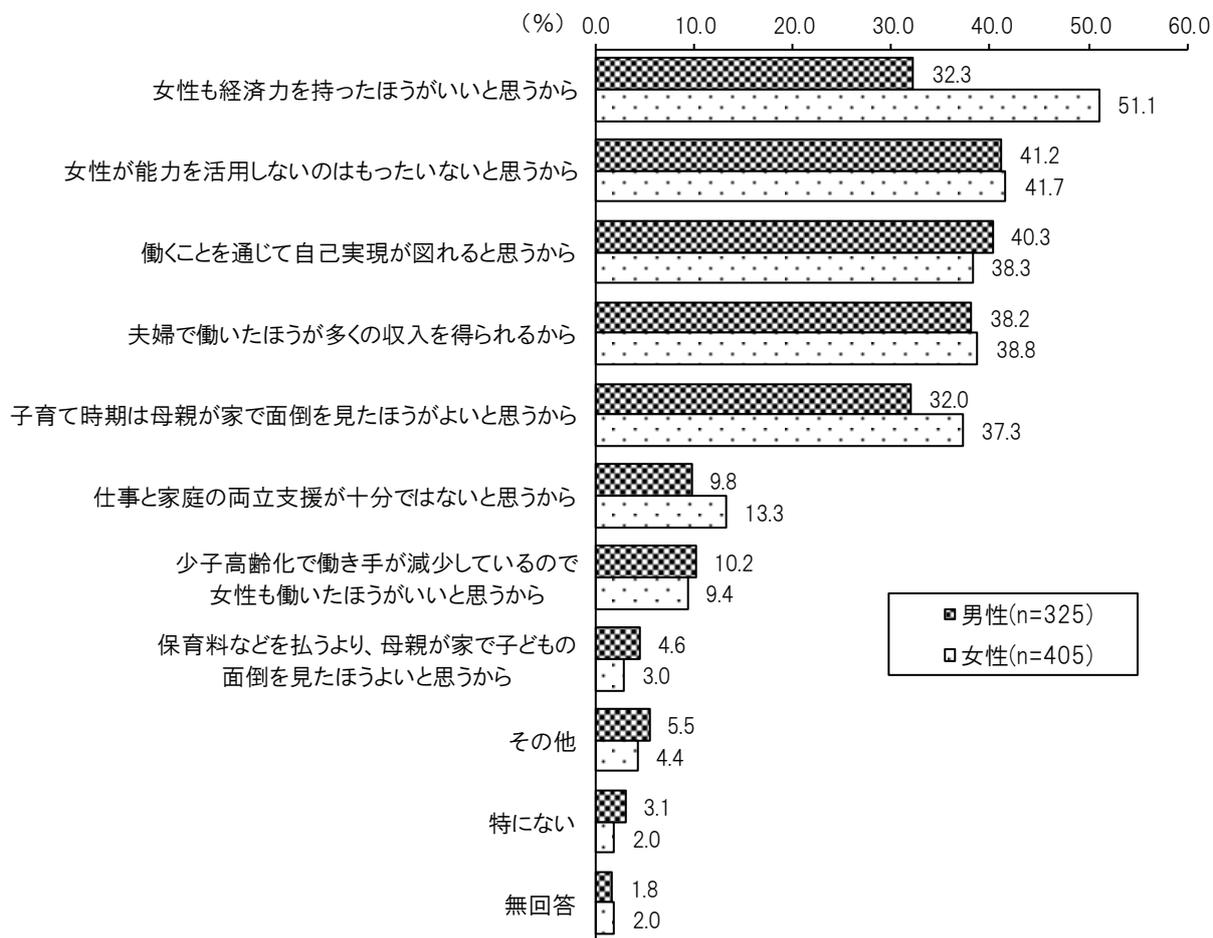
(2) 女性が仕事をしたほうがよいと思う理由

問 10 【問9で「1～7」と回答した人におたずねします】 そのように回答された理由は何ですか。(○印いくつでも)

女性が仕事をしたほうがよいと思う理由については、「女性も経済力を持ったほうがよいと思うから」の割合が42.8%と最も高く、ほぼ並んで「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」(41.6%)、「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」(39.2%)、「夫婦で働いたほうが多くの収入を得られるから」(38.3%)が続いている。



性別でみると、女性は「女性も経済力を持ったほうが良いと思うから」「子育て時期は母親が家で面倒を見たほうがよいと思うから」などで男性を上回っている。



2 進路や職業選択時の性別意識

問 11 あなたは、進路や職業を選ぶ時に、性別を意識しましたか。(○印1つ)

進路や職業選択時の性別意識については、「性別をほとんど(全く)意識せずに選んだ」の割合が50.5%と最も高く、「どちらかといえば性別は意識しなかった」(19.3%)を合わせて合計で約7割(69.8%)が『性別を意識しなかった』と回答している。一方、「性別をかなり意識して選んだ」(3.2%)、「どちらかといえば性別を意識した」(12.5%)を合わせると15.7%が『性別を意識した』と回答している。

『性別を意識した(合計)』割合は、性別では女性、性・年齢別では、女性の40歳代以上で高い傾向にあり、特に女性60歳代では「性別をかなり意識して選んだ」割合が最も高くなっている。一方で、男女ともに若い年齢層ほど「性別をほとんど(全く)意識せずに選んだ」が高い傾向にある。

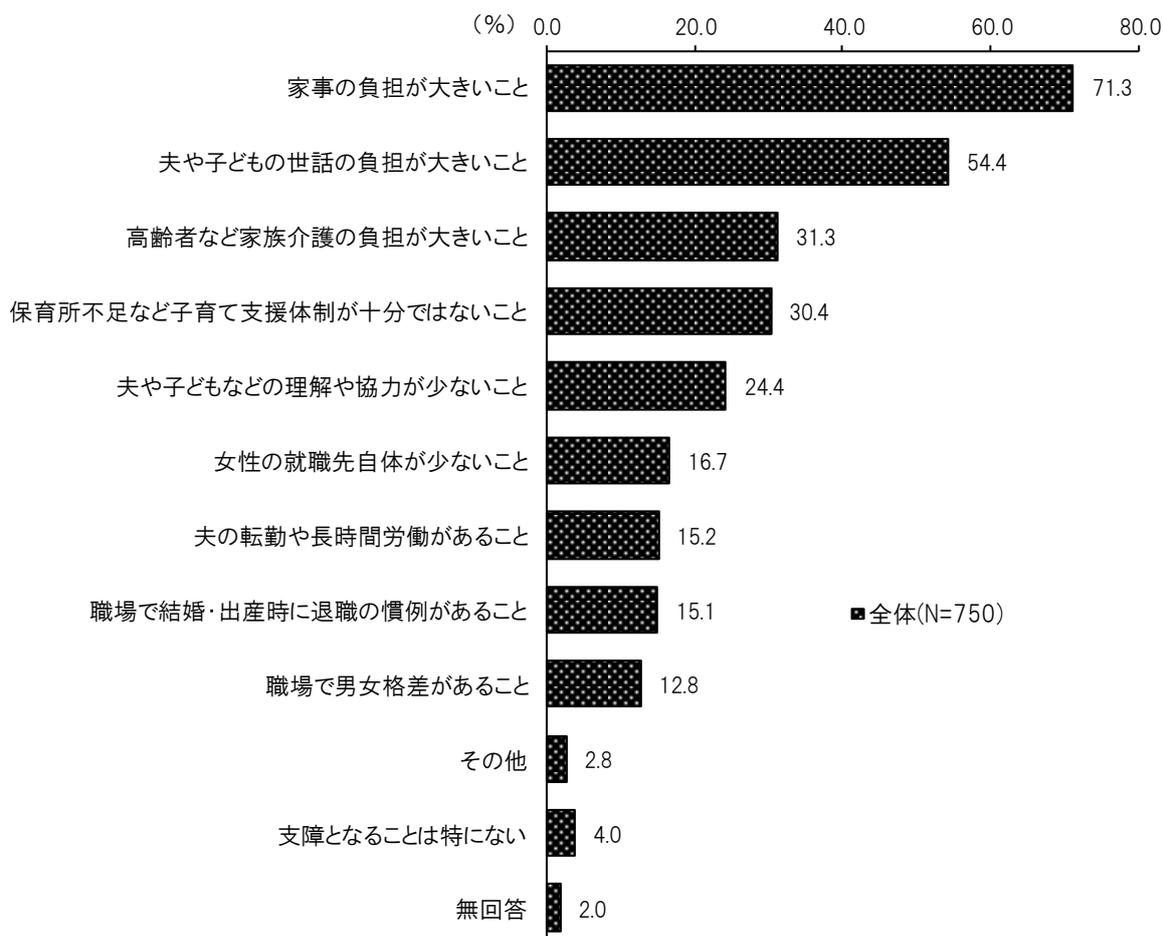


- ※1 性別をかなり意識して選んだ
- ※2 どちらかといえば性別を意識した
- ※3 どちらかといえば性別は意識しなかった
- ※4 性別をほとんど(全く)意識せずに選んだ

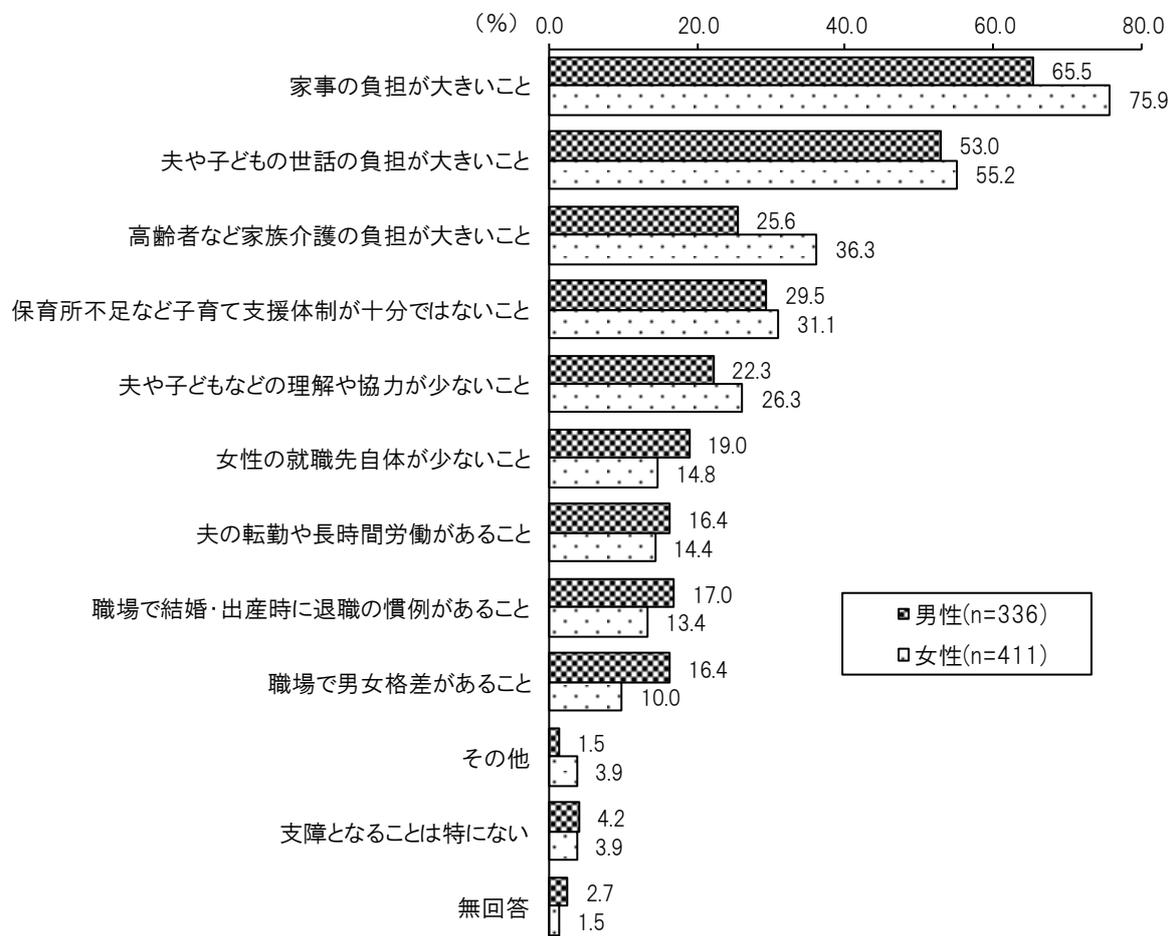
3 女性が働く上で支障となること

問 12 あなたは、女性が働く上で支障となることは、どのようなことだと思いますか。
(○印いくつでも)

女性が働く上で支障となることについては、「家事の負担が大きいこと」の割合が71.3%と最も高く、次いで「夫や子どもの世話の負担が大きいこと」(54.4%)、「高齢者など家族介護の負担が大きいこと」(31.3%)、「保育所不足など子育て支援体制が十分ではないこと」(30.4%)、「夫や子どもなどの理解や協力が少ないこと」(24.4%)の順となっている。



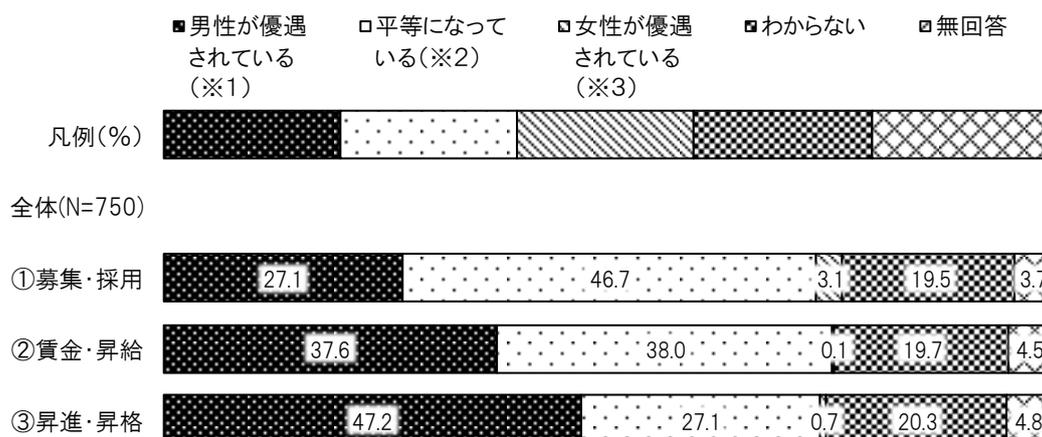
性別でみると、男性は女性に比べ「職場で男女格差があること」の割合が高く、女性は「家事の負担が大きいこと」「高齢者など家族介護の負担が大きいこと」などで、男性を大きく上回っている。



4 職場での男女の扱い

問 13 職場での男女の扱いについては、平等になっていると思いますか。①～③のそれぞれについてお答えください。(○印1つつつ)

職場での男女の扱いについては、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高い順に「③昇進・昇格」(47.2%)、「②賃金・昇給」(37.6%)、「①募集・採用」(27.1%)の順となっている。「①募集・採用」は「ほぼ平等になっている」の割合が半数近く(46.7%)を占め最も高くなっている。

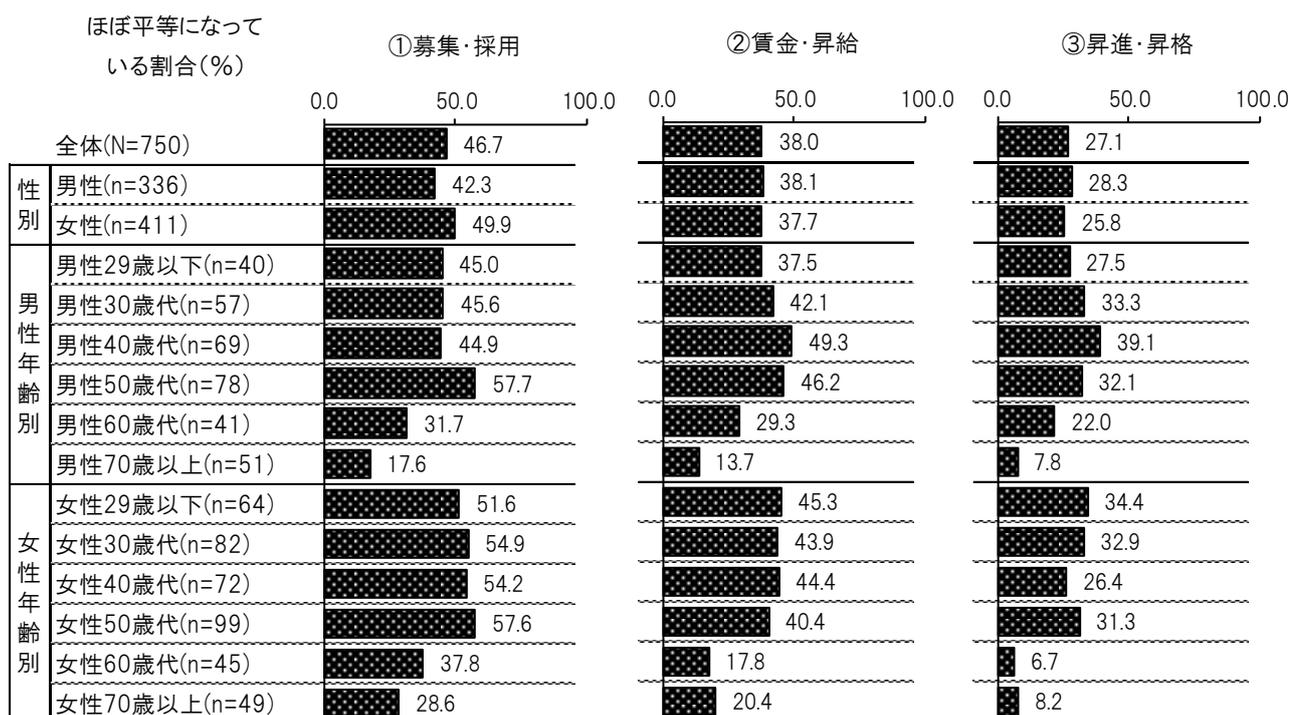


※1 どちらかといえば男性の方が優遇されている

※2 ほぼ平等になっている

※3 どちらかといえば女性の方が優遇されている

「ほぼ平等になっている」の割合は、性別では大きな差はみられないが、男女ともに年齢が上がるほど低い傾向にある。



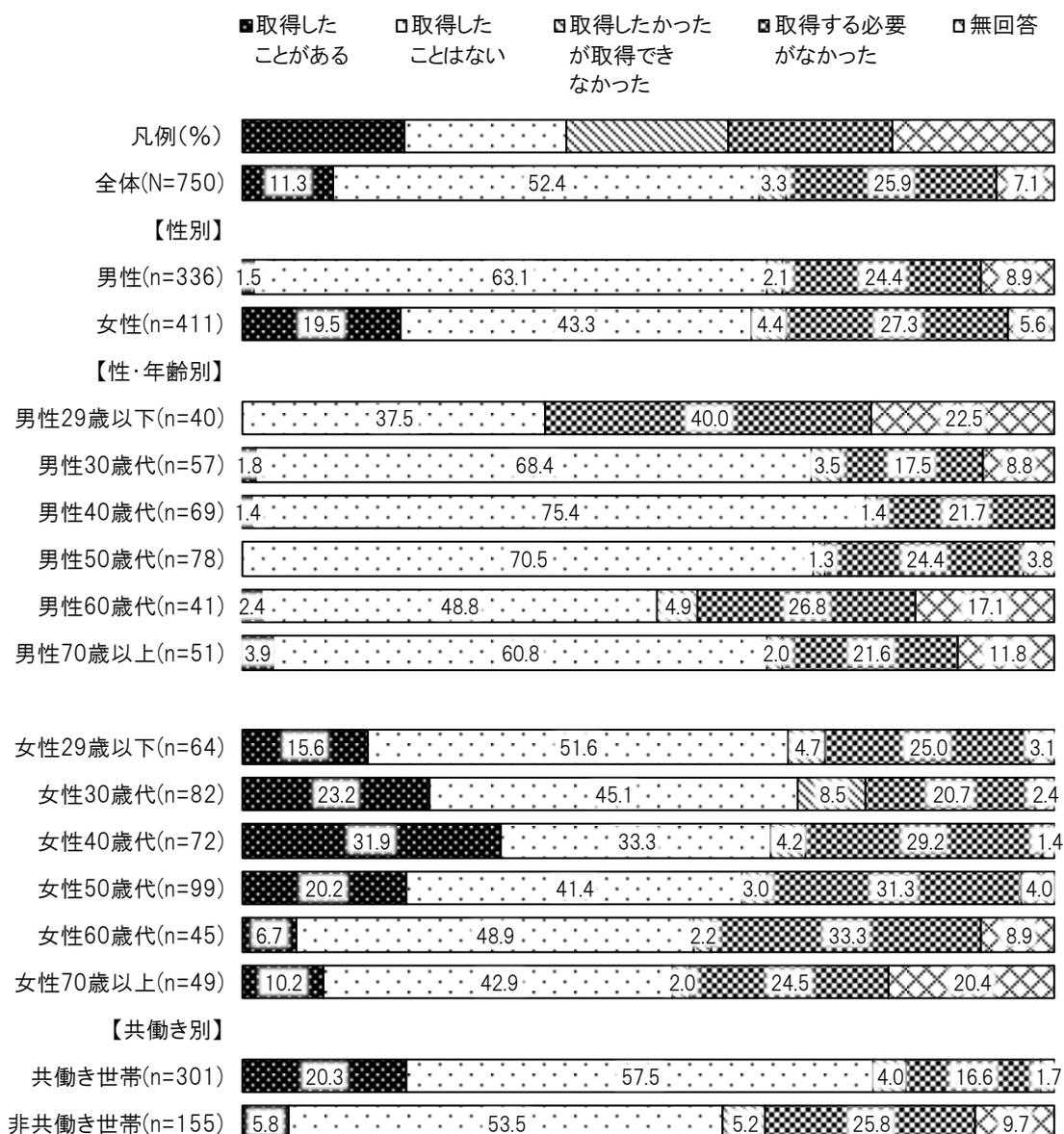
5 育児休業・介護休業取得状況

(1) 育児休業取得状況

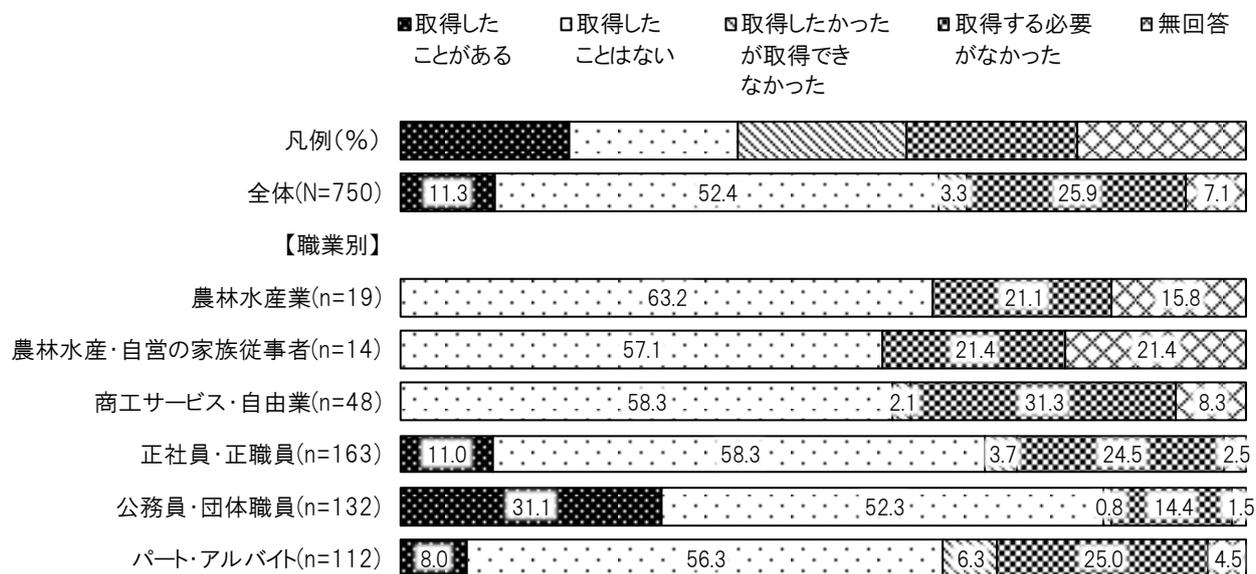
問 14 あなたは、これまでに①育児休業（産前・産後休業を除く）や、②介護休業を取得したことがありますか。（○印1つつつ）

育児休業取得状況については、「取得したことがある」の割合が11.3%、「取得したことはない」は52.4%となっている。

「取得したことがある」割合は、性別では男性が1.5%、女性は19.5%となっている。性・年齢別でみると、女性40歳代では3割を超え、他の年齢層を大きく上回っている。また、共働き世帯で「取得したことがある」割合が高くなっている。



さらに、職業別でみると、「取得したことがある」割合は公務員・団体職員で3割を超えて最も高く、他の層を大きく上回っている。

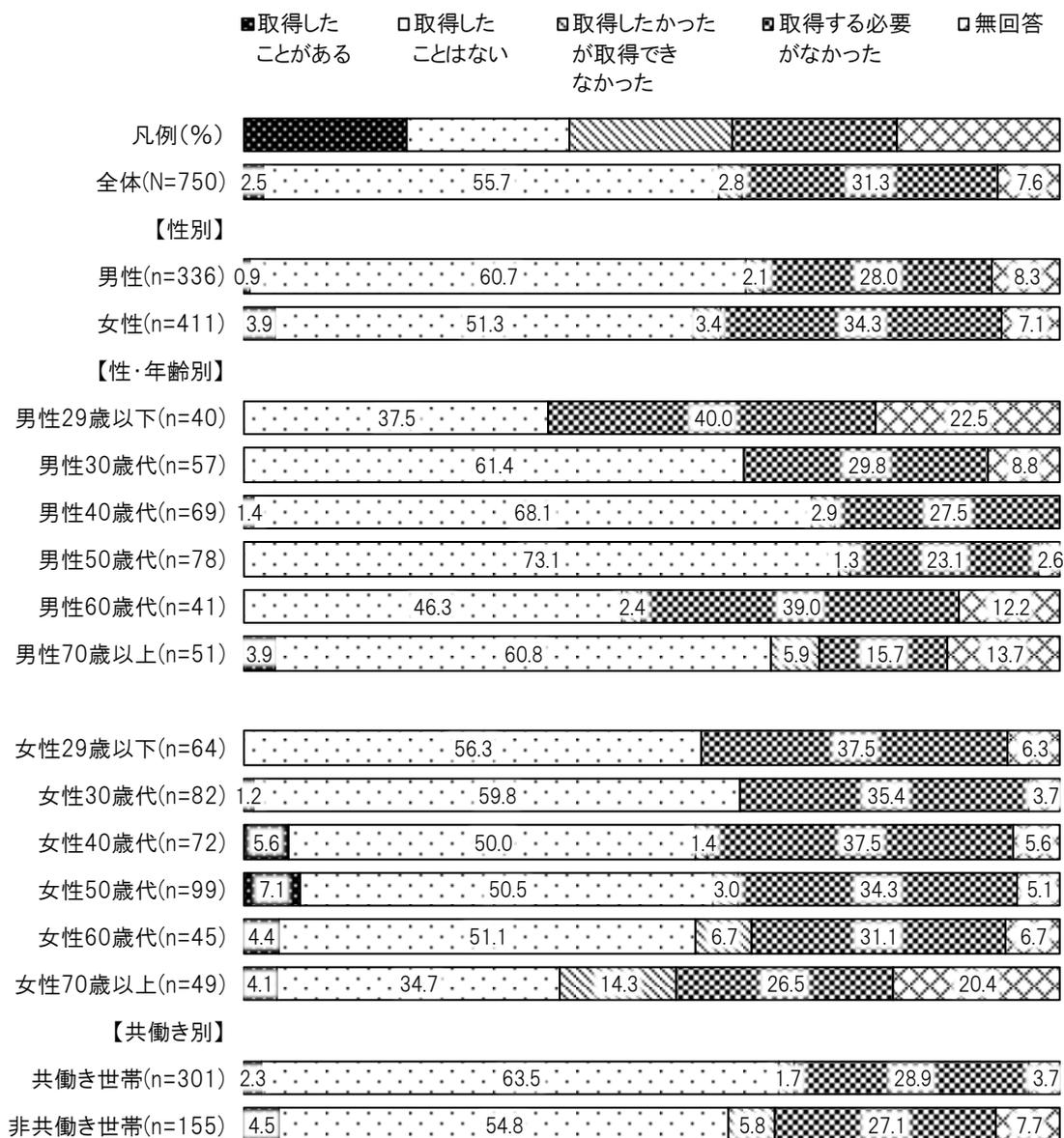


(2) 介護休業取得状況

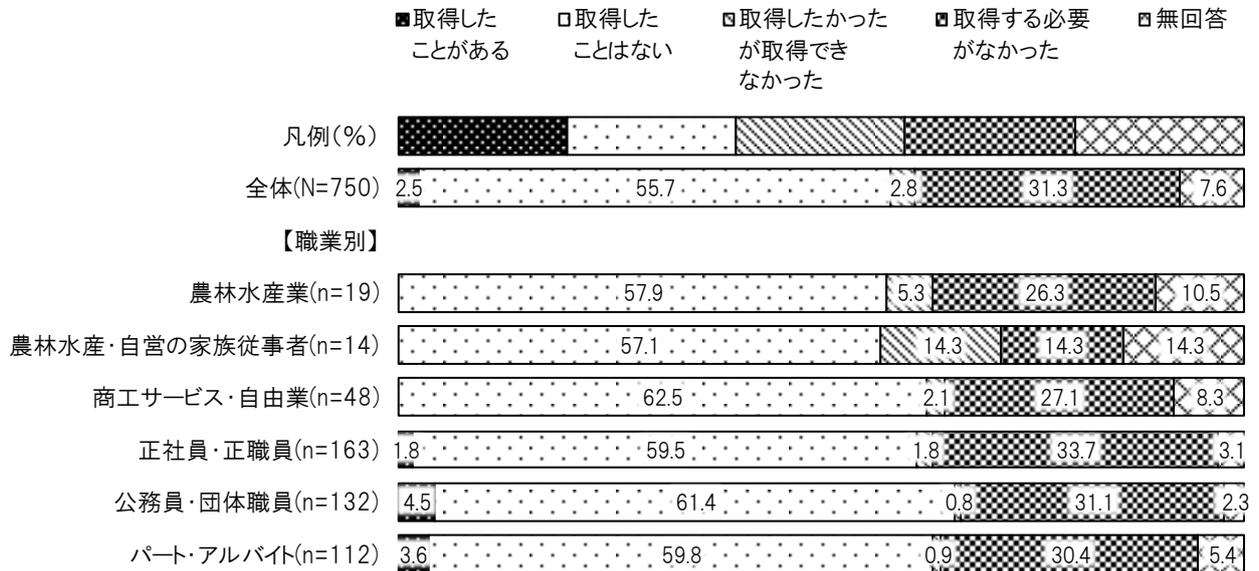
介護休業取得状況については、「取得したことがある」の割合が 2.5%、「取得したことはない」は 55.7%となっている。

「取得したことがある」割合は、性別では男性が 0.9%、女性は 3.9%となっている。性・年齢別でみると、女性 40～50 歳代でやや高くなっている。

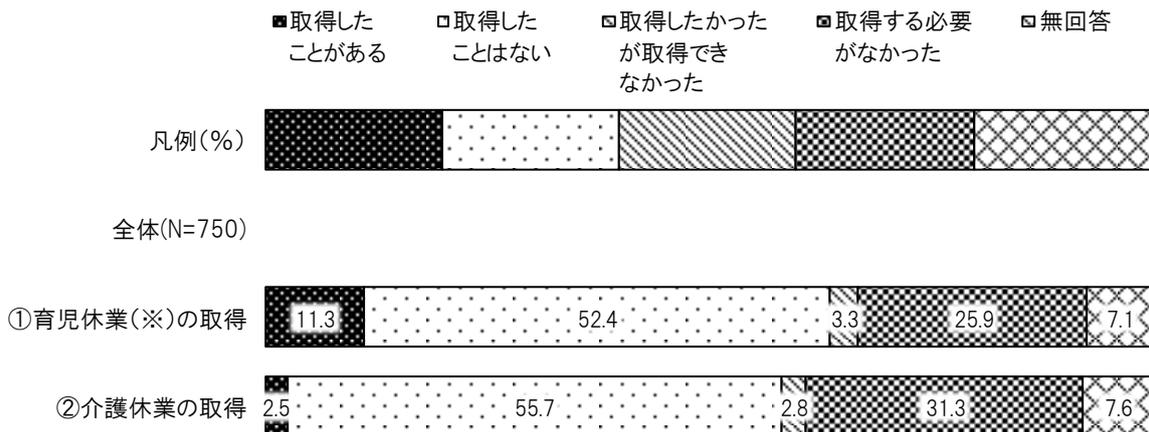
共働きの有無による大きな差はみられない。



さらに、職業別でみると、「取得したことがある」割合は、いずれの層でも低いですが、公務員・団体職員でやや高くなっている。



再掲／育児休業・介護休業取得状況比較



※産前・産後休業を除く

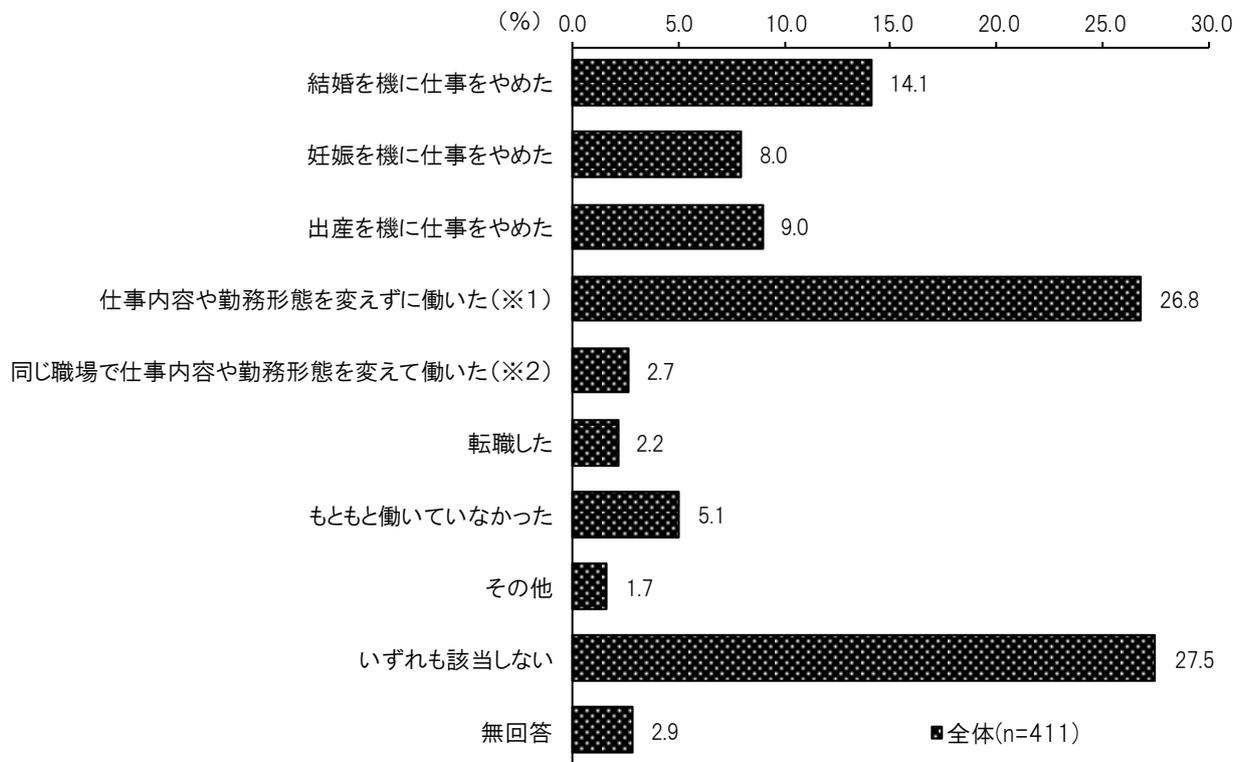
6 女性の働き方の変化

(1) 結婚や妊娠・出産の際の働き方の変化

問 15 【問 15 は女性の方のみにおたずねします。男性の方は問 17 へお進みください。】
あなたは、これまでに結婚や妊娠・出産の際に、働き方に変化がありましたか。
(○印 1 つ)

女性における結婚や妊娠・出産の際の働き方の変化については、「仕事内容や勤務形態を変えずに働いた（産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む）」の割合が 26.8% と最も高く、次いで「結婚を機に仕事をやめた」が 14.1% で続いている。

「結婚を機に仕事をやめた」「妊娠を機に仕事をやめた」「出産を機に仕事をやめた」を合計した『仕事をやめた』割合は、合計で 3 割を超えている（31.1%）。



※1 産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む

※2 フルタイムからパートタイムなど

女性 50 歳代では、他の年齢層に比べ「結婚を機に仕事をやめた」割合が高く、30 歳代では「妊娠を機に仕事をやめた」、40 歳代では「出産を機に仕事をやめた」割合がそれぞれ他の年齢層を上回っている。70 歳以上では「仕事内容や勤務形態を変えずに働いた（産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む）」が最も高くなっている。

	結婚を機に仕事をやめた	妊娠を機に仕事をやめた	出産を機に仕事をやめた	仕事内容や勤務形態を変えずに働いた（※1）	同じ職場で仕事内容や勤務形態を変えた（※2）	転職した	もともと働いていなかった	その他	いずれも該当しない
女性(n=411)	14.1	8.0	9.0	26.8	2.7	2.2	5.1	1.7	27.5
【年齢別】									
女性29歳以下(n=64)	1.6	3.1	6.3	20.3	1.6	0.0	1.6	0.0	65.6
女性30歳代(n=82)	12.2	12.2	8.5	24.4	1.2	1.2	2.4	1.2	34.1
女性40歳代(n=72)	9.7	11.1	15.3	30.6	1.4	4.2	1.4	2.8	23.6
女性50歳代(n=99)	24.2	6.1	9.1	26.3	6.1	3.0	6.1	2.0	14.1
女性60歳代(n=45)	20.0	8.9	8.9	28.9	2.2	2.2	11.1	0.0	11.1
女性70歳以上(n=49)	14.3	6.1	4.1	32.7	2.0	2.0	12.2	4.1	14.3

※1 産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む

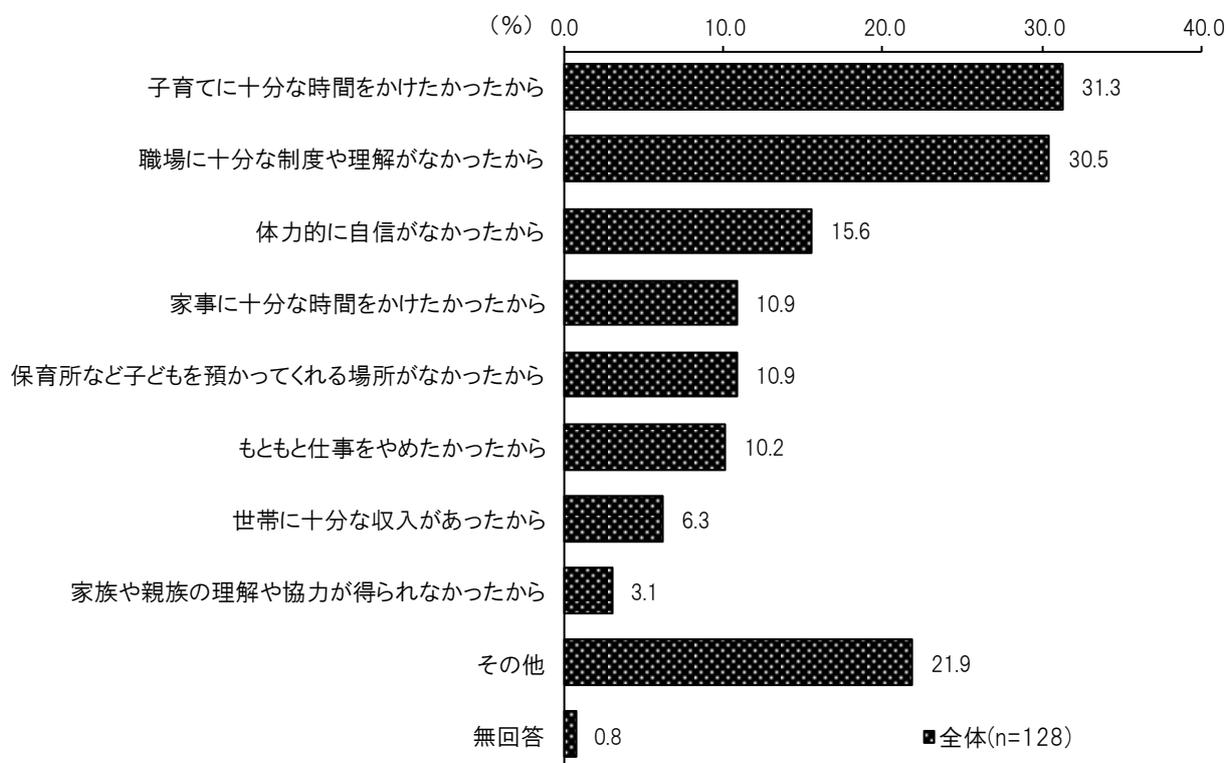
※2 フルタイムからパートタイムなど

(2) 仕事をやめた理由

問 16 【問 15 で「1～3」と回答した人におたずねします】仕事をやめた理由は何ですか。(〇印いくつでも)

仕事をやめた理由については、「子育てに十分な時間をかけたかったから」の割合が31.3%と最も高く、ほぼ並んで「職場に十分な制度や理解がなかったから」(30.5%)が続いている。次いで「体力的に自信がなかったから」(15.6%)の順となっている。

なお、「その他」の回答が2割程度みられるが、「夫の転勤のため」「県外へ嫁いだため」「体調が良くなかったため」などの意見が多くみられ、また「結婚したら家に入るのが当然だと思っていたから」「人手不足で、ぎりぎりまで働かないといけなかったため」といった回答もみられた。



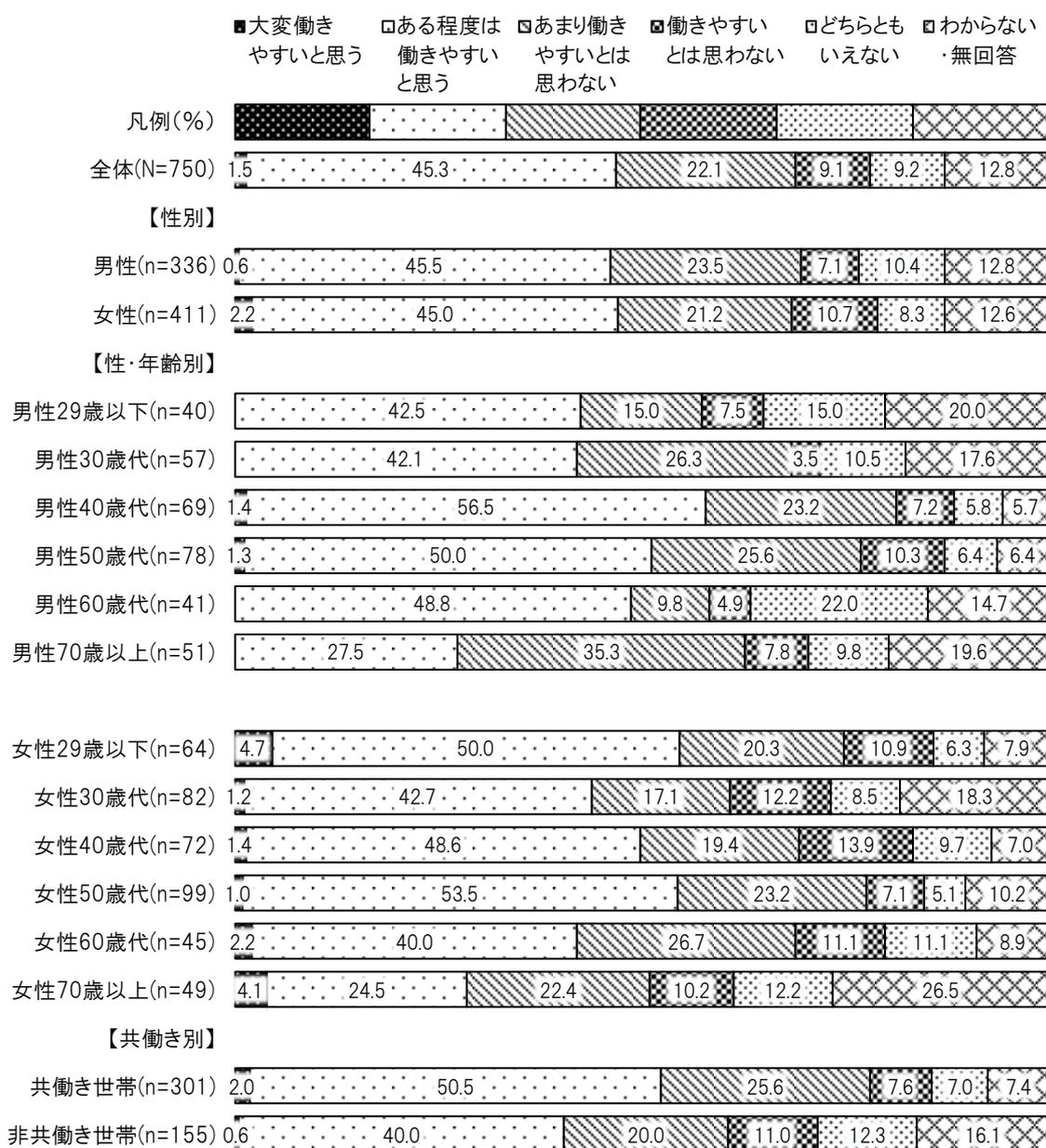
7 女性の働きやすさについて

(1) 女性の働きやすさ

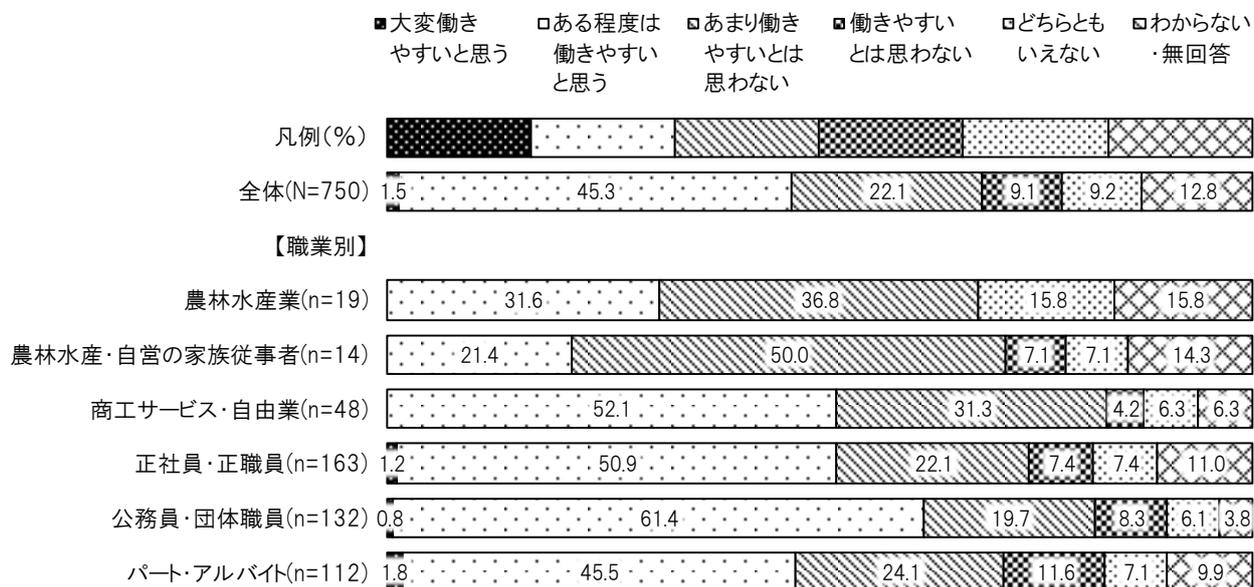
問 17 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。
(○印1つ)

女性の働きやすさについては、「大変働きやすいと思う」の割合が 1.5%、「ある程度は働きやすいと思う」が 45.3%で、両者合計した 46.8%が『働きやすいと思う』と回答している。一方、「あまり働きやすいとは思わない」(22.1%)、「働きやすいとは思わない」(9.1%)の合計は 31.2%となっている。

『働きやすいと思う(合計)』の割合は、性別では大きな差はみられないが、性・年齢別では、特に男性 40~50 歳代、女性 29 歳以下で高くなっている。また、共働き世帯で高くなっている。



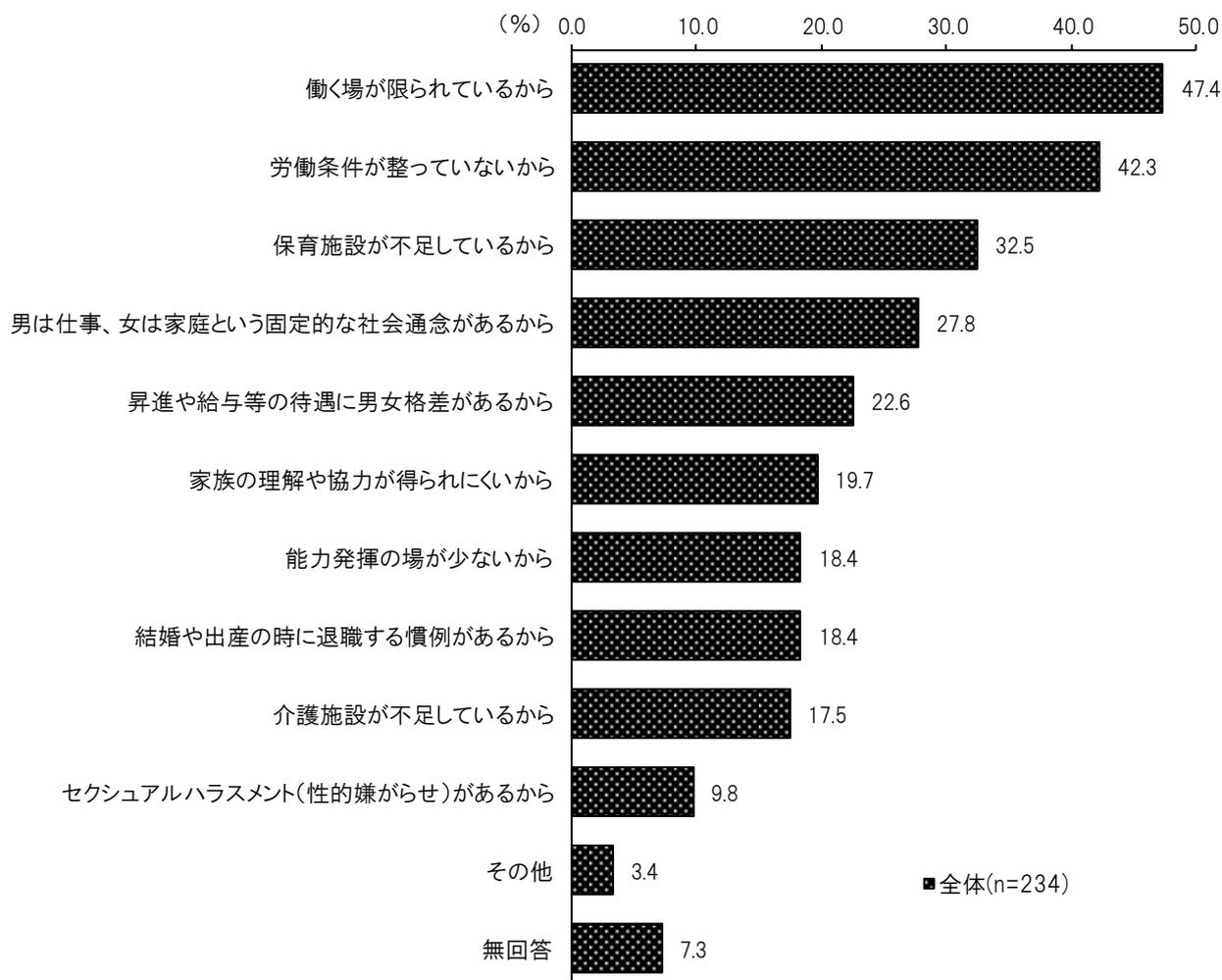
さらに、職業別でみると、『働きやすいと思う（合計）』の割合は、公務員・団体職員で最も高くなっている。



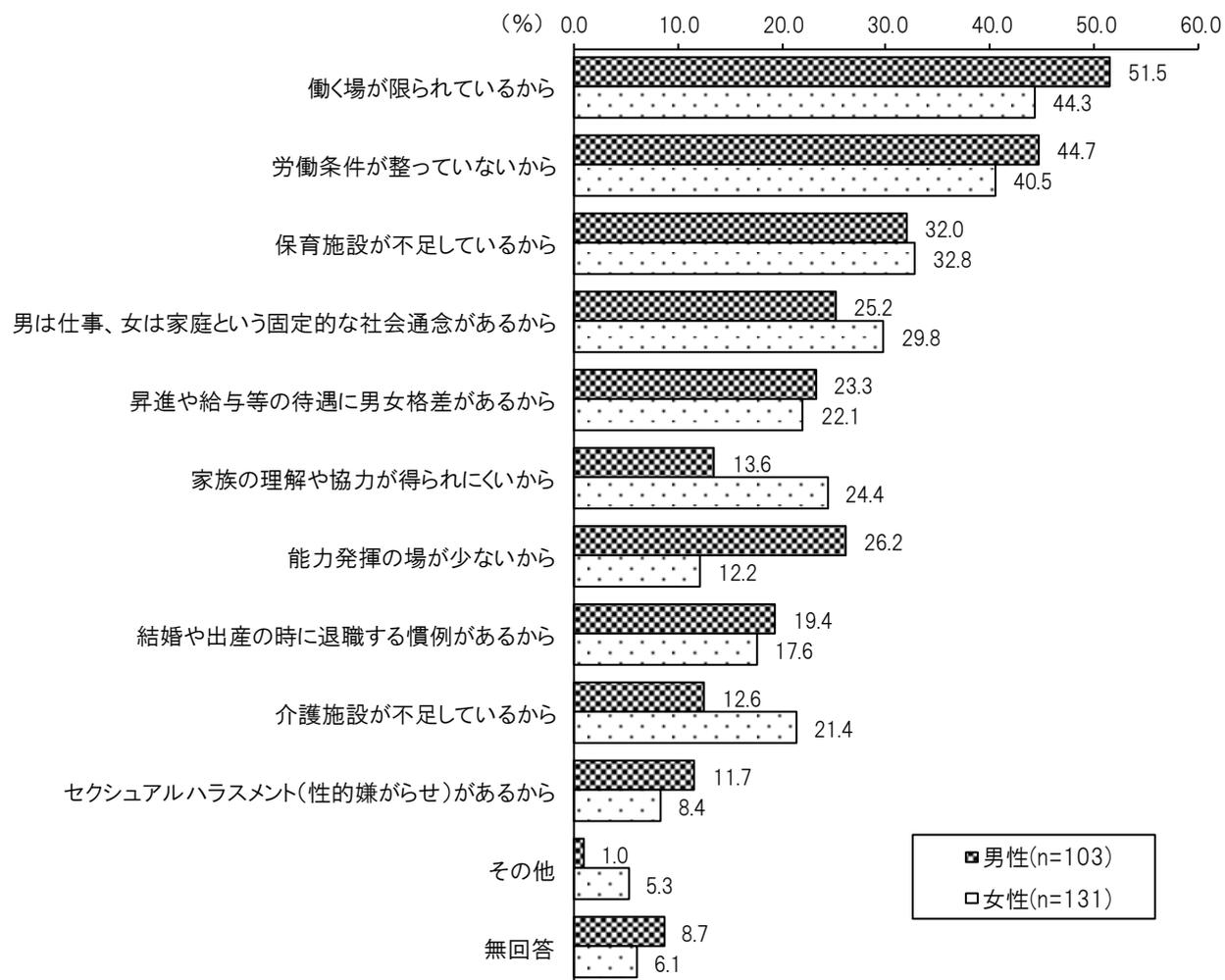
(2) 働きやすいと思わない理由

問 18 【問 17 で「3～4」と回答した人におたずねします】女性が働きやすいと思わない理由は何ですか。(○印いくつでも)

働きやすいと思わない理由については、「働く場が限られているから」の割合が 47.4%と最も高く、次いで「労働条件が整っていないから」(42.3%)、「保育施設が不足しているから」(32.5%)、「男は仕事、女は家庭という固定的な社会通念があるから」(27.8%)、「昇進や給与等の待遇に男女格差があるから」(22.6%)の順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「働く場が限られているから」「能力発揮の場が少ないから」などの割合が高く、女性は「男は仕事、女は家庭という固定的な社会通念があるから」「家族の理解や協力が得られにくいから」「介護施設が不足しているから」などで、男性を上回っている。



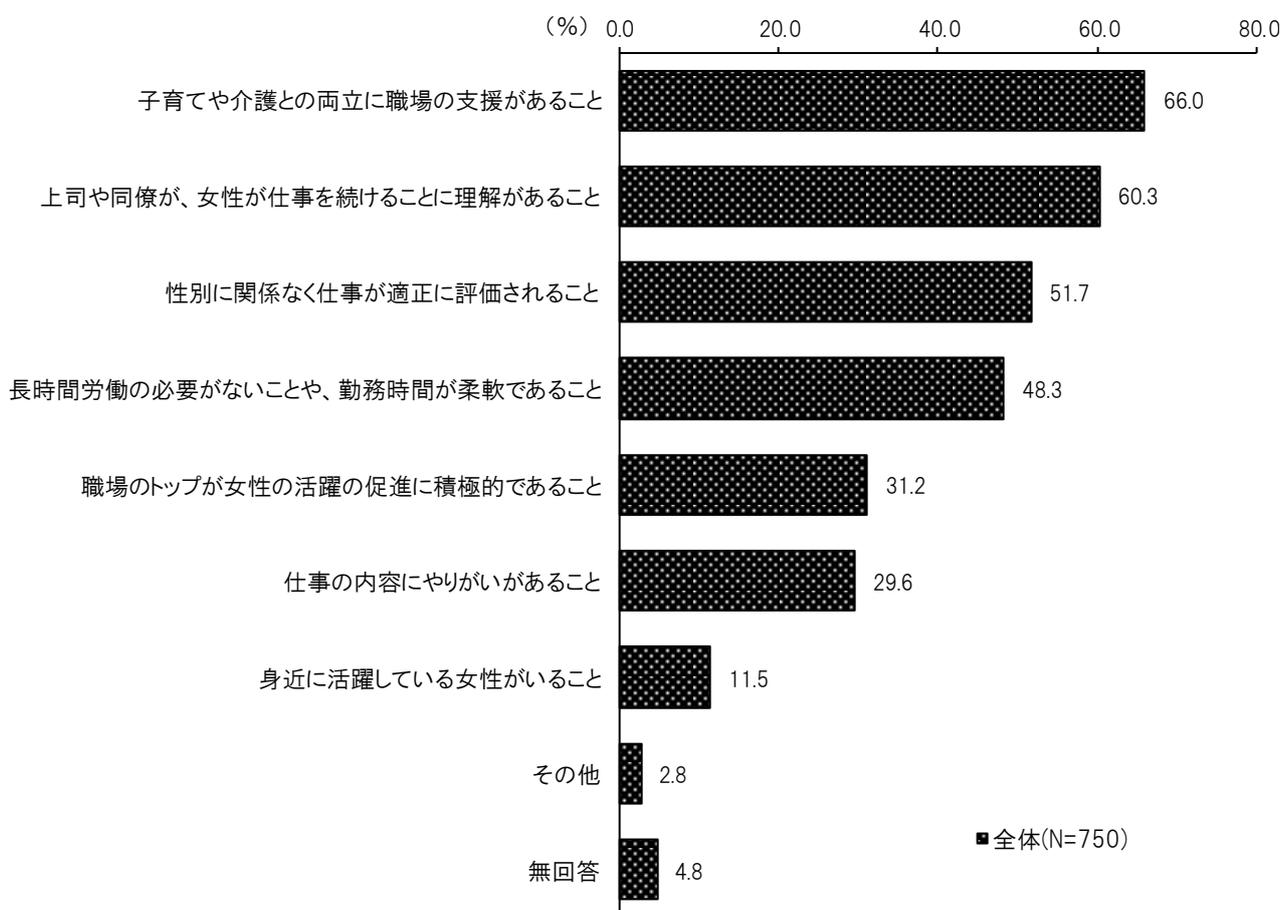
年齢別でみると、29歳以下や30歳代の若い年齢層ほど「労働条件が整っていないから」「男は仕事、女は家庭という固定的な社会通念があるから」などの割合が高く、特に29歳以下では「保育施設が不足しているから」「結婚や出産の時に退職する慣例があるから」などが高くなっている。

	働く場 が限ら れてい	労働 条件が 整って	保育 施設が 不足し	通念 がある から	男は 仕事、 女は 家庭	昇進 や格 差が ある か	家族 の理 解や 協力 が	能力 発揮 の場 が少 な	職結 婚や 慣例 の出 産の 時	介護 施設 が不 足し	セク シュ アル ハラ ス	そ の 他
全体(n=234)	47.4	42.3	32.5	27.8	22.6	19.7	18.4	18.4	17.5	9.8	3.4	
【年齢別】												
29歳以下(n=29)	34.5	55.2	48.3	31.0	13.8	13.8	10.3	34.5	10.3	3.4	3.4	
30歳代(n=41)	43.9	56.1	26.8	36.6	22.0	24.4	14.6	14.6	7.3	14.6	2.4	
40歳代(n=45)	48.9	40.0	31.1	35.6	35.6	24.4	26.7	22.2	20.0	13.3	8.9	
50歳代(n=58)	56.9	32.8	27.6	17.2	22.4	20.7	22.4	19.0	19.0	10.3	1.7	
60歳代(n=23)	34.8	34.8	21.7	30.4	26.1	17.4	13.0	13.0	17.4	8.7	4.3	
70歳以上(n=38)	52.6	39.5	42.1	21.1	13.2	13.2	15.8	7.9	28.9	5.3	0.0	

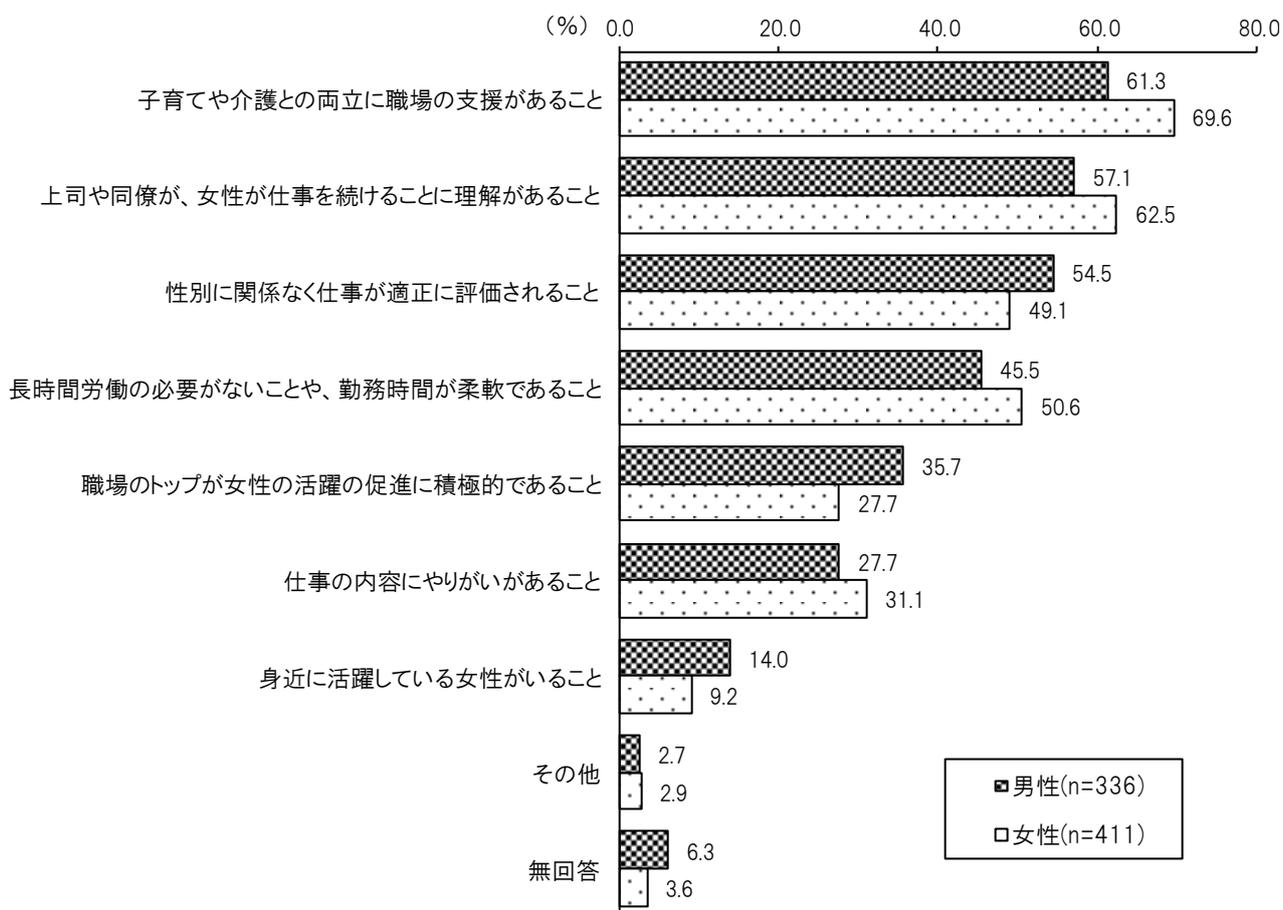
8 女性が活躍できる職場環境に必要と思うこと

問 19 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために、どのようなことが必要だと思いますか。（○印いくつでも）

女性が活躍できる職場環境に必要と思うことについては、「子育てや介護との両立に職場の支援があること」の割合が 66.0%と最も高く、「上司や同僚が、女性が仕事を続けることに理解があること」（60.3%）が続いている。以下、「性別に関係なく仕事が適正に評価されること」（51.7%）、「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」（48.3%）の順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「性別に関係なく仕事が適正に評価されること」「職場のトップが女性の活躍の促進に積極的であること」などの割合が高く、女性は「子育てや介護との両立に職場の支援があること」「上司や同僚が、女性が仕事を続けることに理解があること」「長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること」などで男性を上回っている。



9 日常生活の理想と現実について

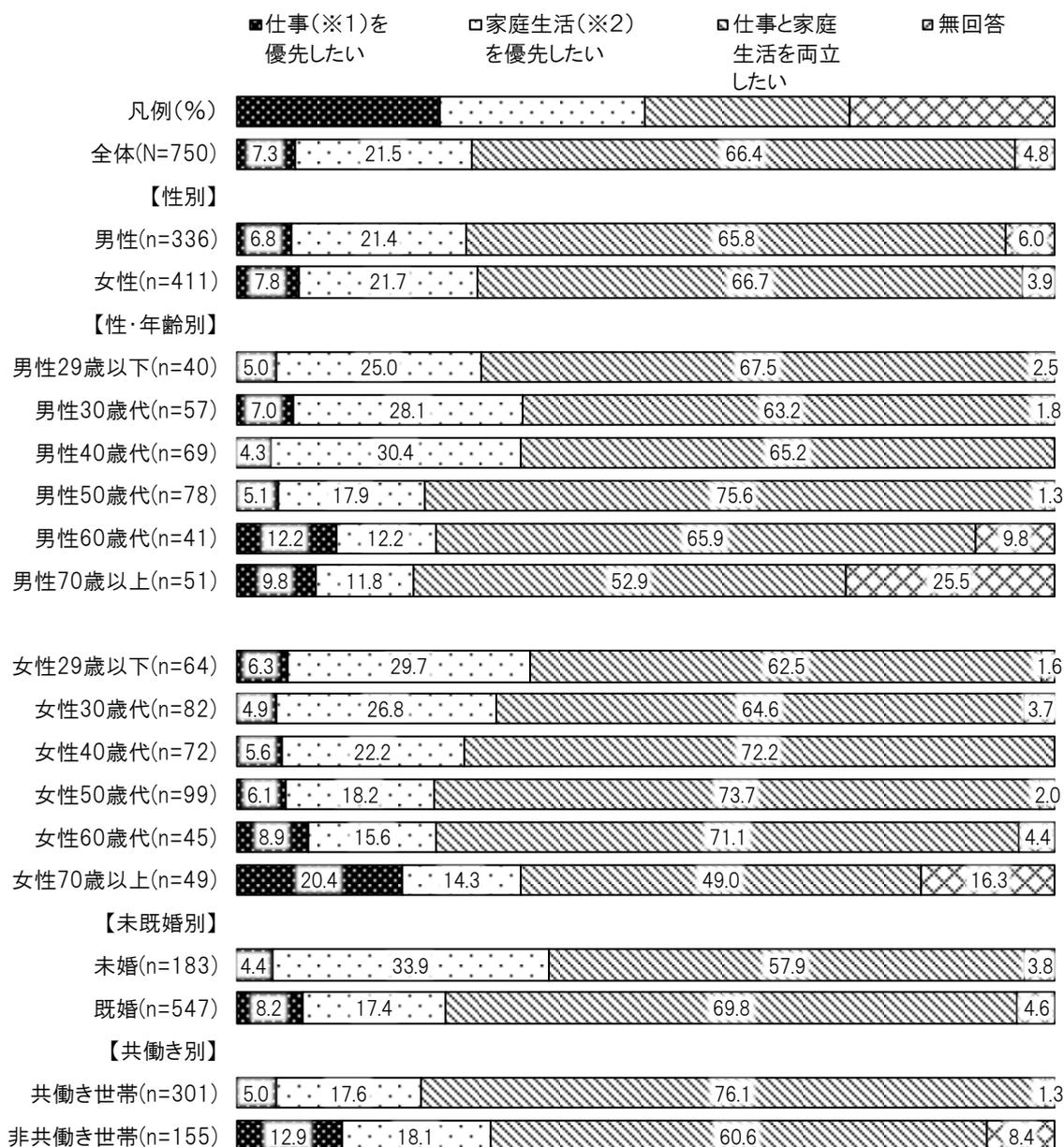
問 20 日常生活における、「仕事（家事・育児・介護含む）」「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」のバランスについて、①あなたの希望する（理想とする）優先度と②実際の（現実の）優先度をお答えください。
（○印1つつ）

（1）理想

日常生活の理想については、「仕事と家庭生活を両立したい」の割合が 66.4%と最も高く、次いで「家庭生活（プライベートな時間）を優先したい」が 21.5%で続き、「仕事（家事・育児・介護含む）を優先したい」は 7.3%であった。

性別では大きな差はみられないが、性・年齢別では男性 50 歳代や女性 40～60 歳代で、それぞれ「仕事と家庭生活を両立したい」が高くなっている。

また、未既婚別では既婚、共働き別では共働き世帯で「仕事と家庭生活を両立したい」が高くなっている。

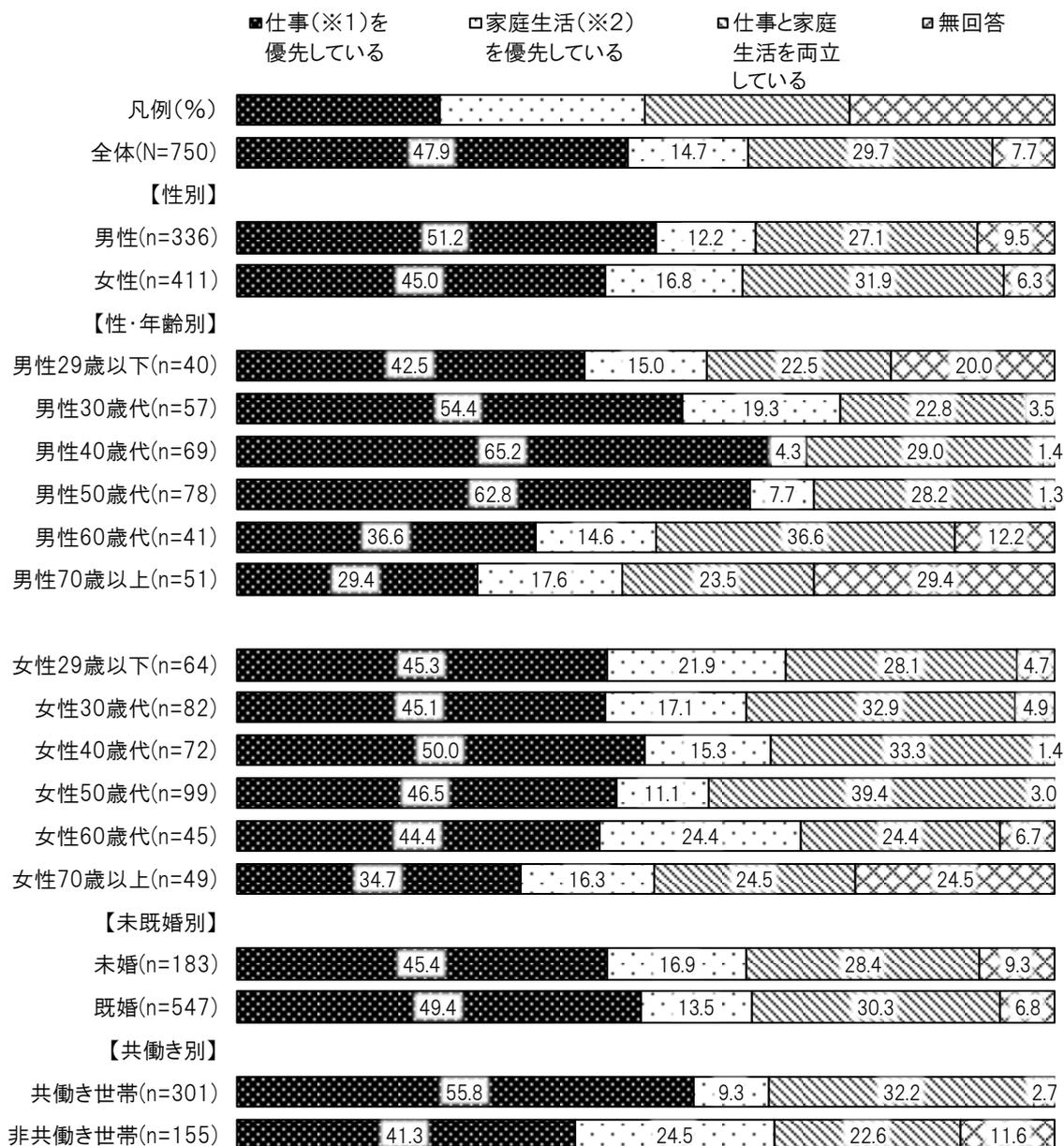


※1 家事・育児・介護含む ※2 プライベートな時間

(2) 現実

日常生活の現実については、「仕事（家事・育児・介護含む）を優先している」の割合が47.9%と最も高く、「家庭生活（プライベートな時間）を優先している」が14.7%、「仕事と家庭生活を両立している」は29.7%となっている。

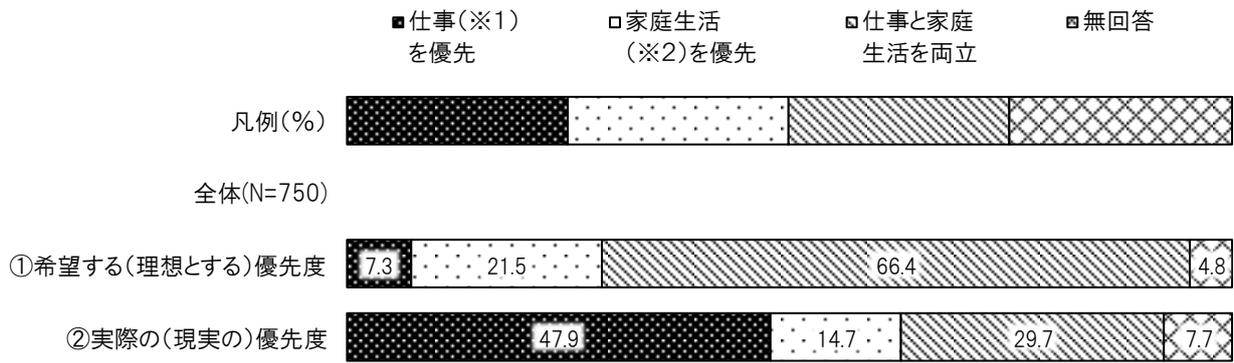
「仕事（家事・育児・介護含む）を優先している」割合を性別で見ると、男性で高く、性・年齢別では、特に男性40～50歳代で他の層を大きく上回っている。また、未既婚別では大きな差はみられないが、共働き世帯で高くなっている。



※1 家事・育児・介護含む

※2 プライベートな時間

再掲／理想と現実比較

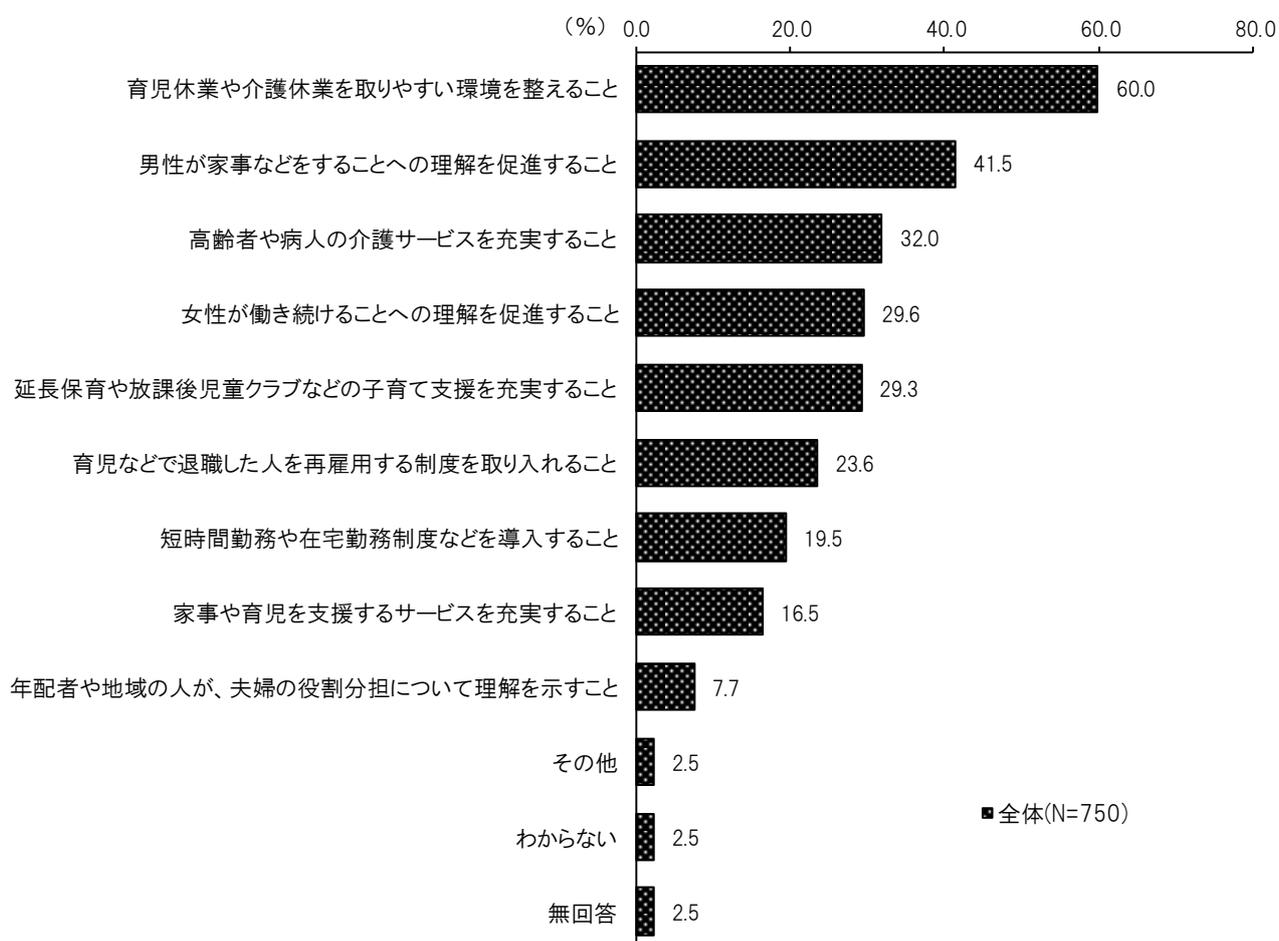


※1 家事・育児・介護含む
 ※2 プライベートな時間

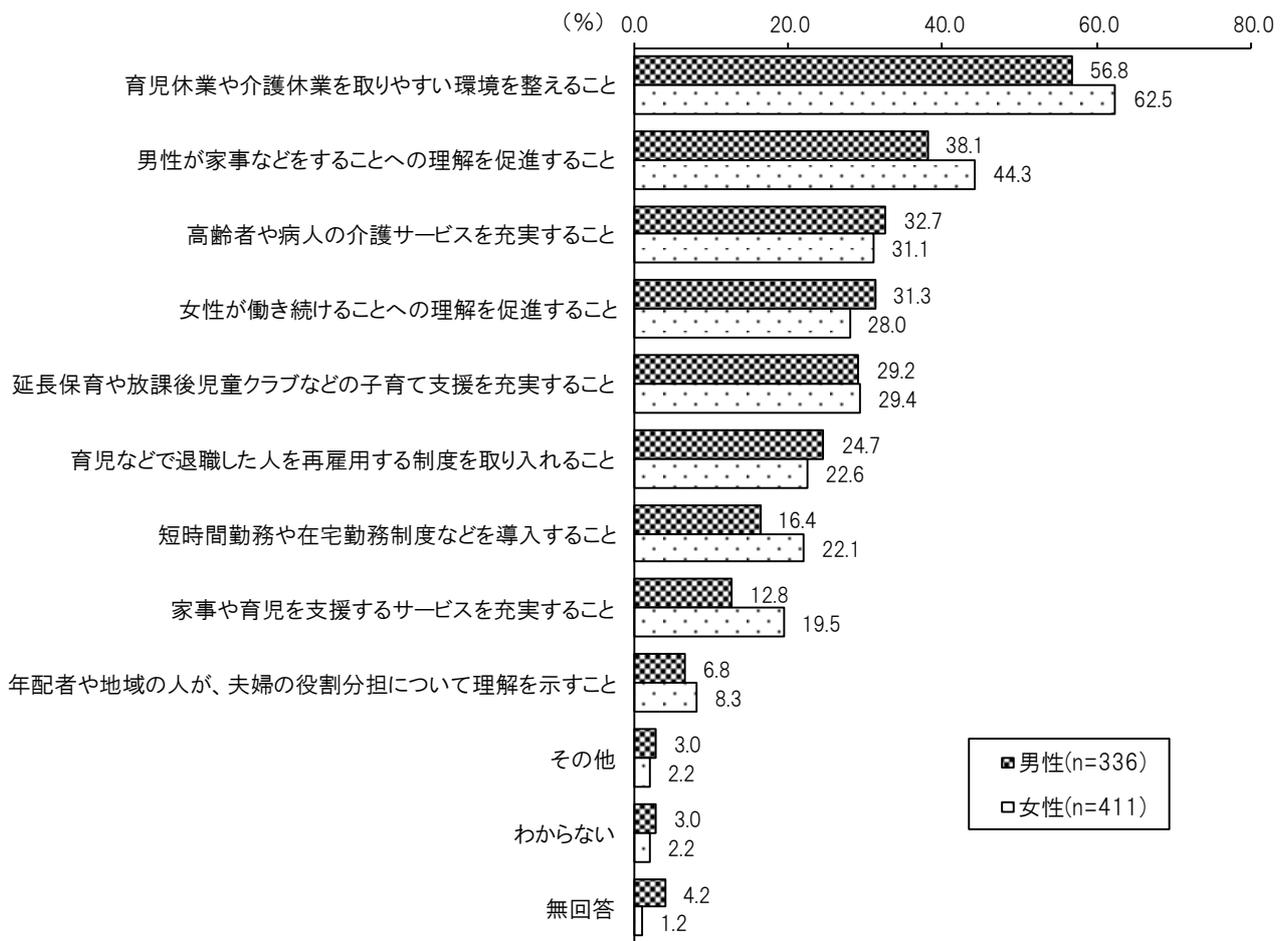
10 仕事と家庭の両立に必要と思うこと

問 21 男女がともに、「仕事（家事・育児・介護含む）」と「家庭生活（プライベートな時間／趣味や学習・地域活動・付き合いなど）」を両立させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

仕事と家庭の両立に必要と思うことについては、「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」の割合が60.0%と最も高く、次いで「男性が家事などをする事への理解を促進すること」（41.5%）、「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」（32.0%）、「女性が働き続けることへの理解を促進すること」（29.6%）、「延長保育や放課後児童クラブなどの子育て支援を充実すること」（29.3%）の順となっている。



性別で見ると、男性は女性に比べ「女性が働き続けることへの理解を促進すること」がやや高く、女性は「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」をはじめ、「男性が家事などをする事への理解を促進すること」「家事や育児を支援するサービスを充実すること」「短時間勤務や在宅勤務制度などを導入すること」などで男性を上回っている。



年齢別でみると、特に 29 歳以下では「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」「育児などで退職した人を再雇用する制度を取り入れること」「家事や育児を支援するサービスを充実すること」などが、他の年齢層を大きく上回っている。また、年齢が上がるほど「高齢者や病人の介護サービスを充実すること」の割合が高い傾向にある。

	とり育 や児 やすい休 業環 境や介 護休 業を 取	とと男 性へ の理 解家 事な どを 促進 する こ	ビ高 ス齡 者や 病人 の介 護サ ー	の女 性 解が 働 き 進 続 ける こ と へ	充ラ延 実ブ長 すな保 ること育 の子や 育後 て支 援児 を童 をク	れ再育 る雇児 こと用 すな る制 度 取 り 入	度短 な時 間勤 務 導 入 す る こ と	サ家事 ー事 務 を 育 児 を 支 援 す る こ と	解の婦 を示配 す役 こと割 分 担 に つ いて 理	年配 者 や 地 域 の 人 が 夫 理	そ の 他
全体(N=750)	60.0	41.5	32.0	29.6	29.3	23.6	19.5	16.5	7.7	2.5	
【年齢別】											
29歳以下(n=104)	72.1	48.1	21.2	22.1	26.9	34.6	19.2	32.7	5.8	4.8	
30歳代(n=139)	59.0	49.6	13.7	33.8	32.4	16.5	18.7	22.3	5.8	2.9	
40歳代(n=141)	57.4	41.1	27.7	22.7	33.3	20.6	25.5	15.6	6.4	3.5	
50歳代(n=177)	61.6	42.9	42.4	39.0	28.2	22.6	21.5	13.0	9.6	1.7	
60歳代(n=86)	58.1	34.9	44.2	26.7	27.9	26.7	11.6	10.5	4.7	0.0	
70歳以上(n=100)	51.0	27.0	45.0	26.0	25.0	25.0	16.0	4.0	13.0	2.0	

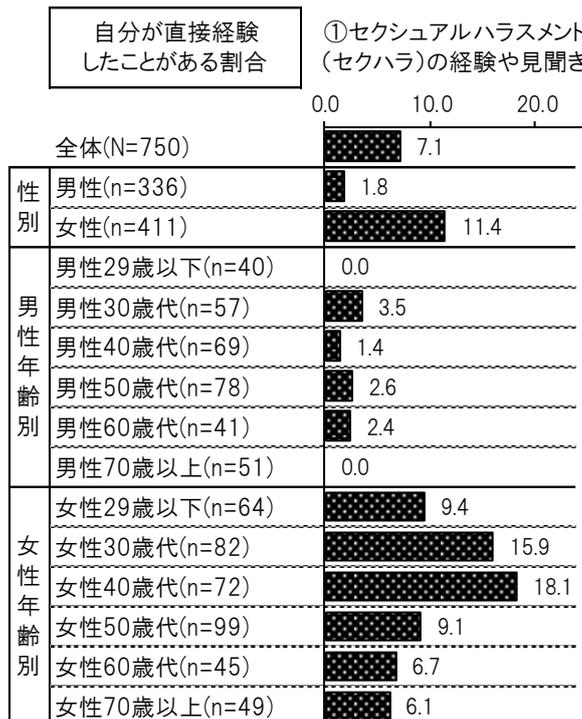
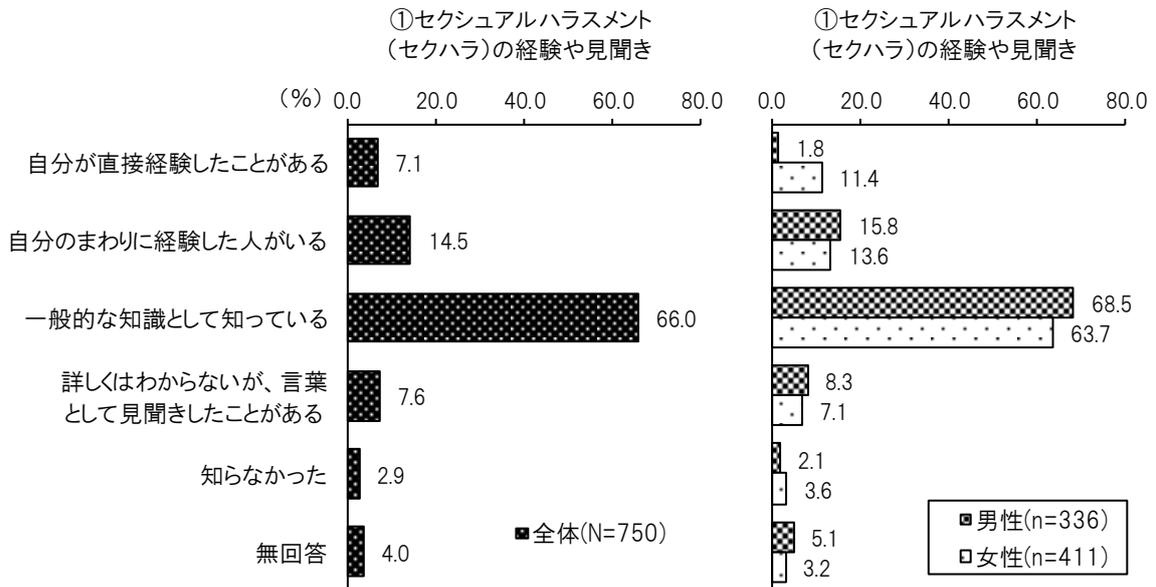
11 各種ハラスメントの経験

問 22 あなたは、身近で次のようなことを経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。①～③のそれぞれについてお答えください。（○印それぞれいくつでも）

(1) セクシュアルハラスメントの経験

セクシュアルハラスメントの経験については、「自分が直接経験したことがある」の割合が7.1%、「自分のまわりに経験した人がある」が14.5%となっている。

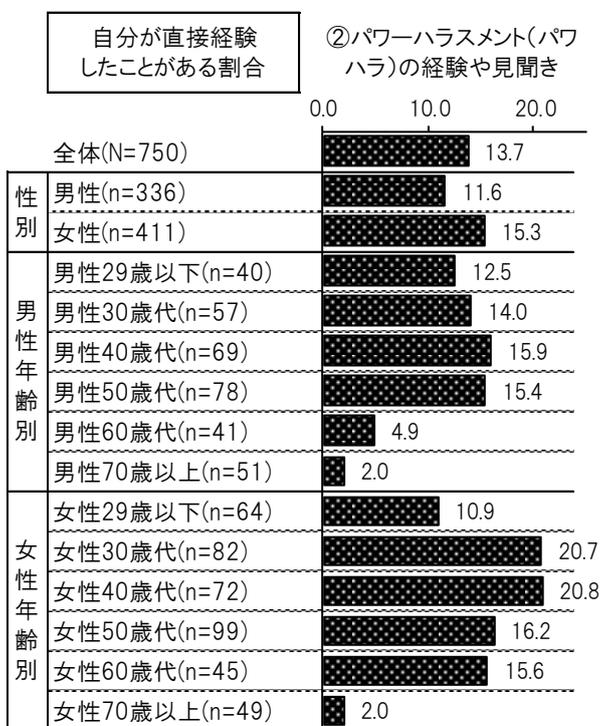
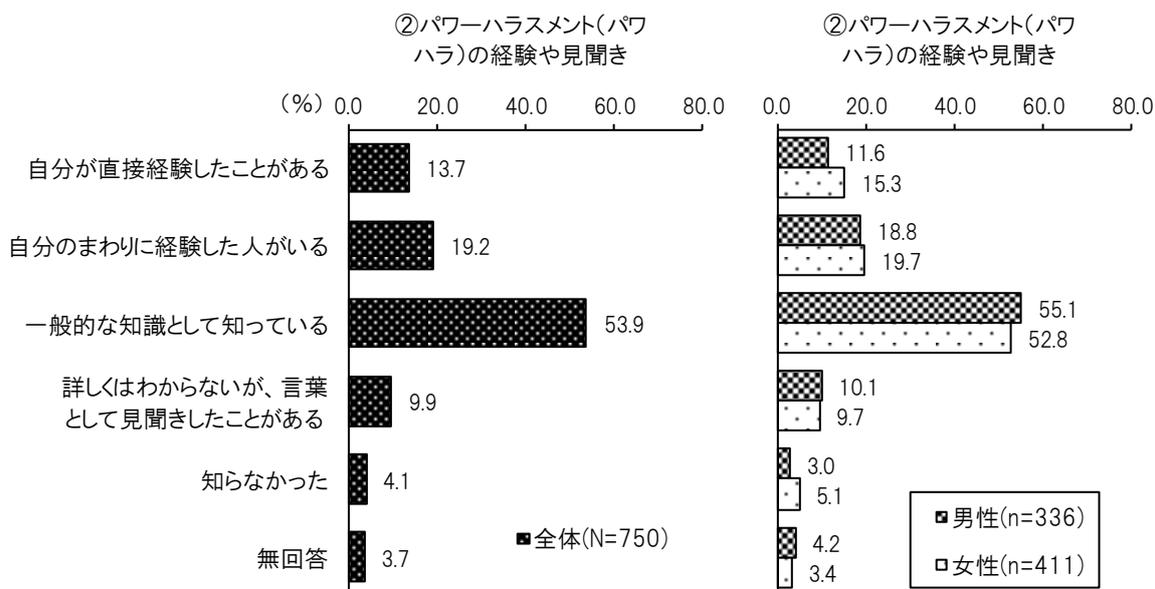
「自分が直接経験したことがある」の割合を性別で見ると、女性の約1割（11.4%）が経験しており、特に女性30～40歳代で他の年齢層を上回っている。



(2) パワーハラスメントの経験

パワーハラスメントの経験については、「自分が直接経験したことがある」の割合が13.7%、「自分のまわりに経験した人がある」が19.2%となっている。

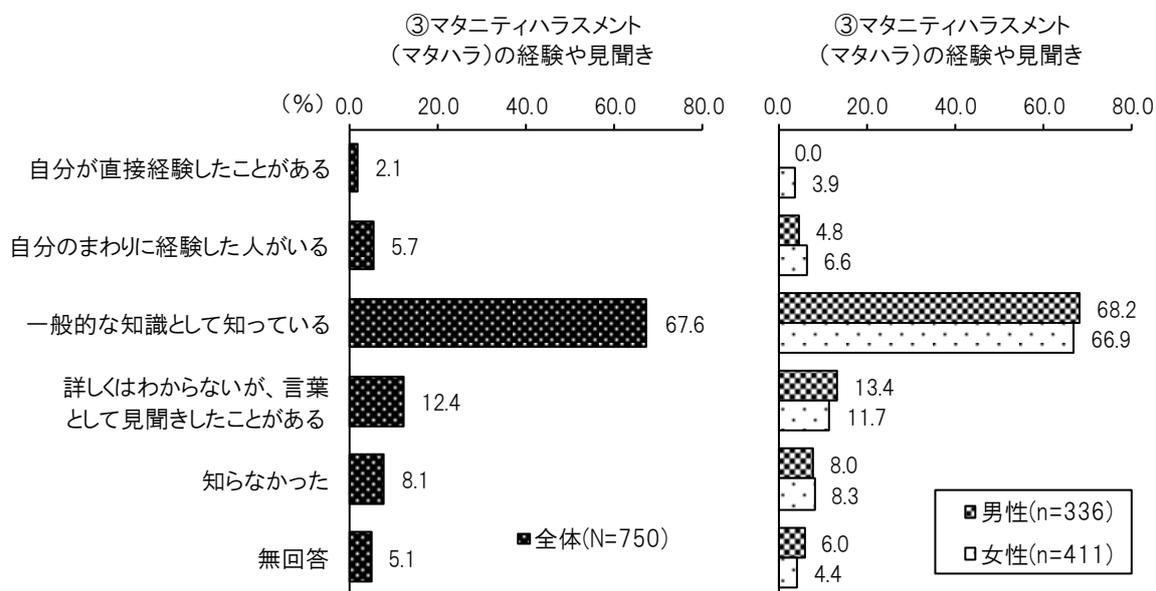
「自分が直接経験したことがある」の割合を性別で見ると、男女ともに1割を超え、特に女性30～40歳代で他の年齢層を上回っている。



(3) マタニティハラスメントの経験

マタニティハラスメントの経験については、「自分が直接経験したことがある」の割合が2.1%、「自分のまわりに経験した人がある」が5.7%となっている。

「自分が直接経験したことがある」の割合を性・年齢別でみると、女性 29 歳以下で最も高く、30～40 歳代がそれに続いている。



自分が直接経験したことがある割合		③マタニティハラスメント(マタハラ)の経験や見聞き
		0.0 10.0 20.0
全体(N=750)		2.1
性別	男性(n=336)	0.0
	女性(n=411)	3.9
男性年齢別	男性29歳以下(n=40)	0.0
	男性30歳代(n=57)	0.0
	男性40歳代(n=69)	0.0
	男性50歳代(n=78)	0.0
	男性60歳代(n=41)	0.0
	男性70歳以上(n=51)	0.0
女性年齢別	女性29歳以下(n=64)	7.8
	女性30歳代(n=82)	4.9
	女性40歳代(n=72)	5.6
	女性50歳代(n=99)	2.0
	女性60歳代(n=45)	2.2
	女性70歳以上(n=49)	0.0

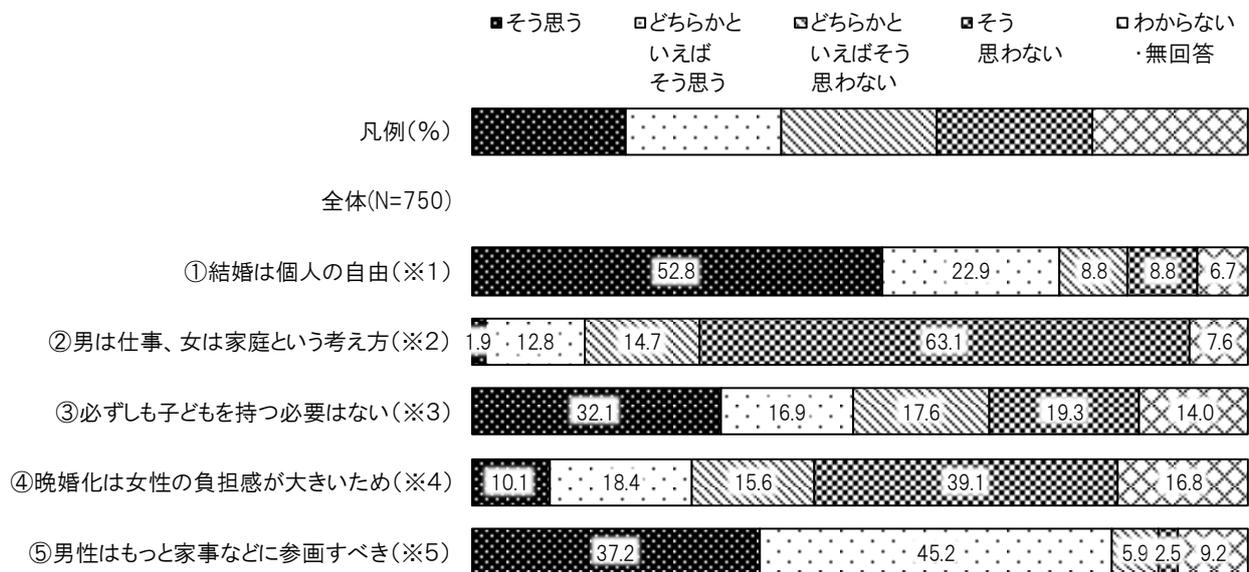
【3】家庭生活と男女の役割についておたずねします

1 結婚と家庭に関する考え方

問 23 あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。①～⑤のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

結婚と家庭に関する考え方については、『賛成意向^注』の割合が高い順に「⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画すべきである」(82.4%)、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(75.7%)、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」(49.0%)となっている。

一方で、『反対意向^注』の割合が高い順では、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭」という考え方)」(77.8%)、「④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである」(54.7%)、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」(36.9%)となっている。



注「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて『賛成意向』、「そう思わない」と「どちらかといえば思わない」を合わせて『反対意向』とする。

※1 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

※2 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭」という考え方)

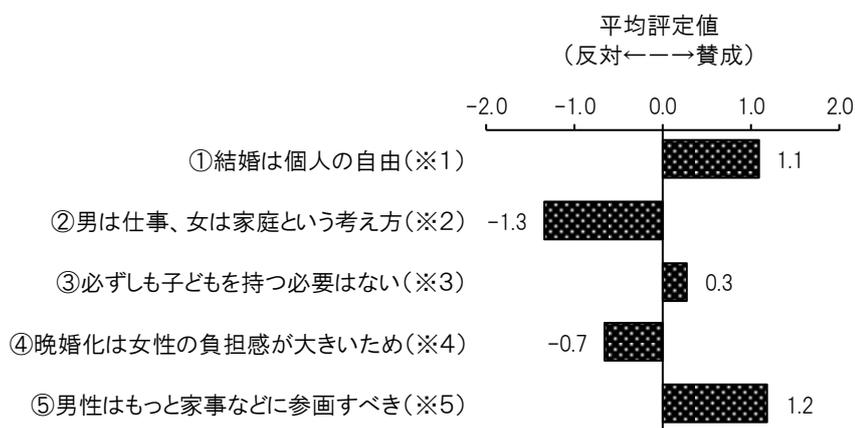
※3 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

※4 結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである

※5 男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画すべきである

平均評定値*による傾向をみると、賛成意向が高いのは「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画すべきである」、反対意向が高いのは「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（「男は仕事、女は家庭」という考え方）」となっている。

再掲／結婚と家庭に関する考え方（平均評定値）



さらに、属性別でみると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」では、女性は若い年齢層ほど賛成意向が高い傾向にある。「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」では、男女ともに若い年齢層は賛成意向が高いが、年齢が上がるほど反対意向が高くなる傾向にある。特に男性 70 歳以上では反対意向が最も高くなっている。

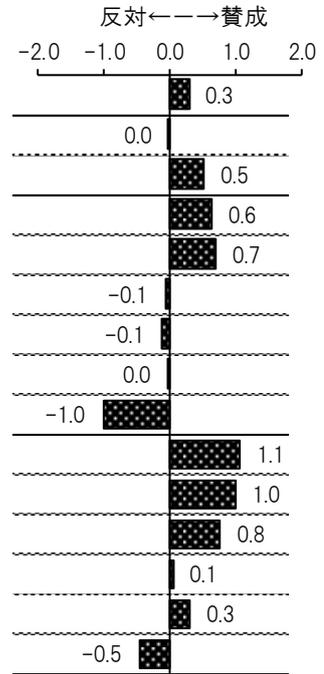
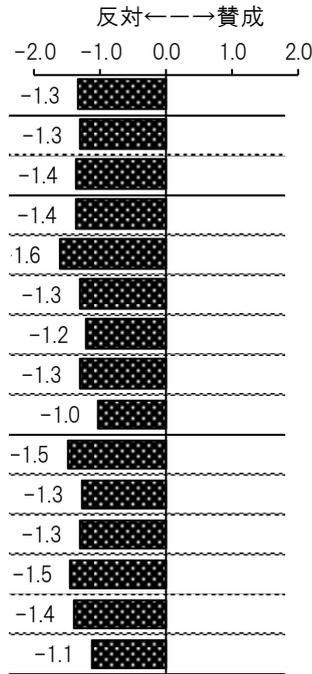
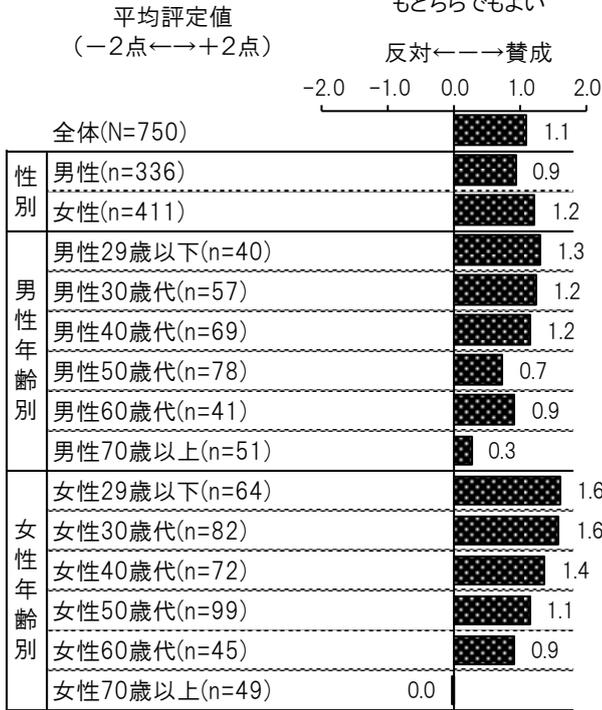
※平均評定値による属性別傾向

平均評定値とは、「そう思わない」に－2点、「どちらかといえばそう思わない」に－1点、「どちらかといえばそう思う」に＋1点、「そう思う」に＋2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、－2点に近いほど『反対意向』、＋2点に近いほど『賛成意向』を示す指標である。

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

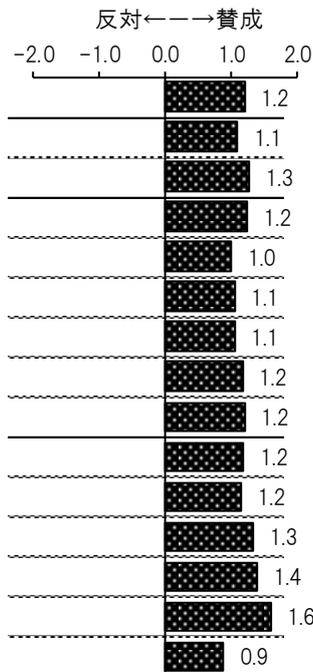
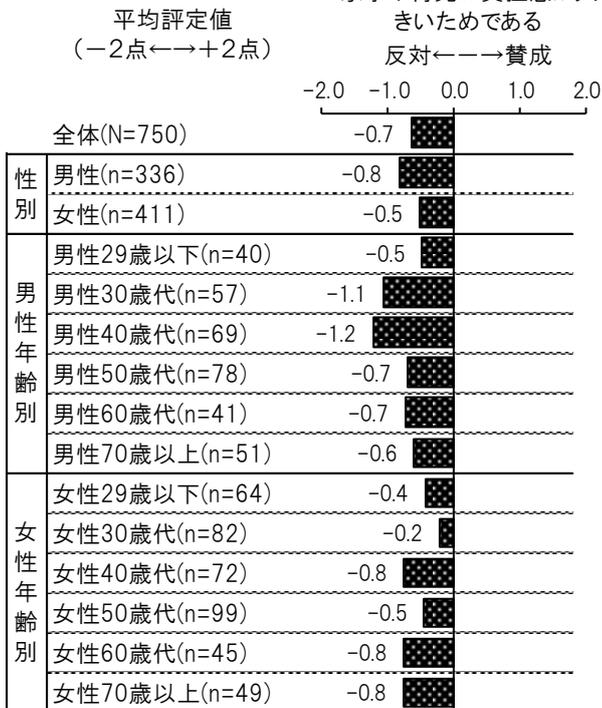
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(「男は仕事、女は家庭」という考え方)

③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいからである

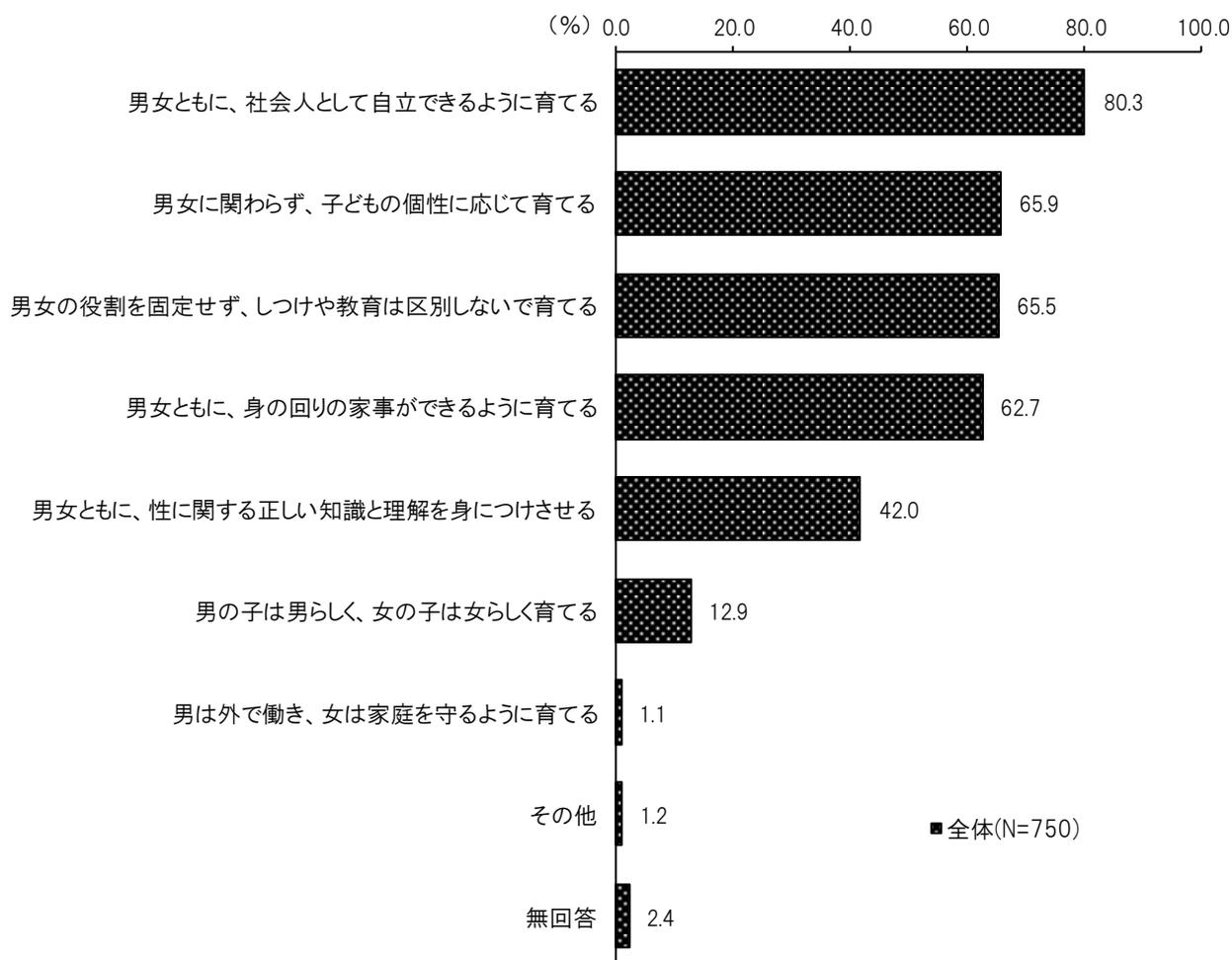
⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである



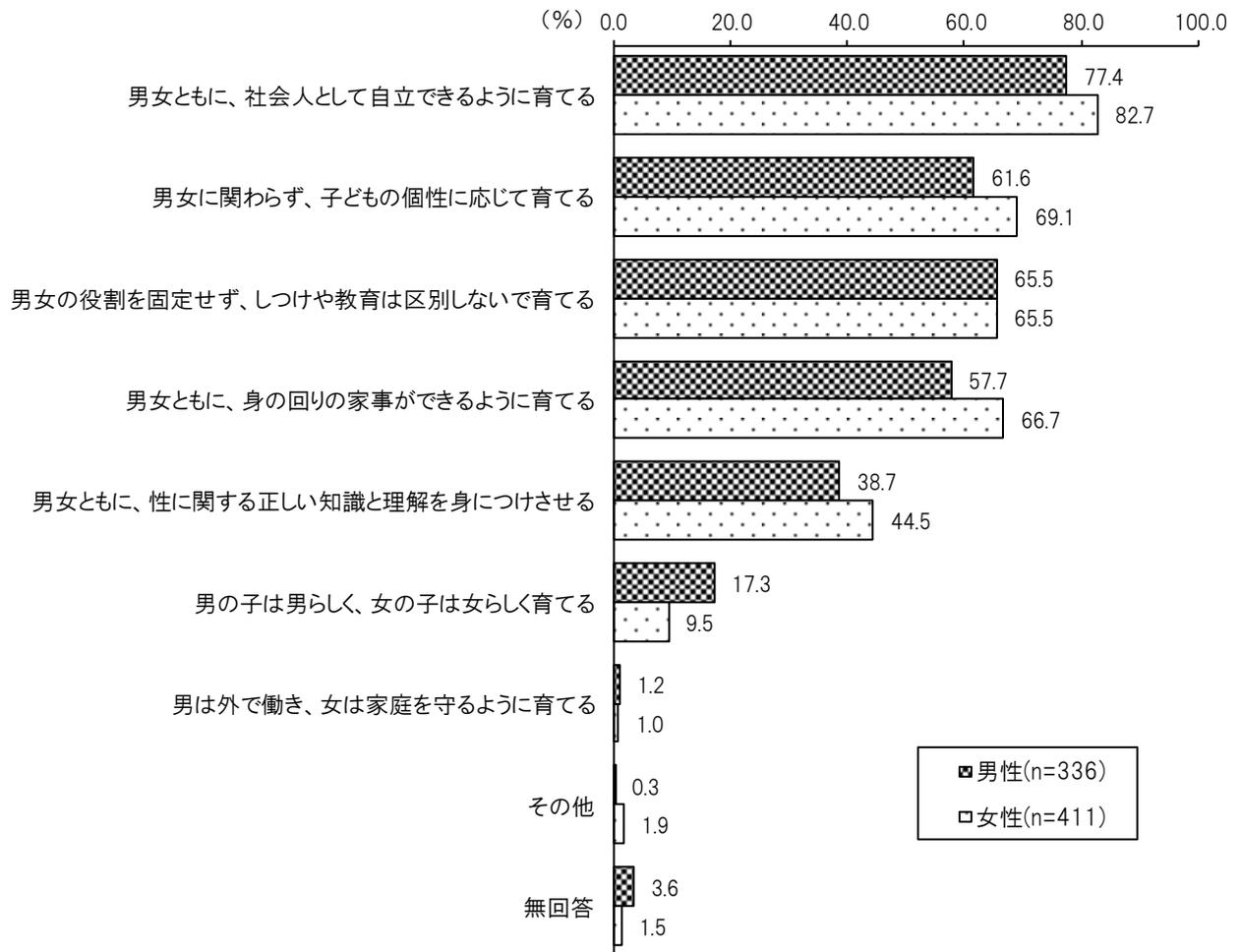
2 子育てについての考え方

問 24 あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。
(○印いくつでも)

子育てについての考え方については、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」の割合が80.3%と最も高く、次いで「男女に関わらず、子どもの個性に応じて育てる」(65.9%)、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」(65.5%)、「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」(62.7%)の順となっている。



性別で見ると、男性は女性に比べ「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が高く、女性は「男女に関わらず、子どもの個性に応じて育てる」「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」などで、男性を上回っている。



年齢別でみると、若い年齢層ほど「男女に関わらず、子どもの個性に応じて育てる」の割合が高く、30歳代では「男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる」、70歳以上で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」が、それぞれ高くなっている。

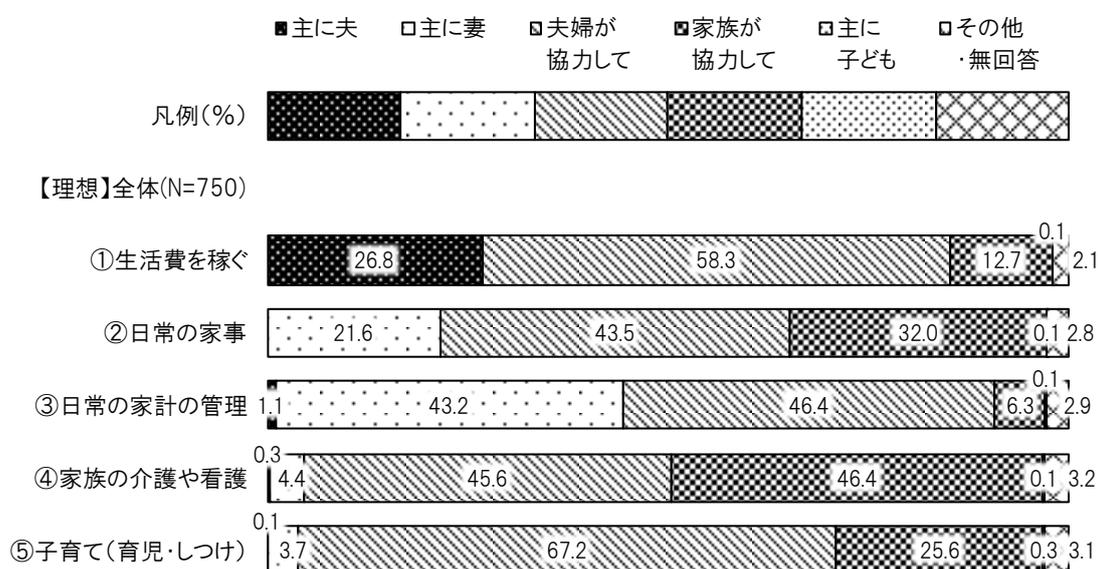
	うと男 にし女 育てとも る立に で、 き社 る会 よ人	育ど男 ても女 るのに 個関 性わ にら 応ず じ、 て子	区ず男 別、女 ししの なつ役 いやを で教固 育定 るはせ	うり男 にの女 育家と てる事 がに で、 き身 るの よ回	解す男 る女 身正と につい け知、 さ識性 せとに る理関	て女男 るのの 子はは 女男 らしく く育、	て家男 る庭は を外 守で る働 よう に女 育は	そ の 他
全体(N=750)	80.3	65.9	65.5	62.7	42.0	12.9	1.1	1.2
【年齢別】								
29歳以下(n=104)	76.0	73.1	58.7	63.5	41.3	7.7	0.0	1.0
30歳代(n=139)	78.4	71.2	65.5	68.3	53.2	17.3	1.4	0.7
40歳代(n=141)	75.9	66.7	66.7	59.6	41.8	12.1	0.0	0.7
50歳代(n=177)	87.6	63.8	75.7	68.9	42.9	9.6	1.7	1.7
60歳代(n=86)	83.7	66.3	54.7	51.2	33.7	8.1	0.0	1.2
70歳以上(n=100)	78.0	52.0	62.0	57.0	32.0	24.0	3.0	2.0

3 家庭内の仕事の分担について

(1) 理想とする分担

問 25 あなたは、次にあげる家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。①～⑤のそれぞれについてお答えください。※結婚されていない方も、結婚して子どもがいると仮定してお答えください。(○印1つずつ)

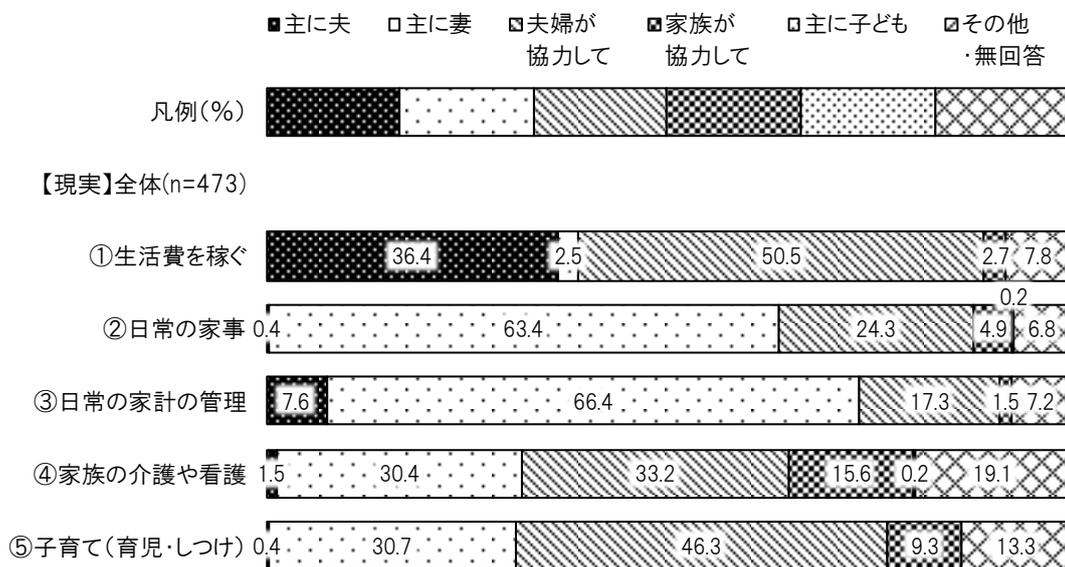
理想とする分担については、「①生活費を稼ぐ」では「主に夫」の割合が26.8%を占め、②～④の項目を大きく上回っている。「③日常の家計の管理」では「主に妻」が43.2%と最も高く、「⑤子育て(育児・しつけ)」では「夫婦が協力して」が67.2%と最も高くなっている。



(2) 実際の分担

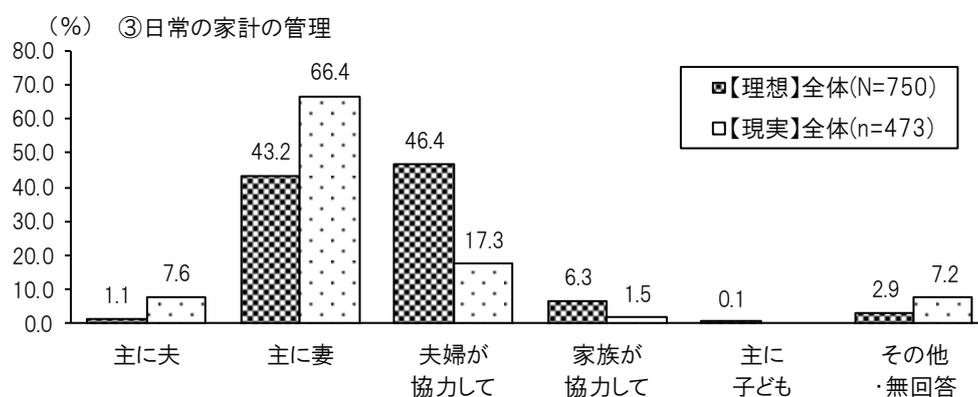
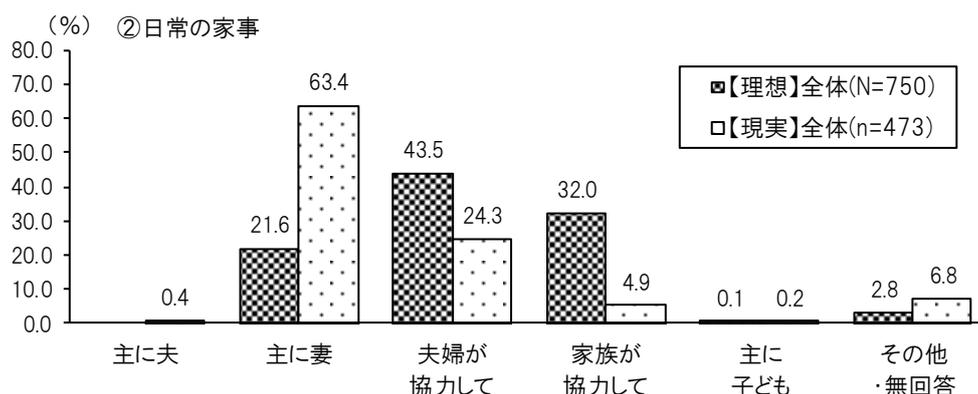
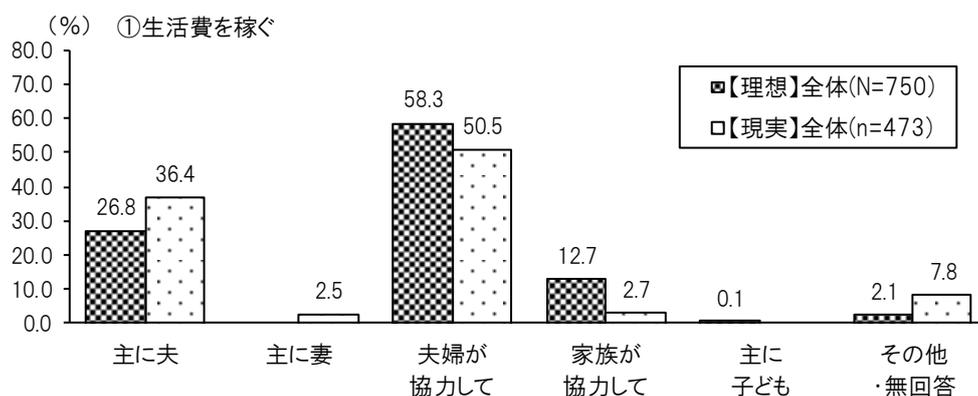
問 26 【問 26 は既婚の方のみにおたずねします（問 6 で 2 と回答した人）。該当しない人は問 27 へお進みください。】 それでは、あなたの家庭では、①～⑤のような家庭内の仕事を、実際に誰が分担していますか。（○印 1 つずつ）

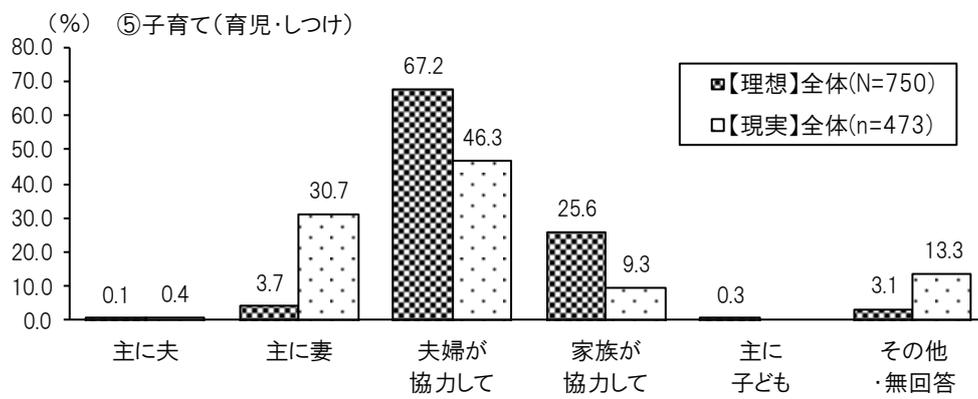
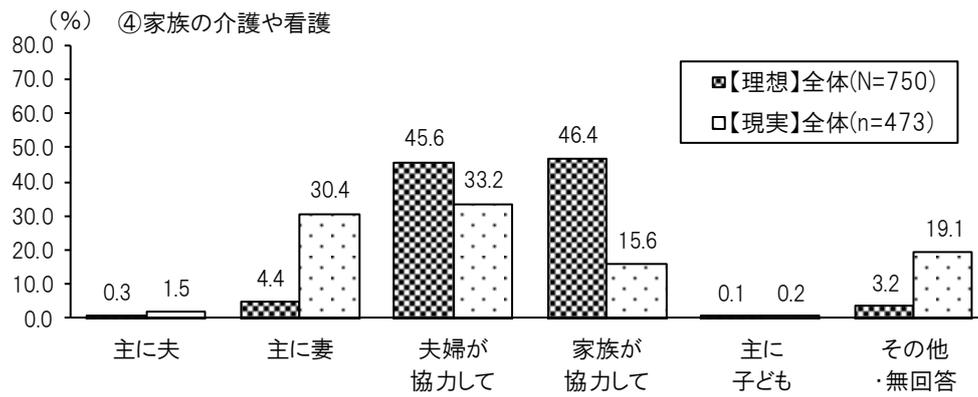
実際の分担については、「①生活費を稼ぐ」では「主に夫」の割合が 36.4%と②～④の項目を大きく上回っているが、「夫婦が協力して」も 50.5%と最も高くなっている。「②日常の家事」「③日常の家計の管理」では、「主に妻」がそれぞれ 6 割を超えて最も高くなっている。「⑤子育て（育児・しつけ）」では「夫婦が協力して」が 46.3%と最も高くなっている。



再掲／理想と実際の分担比較

理想と実際の分担を比較すると、「①生活費を稼ぐ」では理想と現実に大きな差はみられないが、「②日常の家事」や「③日常の家計の管理」では、理想は「夫婦が協力して」が高いが、現実には「主に妻」が高くなっている。「④家族の介護や看護」や「⑤子育て（育児・しつけ）」についても、現実を「主に妻」が担っている割合が高くなっている。



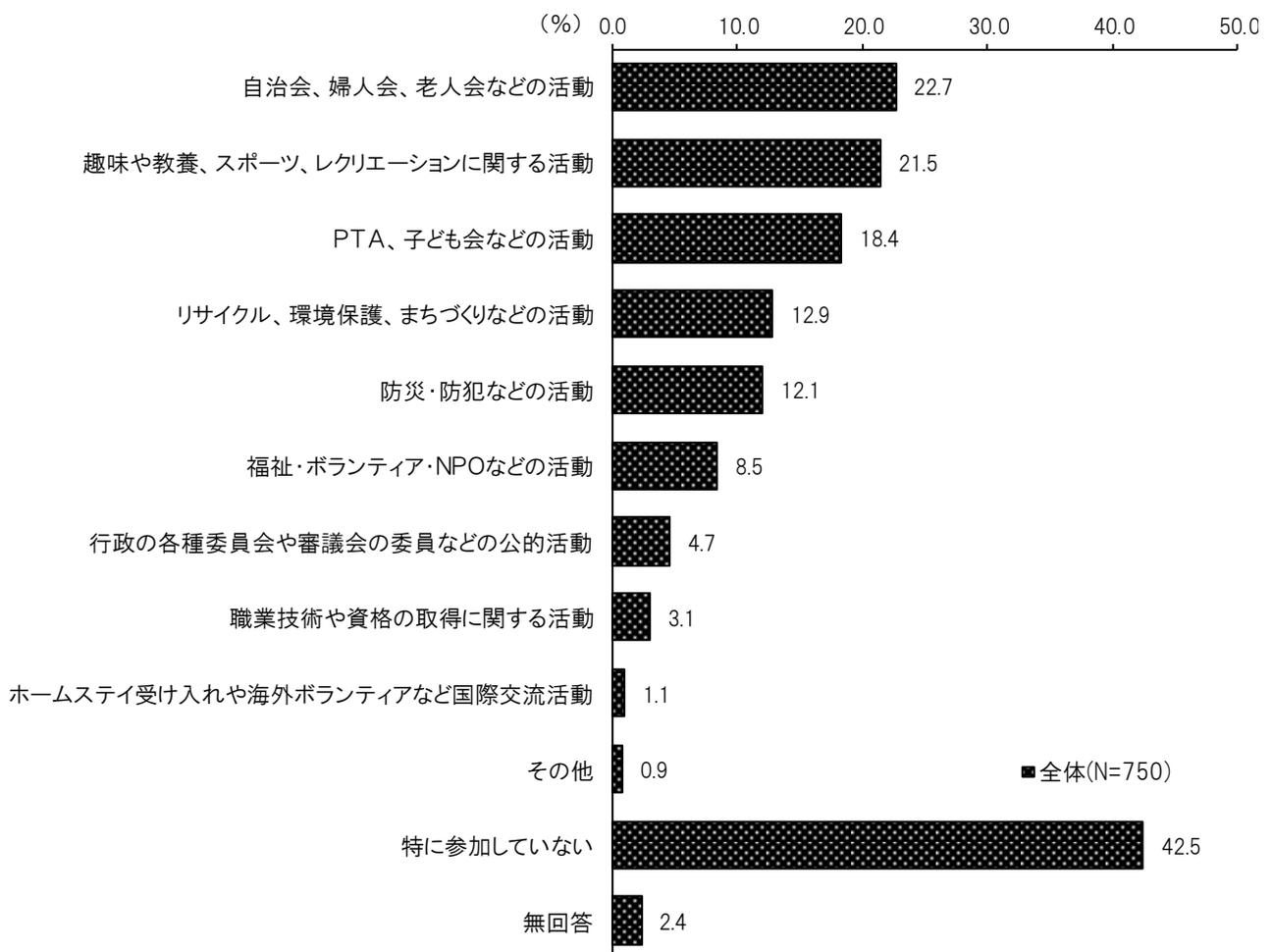


【4】地域活動への参加などについて

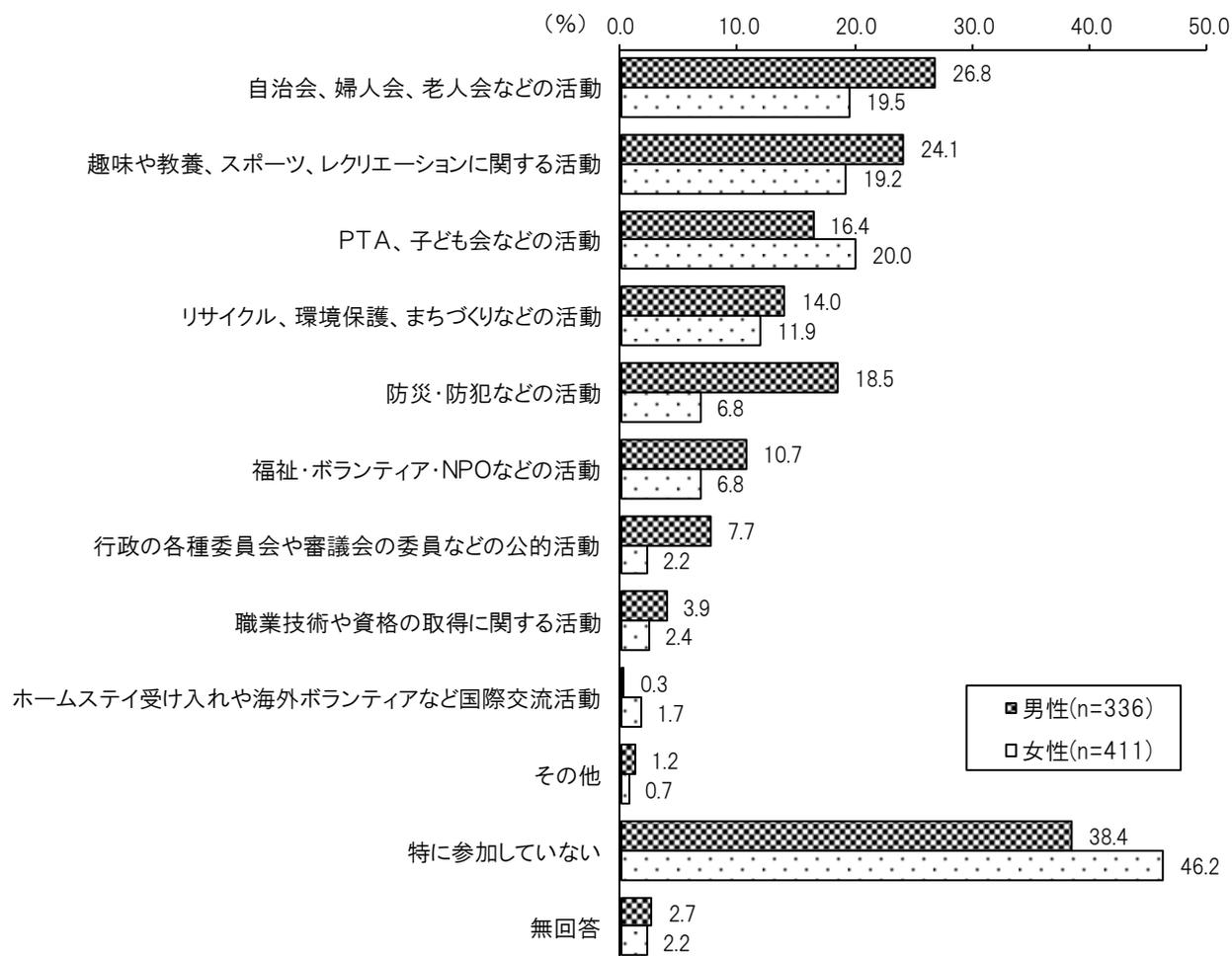
1 地域活動の参加状況

問 27 あなたは、次のような地域活動に参加していますか。（○印いくつでも）

地域活動の参加状況については、「特に参加していない」の割合が 42.5%みられるが、参加状況としては「自治会、婦人会、老人会などの活動」が 22.7%と最も高く、次いで「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」（21.5%）、「PTA、子ども会などの活動」（18.4%）、「リサイクル、環境保護、まちづくりなどの活動」（12.9%）、「防災・防犯などの活動」（12.1%）の順となっている。



性別で見ると、男性は女性に比べ「自治会、婦人会、老人会などの活動」「防災・防犯などの活動」「行政の各種委員会や審議会の委員などの公的活動」などの割合が高く、女性は「PTA、子ども会などの活動」などで男性を上回っている。



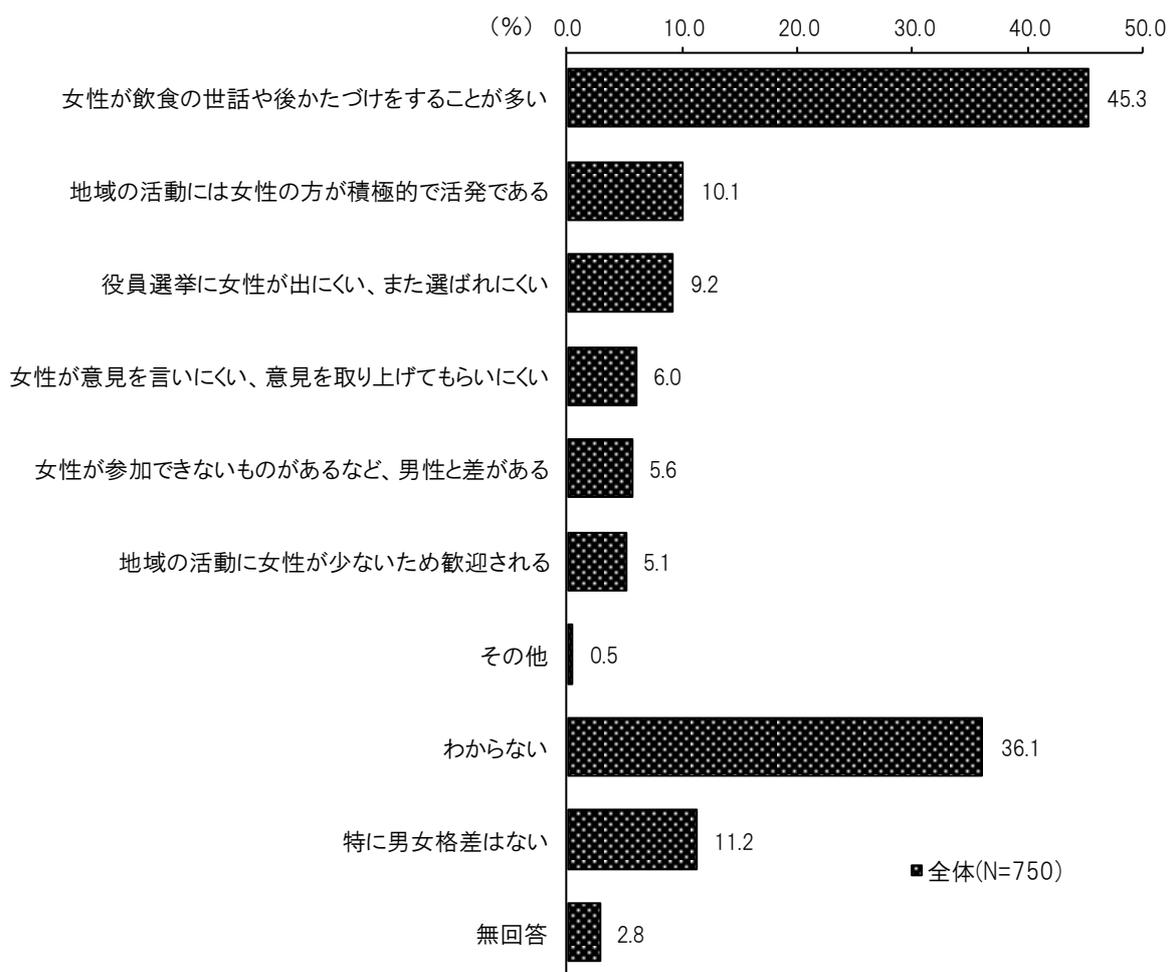
年齢別でみると、若い年齢層ほど「特に参加していない」が高い傾向にある。また、40歳代では「PTA、子ども会などの活動」、60歳代以上では「自治会、婦人会、老人会などの活動」「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動」などが高くなっている。

	自治会などの活動、老人会	趣味や教養、スポーツに関する活動	PTA、子ども会などの活動	リサイクル、環境保護の活動	防災・防犯などの活動	福祉・ボランティアなどの活動	行政の各種委員会などの活動	職業技術や資格の取得に関する活動	ホームステイ受け入れなど国際交流活動	その他	特に参加していない
全体(N=750)	22.7	21.5	18.4	12.9	12.1	8.5	4.7	3.1	1.1	0.9	42.5
【年齢別】											
29歳以下(n=104)	2.9	17.3	4.8	5.8	4.8	5.8	0.0	2.9	1.0	1.0	62.5
30歳代(n=139)	5.8	13.7	23.7	5.0	8.6	4.3	4.3	2.9	0.0	0.7	57.6
40歳代(n=141)	14.9	22.7	36.2	6.4	9.2	7.8	2.1	2.1	1.4	0.0	39.0
50歳代(n=177)	31.6	20.9	22.0	20.9	16.4	10.7	7.3	4.5	1.7	1.1	35.6
60歳代(n=86)	45.3	29.1	3.5	19.8	15.1	12.8	4.7	3.5	0.0	2.3	31.4
70歳以上(n=100)	43.0	29.0	6.0	20.0	18.0	11.0	9.0	2.0	2.0	1.0	29.0

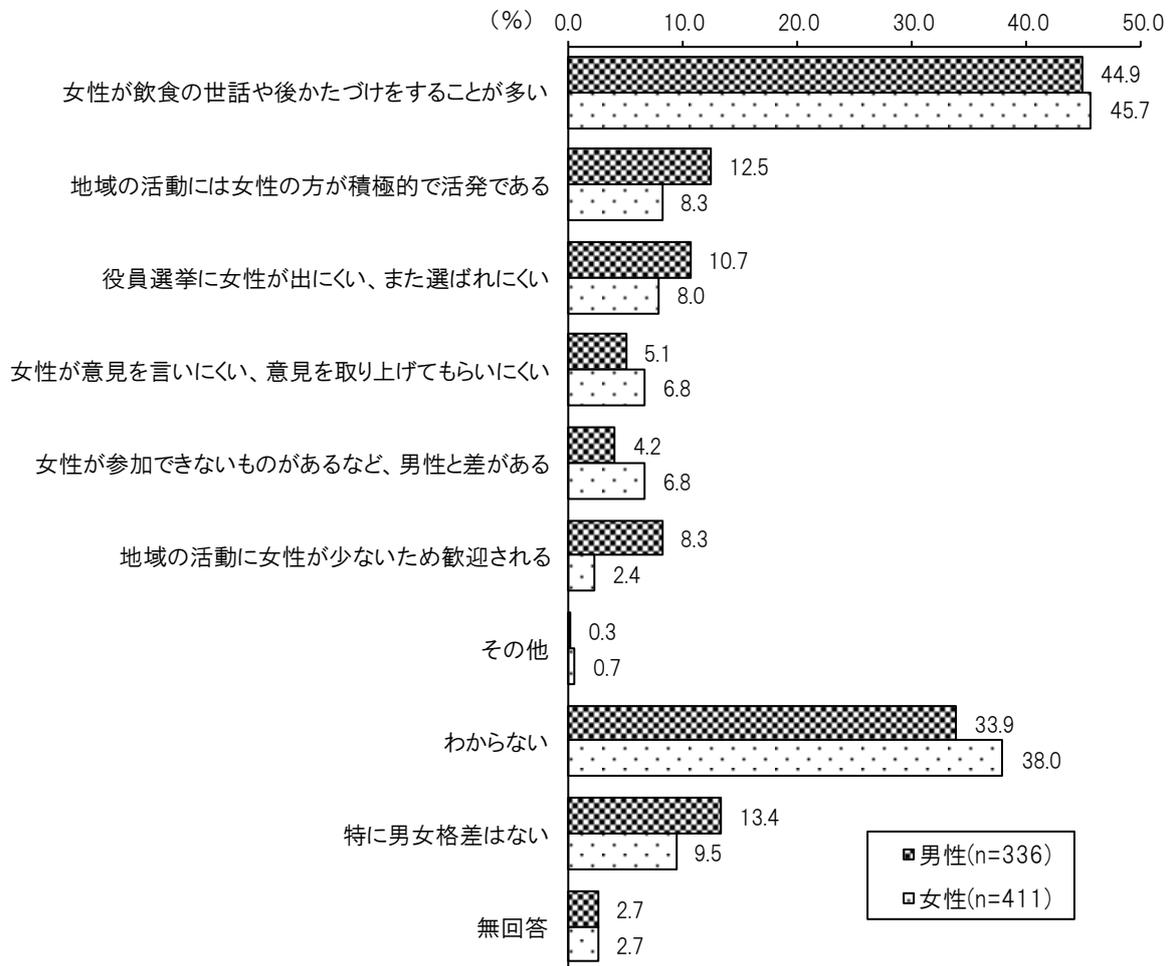
2 地域活動における男女間格差の現状

問 28 あなたの住んでいる地域での行事や会議など、様々な地域活動において、次のような男女間の格差がありますか。(○印いくつでも)

地域活動における男女間格差の現状については、「わからない」が 36.1%を占めるものの、格差の現状としては「女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」の割合が 45.3%と最も高く、次いで「地域の活動には女性の方が積極的に活発である」(10.1%)、「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」(9.2%)の順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「地域の活動には女性の方が積極的で活発である」「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」などの割合が高く、女性は「女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある」などで男性を上回っている。



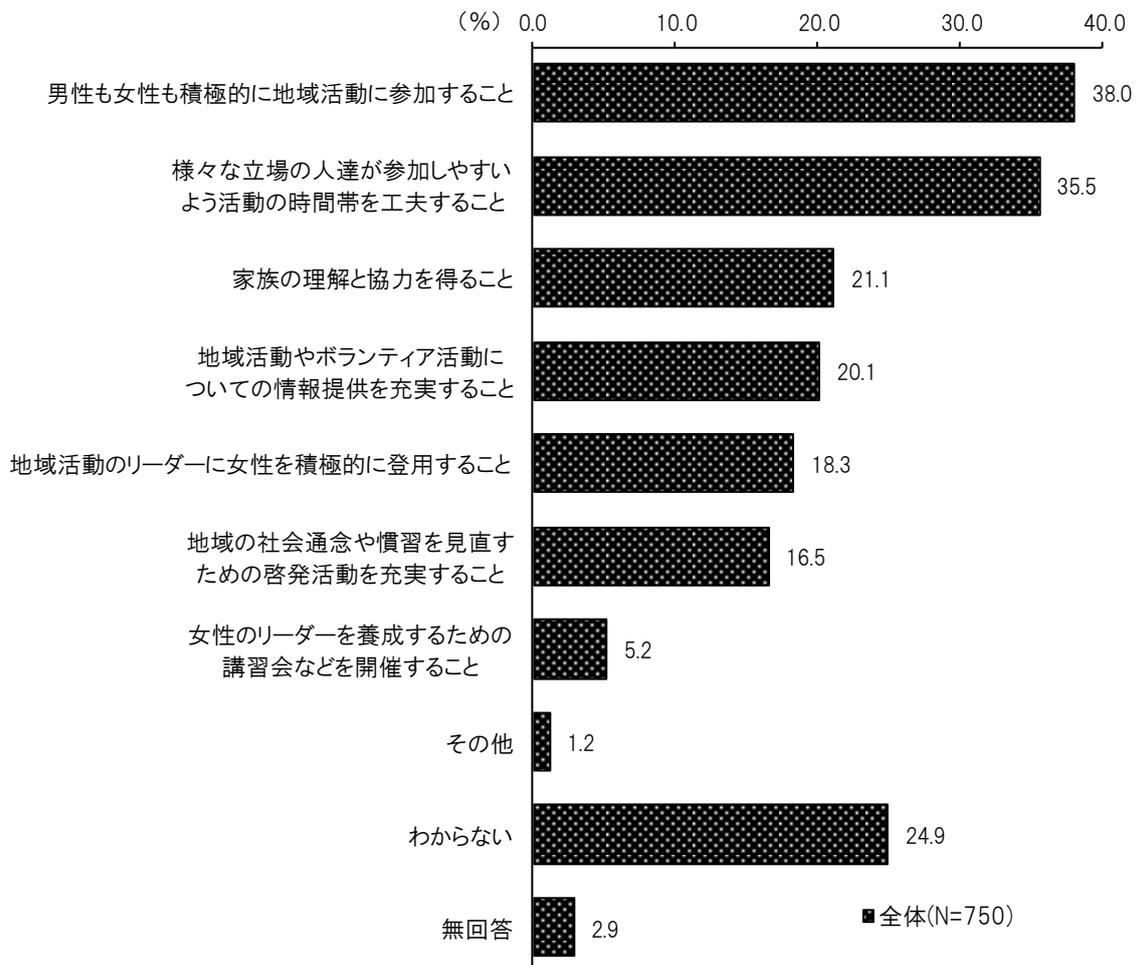
年齢別でみると、年齢が上がるほど「女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」「地域の活動には女性の方が積極的で活発である」などが高くなっている。

	と後女 がかた 多がつ いづ飲 け食の を世話 するこ や	での地 あ方が る積活 極動的 には活 発女性	にに役 くく員 いい選 まに た女 選性 ばが れ出	げく女 てい、 も、意 ら意見 いにを く取言 りい上	性も女 との性 差が参 がある加 あるな ど、き 男	る少地 ないの た活 め動 に女 迎性 され	そ 他	わ か ら な い	特 に 男 女 格 差 は な い
全体(N=750)	45.3	10.1	9.2	6.0	5.6	5.1	0.5	36.1	11.2
【年齢別】									
29歳以下(n=104)	25.0	1.9	2.9	4.8	1.9	1.9	0.0	56.7	11.5
30歳代(n=139)	41.0	3.6	5.8	3.6	4.3	2.2	0.7	49.6	2.9
40歳代(n=141)	47.5	6.4	11.3	6.4	9.2	6.4	0.0	34.8	11.3
50歳代(n=177)	49.7	10.7	9.6	9.0	6.8	7.3	0.0	30.5	15.3
60歳代(n=86)	53.5	15.1	14.0	5.8	4.7	7.0	2.3	22.1	15.1
70歳以上(n=100)	55.0	28.0	13.0	5.0	5.0	5.0	1.0	20.0	12.0

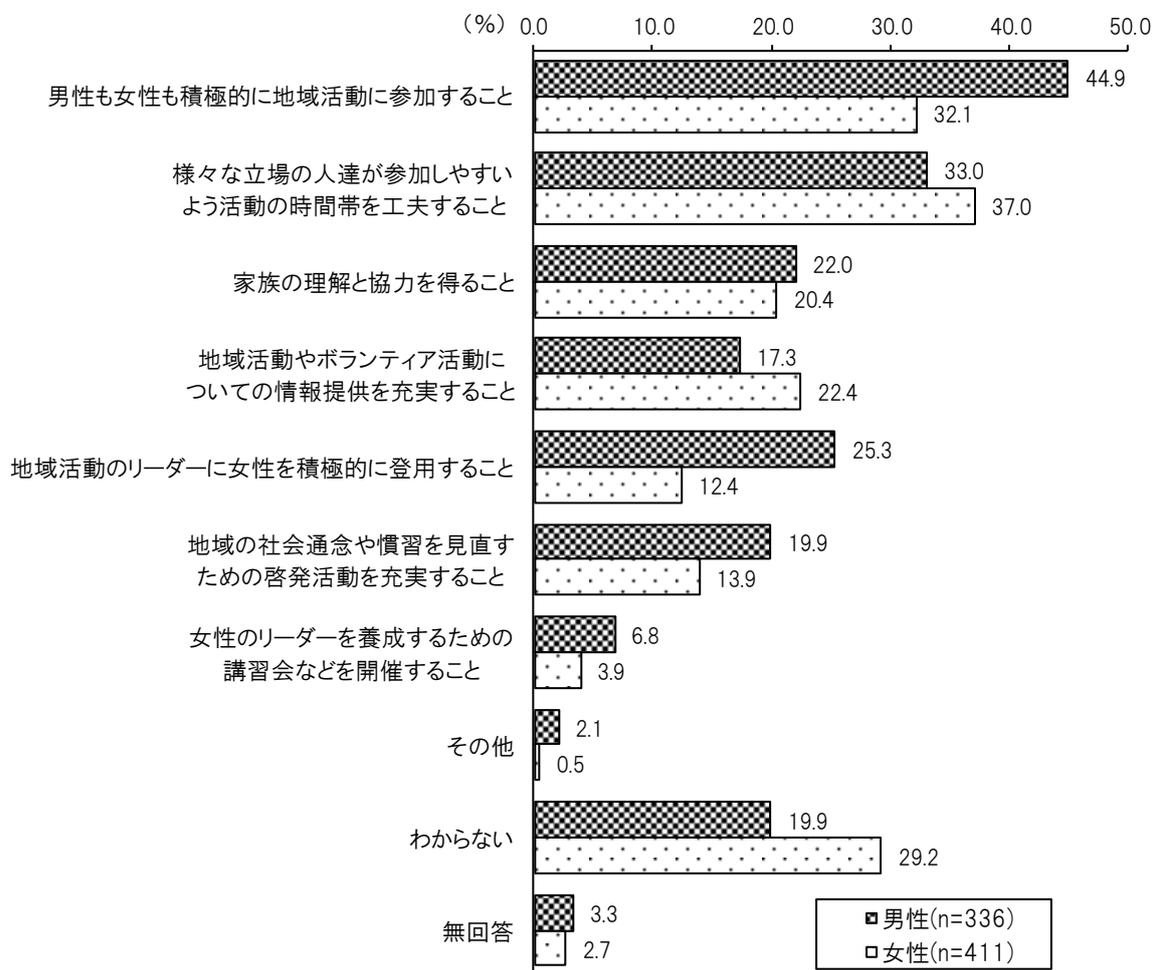
3 地域社会で男女共同参画推進に必要だと思うこと

問 29 あなたの住んでいる地域での様々な活動において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

地域社会で男女共同参画推進に必要だと思うことについては、「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」の割合が38.0%と最も高く、次いで「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」（35.5%）、「家族の理解と協力を得ること」（21.1%）、「地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること」（20.1%）の順となっている。また、「わからない」が24.9%みられた。



性別でみると、男性は女性に比べ「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」「地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること」などの割合が高く、女性は「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」「地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること」などで男性を上回っている。



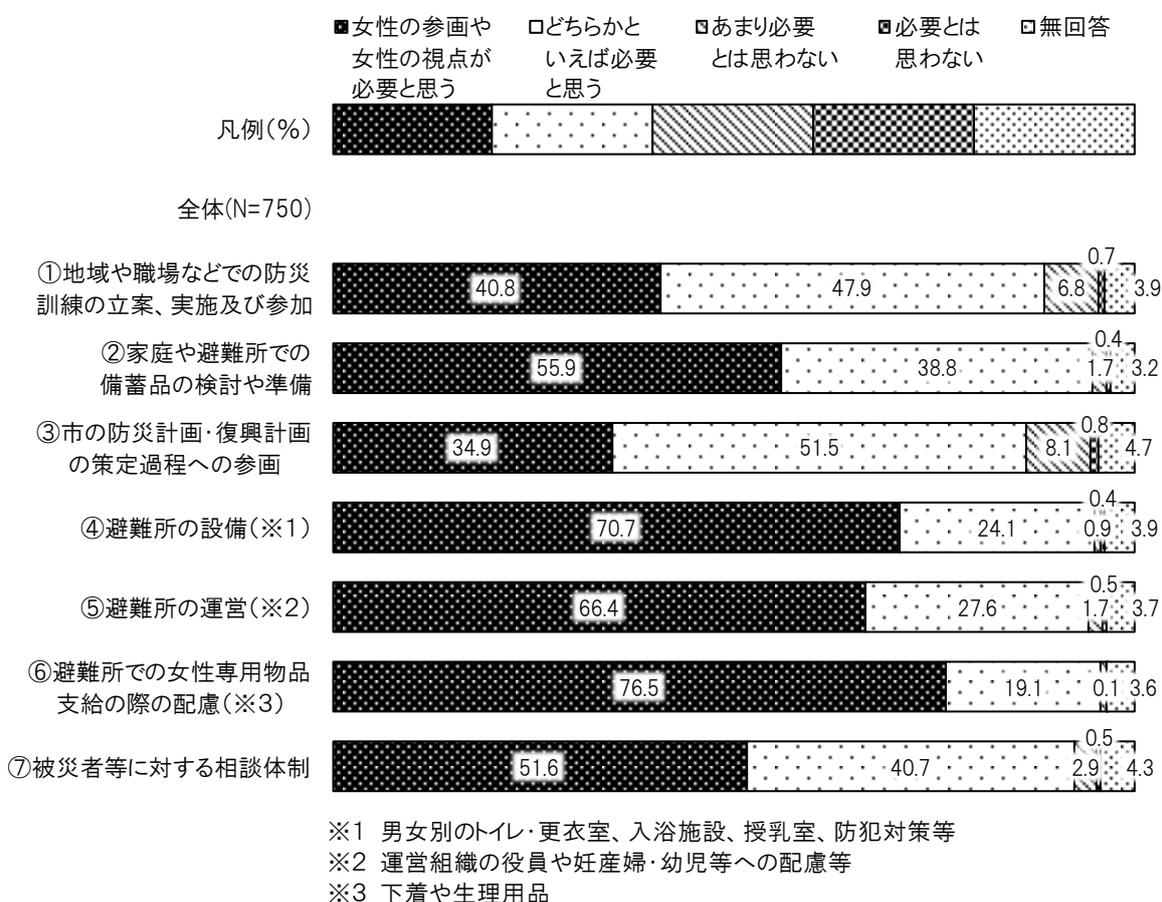
年齢別でみると、50歳代以上の年齢層では「男性も女性も積極的に地域活動に参加すること」が高く、30歳代では「家族の理解と協力を得ること」、29歳以下では「わからない」などがそれぞれ高くなっている。

	域男性活動にも女性も参加する積極的な地域	帯し様をやすいな立場の活動が参加	こ家族の理解と協力を得る	を活動についでの情報提供	と地域活動やボランティア	と性を積極的にリーダーに	充見直地域の社会啓発活動を	催すための講習会を開	その他	わからない
全体(N=750)	38.0	35.5	21.1	20.1	18.3	16.5	5.2	1.2	24.9	
【年齢別】										
29歳以下(n=104)	24.0	26.9	15.4	23.1	5.8	8.7	2.9	1.9	44.2	
30歳代(n=139)	28.8	33.8	29.5	15.1	17.3	16.5	1.4	0.7	31.7	
40歳代(n=141)	36.2	34.0	17.0	22.0	19.1	17.0	6.4	1.4	27.7	
50歳代(n=177)	46.9	37.9	26.6	22.6	19.8	20.9	8.5	1.7	14.7	
60歳代(n=86)	45.3	43.0	11.6	23.3	24.4	19.8	8.1	1.2	16.3	
70歳以上(n=100)	45.0	36.0	20.0	14.0	23.0	14.0	3.0	0.0	18.0	

4 防災や・復興の場等における女性の参画

問 30 次にあげる防災や災害、復興の場において、どの程度女性の参画や女性の視点が必要と思いますか。①～⑦のそれぞれについてお答えください。(○印1つつつ)

防災や・復興の場等における女性の参画について①～⑦の項目をみると、「女性の参画や女性の視点が必要と思う」の割合が高い順に「⑥避難所での女性専用物品支給の際の配慮(下着や生理用品)」(76.5%)、「④避難所の設備(男女別のトイレ・更衣室、入浴施設、授乳室、防犯対策等)」(70.7%)、「⑤避難所の運営(運営組織の役員や妊産婦・幼児等への配慮等)」(66.4%)の順となっている。



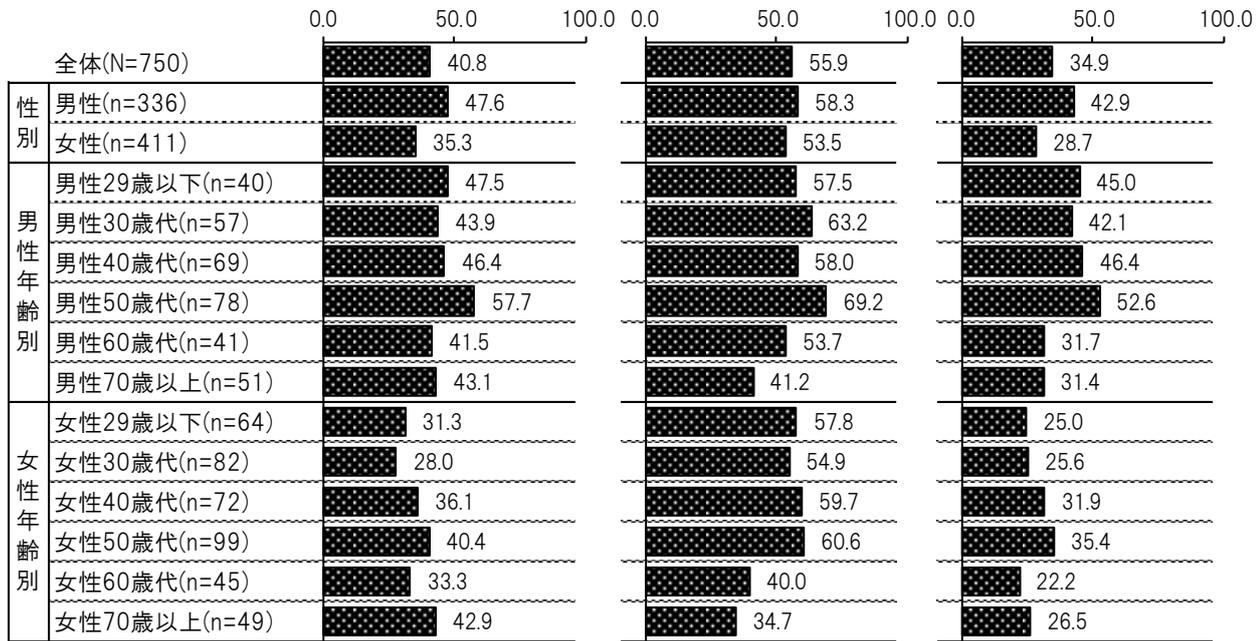
「女性の参画や女性の視点が必要と思う」の割合を属性別でみると、「①地域や職場などでの防災訓練の立案、実施及び参加」や「③市の防災計画・復興計画の策定過程への参画」では男性に比べ女性の割合が低くなっている。「⑤避難所の運営(運営組織の役員や妊産婦・幼児等への配慮等)」や「⑥避難所での女性専用物品支給の際の配慮(下着や生理用品)」については、女性30～50歳代の割合が高くなっている。

女性の参画や女性の
視点が必要と思う割合

①地域や職場などでの防災訓
練の立案、実施及び参加

②家庭や避難所での備蓄品
の検討や準備

③市の防災計画・復興計画の
策定過程への参画

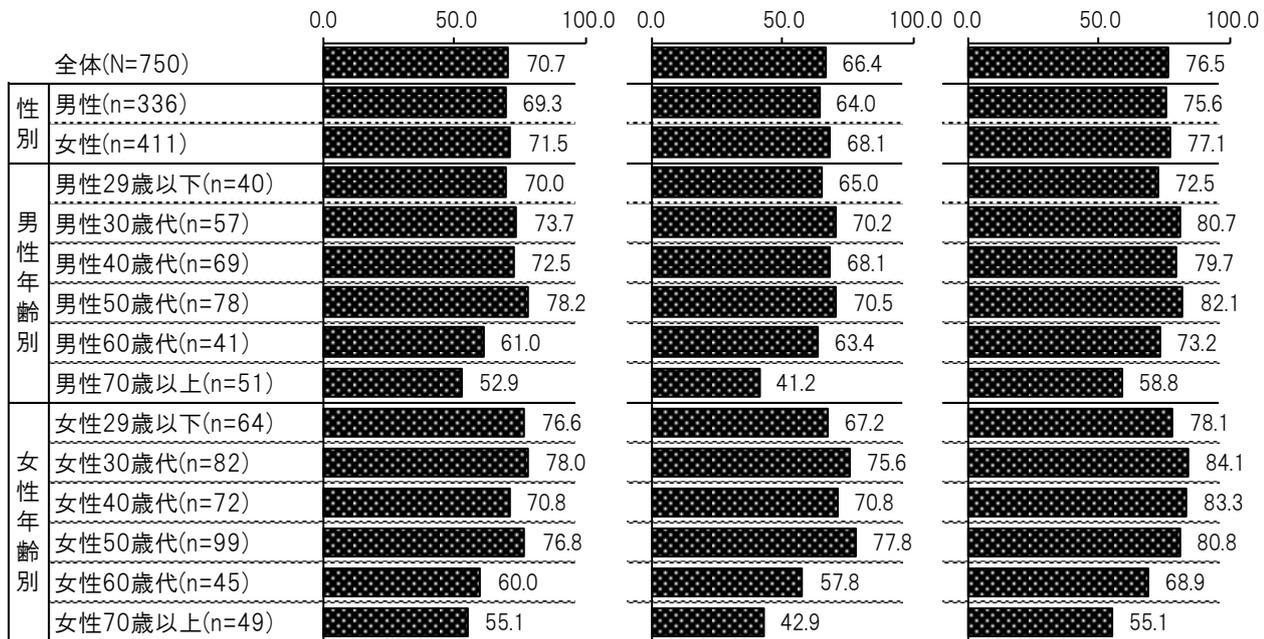


女性の参画や女性の
視点が必要と思う割合

④避難所の設備(※1)

⑤避難所の運営(※2)

⑥避難所での女性専用物品
支給の際の配慮(※3)



※1 男女別のトイレ・更衣室、入浴施設、授乳室、防犯対策等

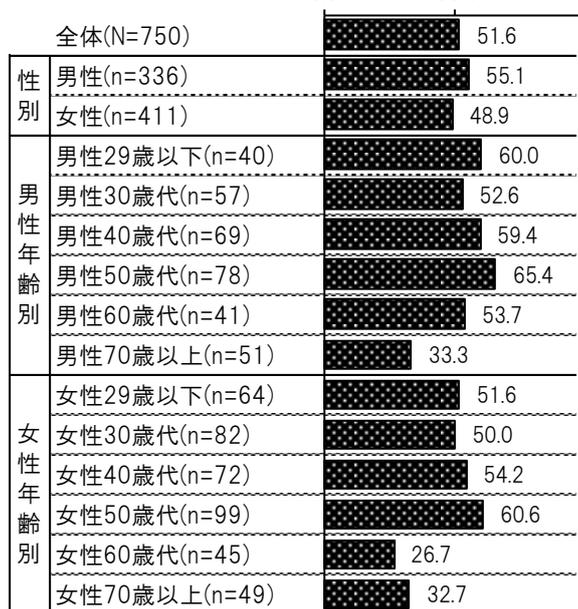
※2 運営組織の役員や妊産婦・幼児等への配慮等

※3 下着や生理用品

女性の参画や女性の
視点が必要と思う割合

⑦被災者等に対する
相談体制

0.0 50.0 100.0

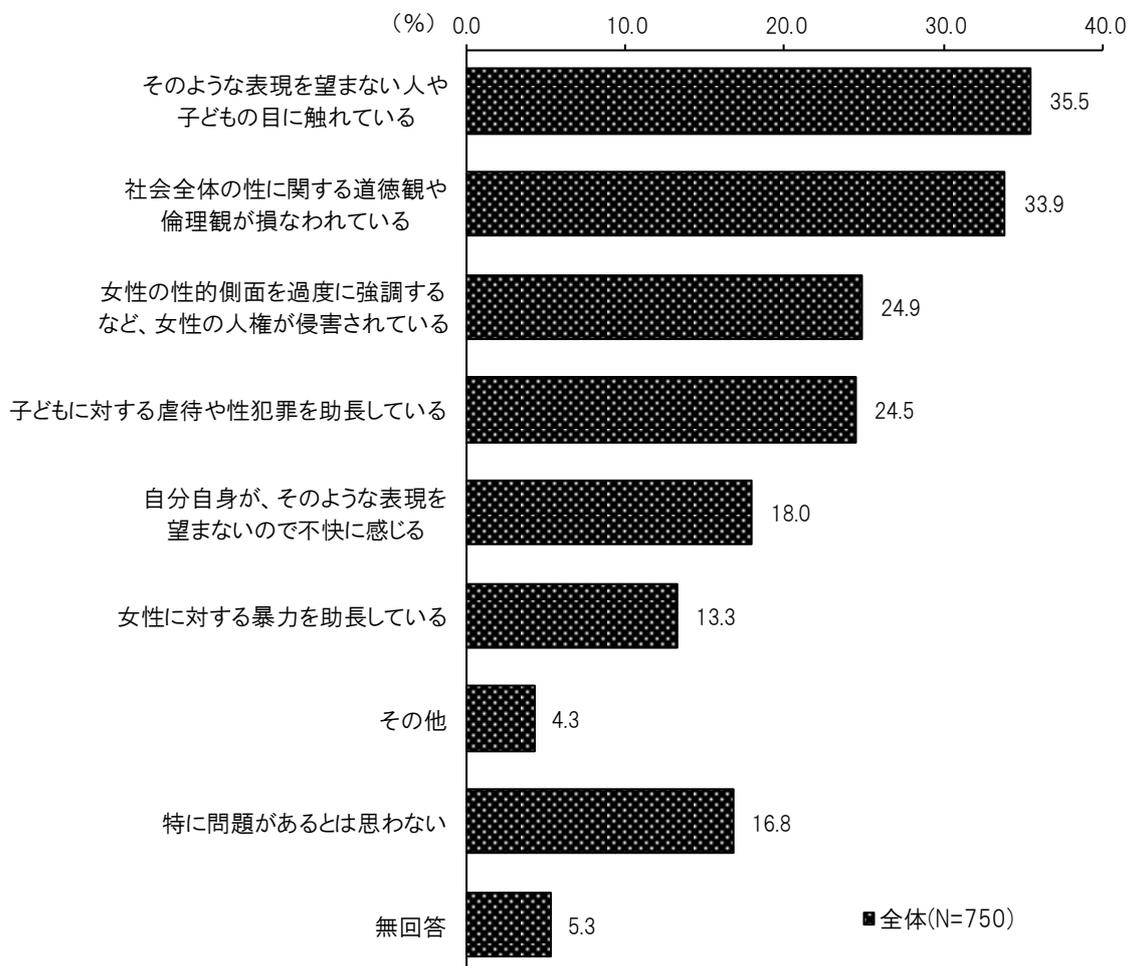


【5】ドメスティック・バイオレンス（DV）について

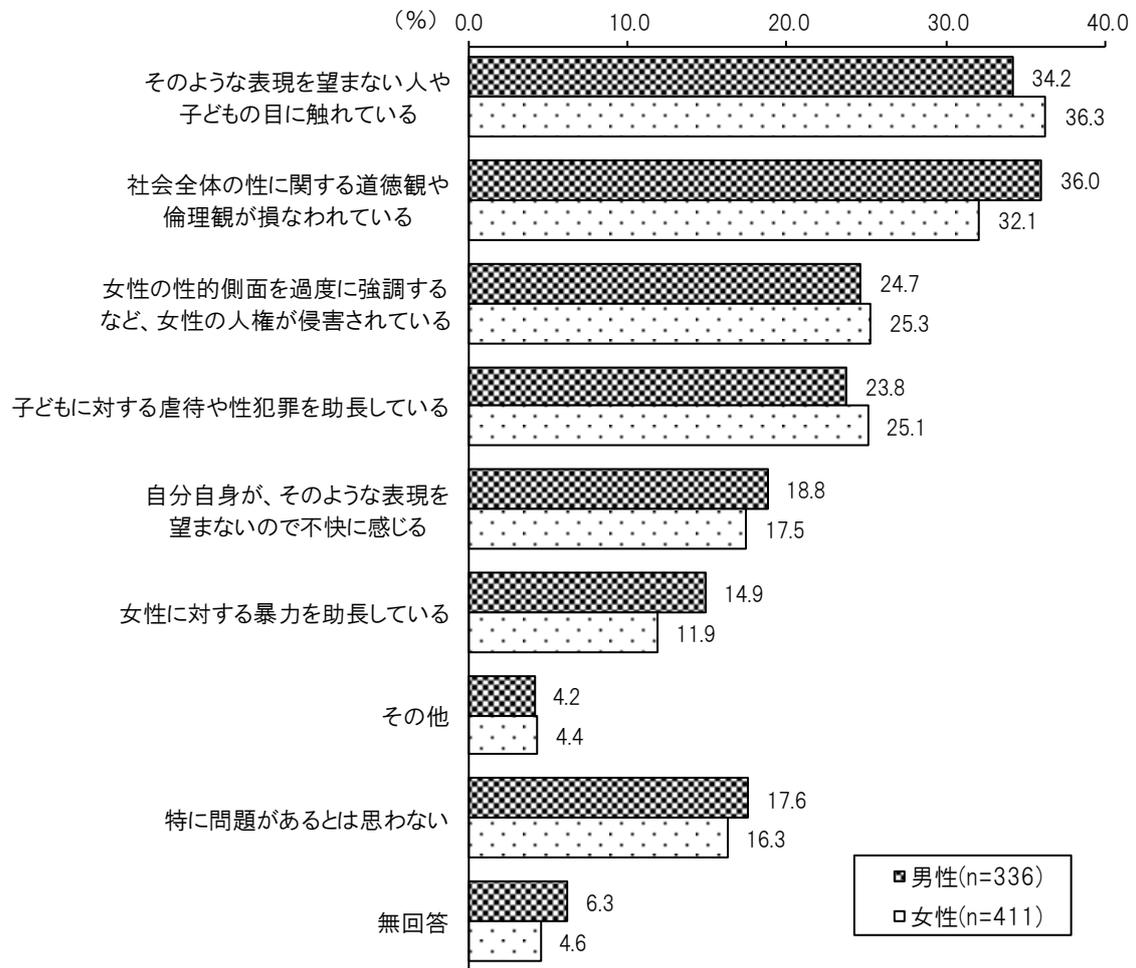
1 メディアにおける性・暴力表現について

問 31 あなたは、テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。（○印いくつでも）

メディアにおける性・暴力表現については、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」の割合が35.5%と最も高く、ほぼ並んで「社会全体の性に関する道徳観や倫理観が損なわれている」（33.9%）が続いている。以下、「女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている」（24.9%）、「子どもに対する虐待や性犯罪を助長している」（24.5%）の順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「社会全体の性に関する道德観や倫理観が損なわれている」の割合がやや高く、女性は「そのような表現を望まない人や子どもに目についている」がやや高くなっている。



年齢別でみると、若い年齢層ほど「特に問題があるとは思わない」が高い傾向にあり、年齢が上がるほど「子どもに対する虐待や性犯罪を助長している」「自分自身が、そのような表現を望まないのに不快に感じる」などが高くなっている。また、40歳代では「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」が高くなっている。

	ていそ い人や 子ども のよう な表現 の現目 を望ま れな	て徳社 い観会 るや全 る倫体 の性 観に が損 関す わる れ道	権強女 が調性 がすの 侵害 的側 さな れど 、面 をを 性過 の度 人に	犯子 罪ど をも に助 長し てす る虐 待や 性	に表自 感現分 じるを を望 望ま が、 その よう な不 快な	して女 性性 にに 対対 する 暴 力を 助 長	そ の 他	な特 い に 問 題 が あ る と は 思 わ
全体(N=750)	35.5	33.9	24.9	24.5	18.0	13.3	4.3	16.8
【年齢別】								
29歳以下(n=104)	31.7	22.1	12.5	17.3	10.6	11.5	4.8	28.8
30歳代(n=139)	33.8	22.3	20.1	20.9	12.2	11.5	7.9	23.0
40歳代(n=141)	53.2	32.6	26.2	22.0	17.0	12.1	1.4	17.0
50歳代(n=177)	34.5	44.6	36.2	24.9	20.3	15.8	5.1	10.7
60歳代(n=86)	34.9	45.3	22.1	31.4	17.4	11.6	0.0	10.5
70歳以上(n=100)	18.0	35.0	26.0	34.0	32.0	16.0	5.0	12.0

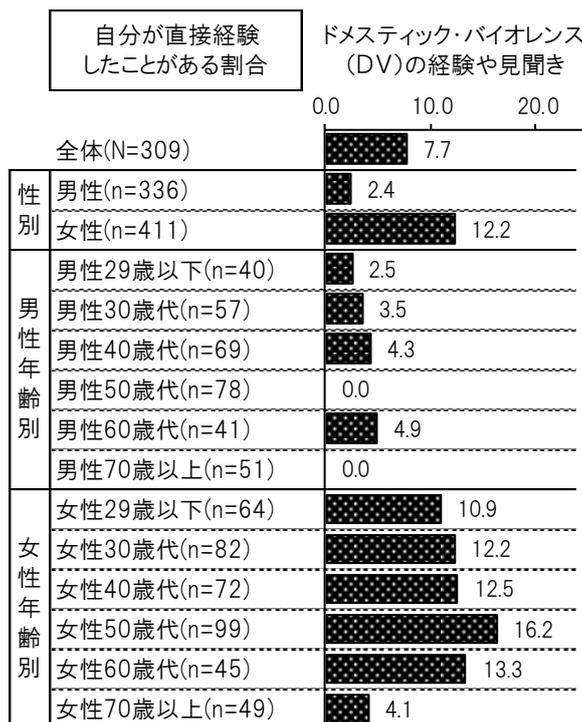
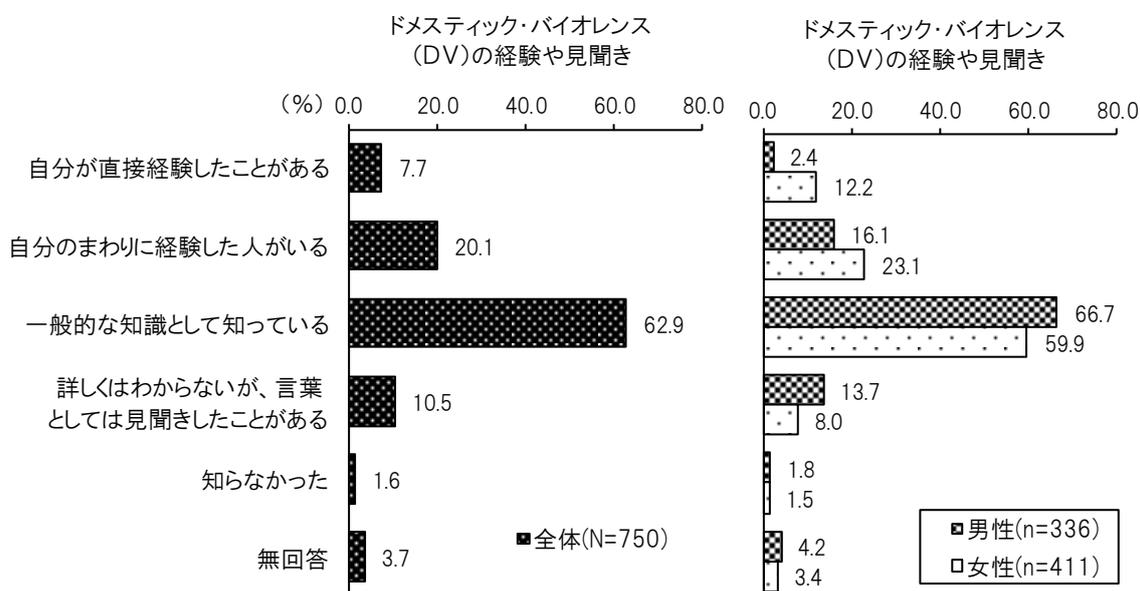
2 ドメスティック・バイオレンスの経験について

(1) DVの経験

問 32 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）

DVの経験については、「自分が直接経験したことがある」の割合が7.7%、「自分のまわりに経験した人がある」が20.1%となっている。

「自分が直接経験したことがある」の割合を性別で見ると、女性の約1割（12.2%）が経験しており、特に女性50歳代で他の年齢層を上回っている。

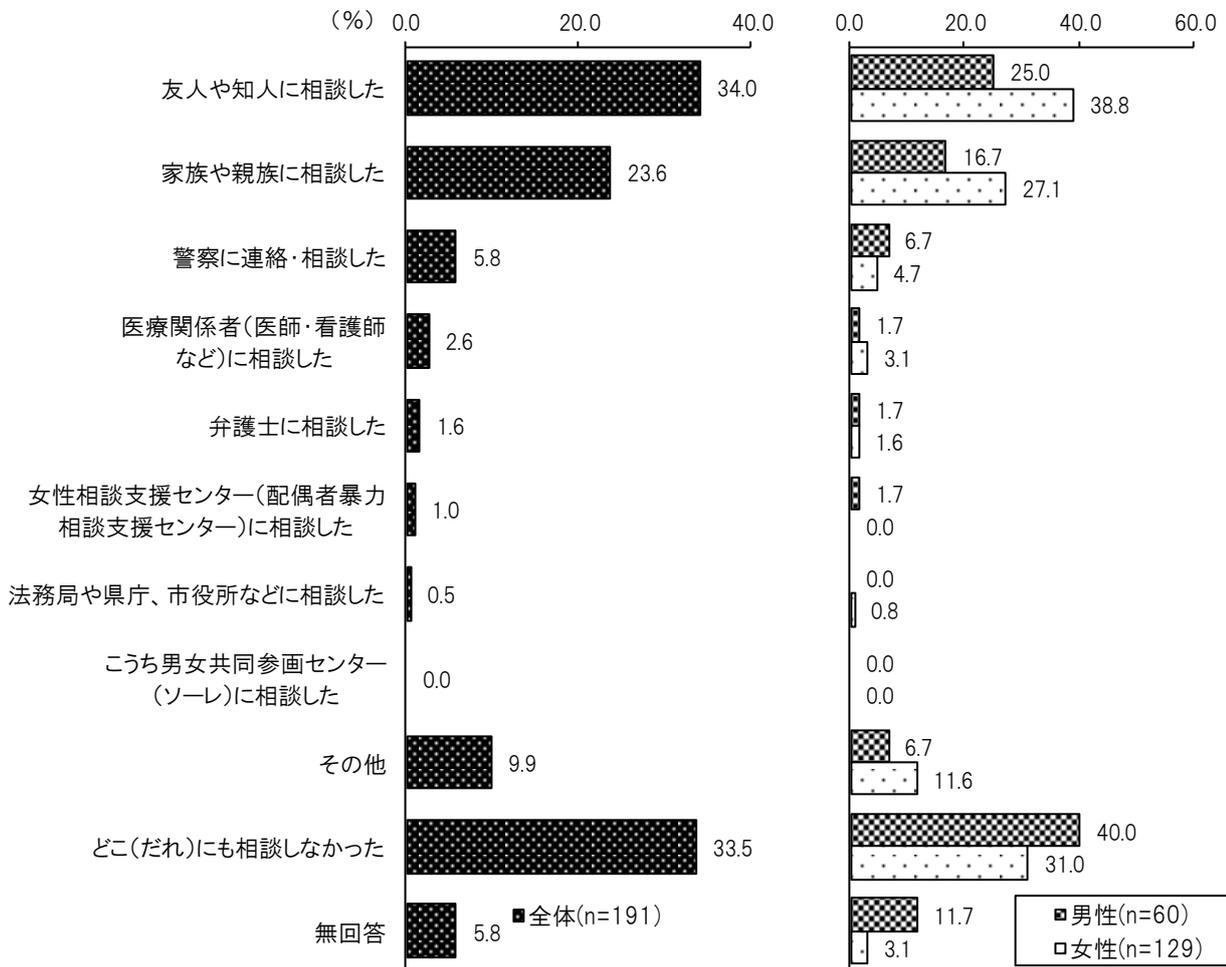


(2) DV経験者の相談状況

問 33 【問 32 で「1～2」と回答した人におたずねします】あなたは、経験したことや見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇印いくつでも)

DV経験者の相談状況については、「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が33.5%みられるが、相談状況としては「友人や知人に相談した」(34.0%)、「家族や親族に相談した」(23.6%)が高くなっている。

性別では、男性は女性に比べ「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が高いが、女性は「友人や知人に相談した」「家族や親族に相談した」などで男性を大きく上回っている。

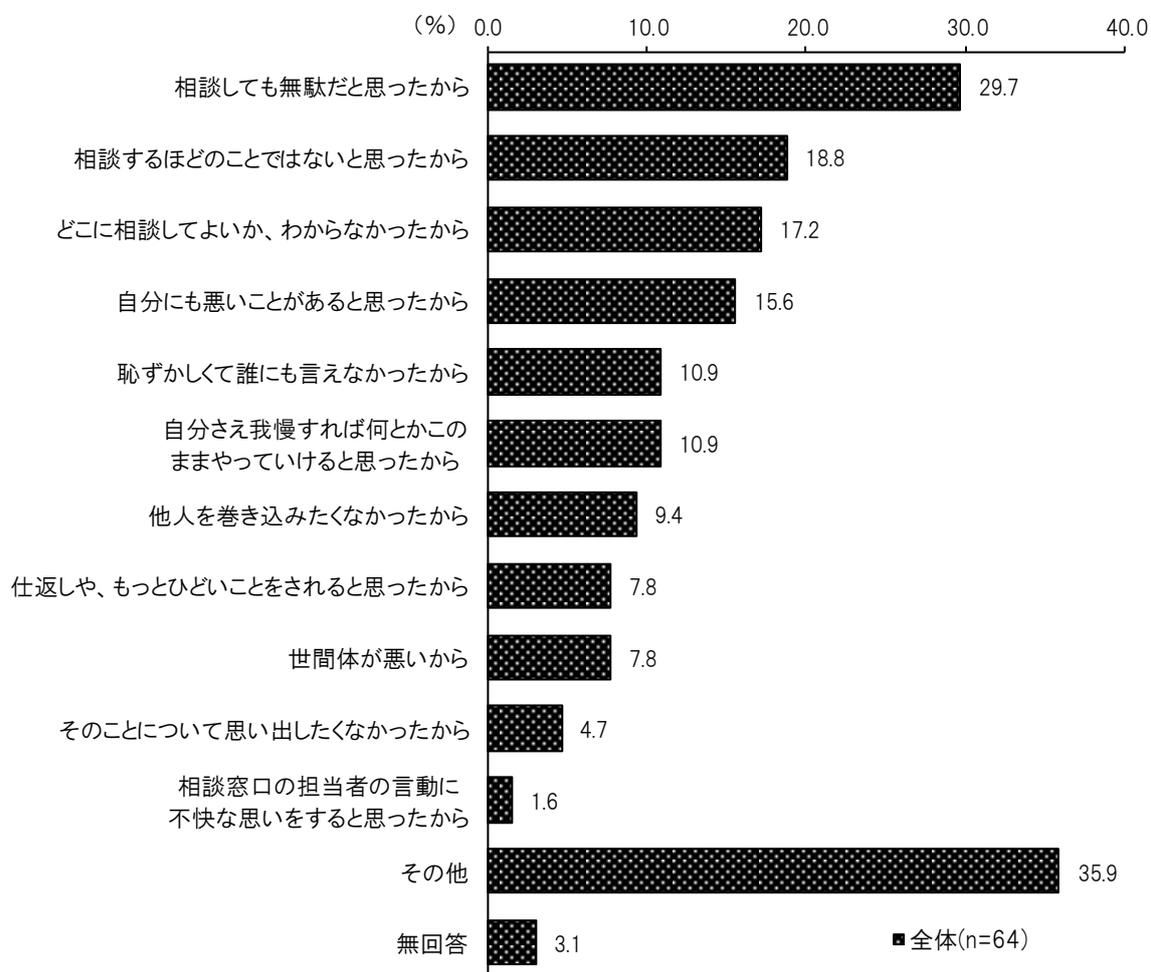


(3) どこにも相談しなかった理由

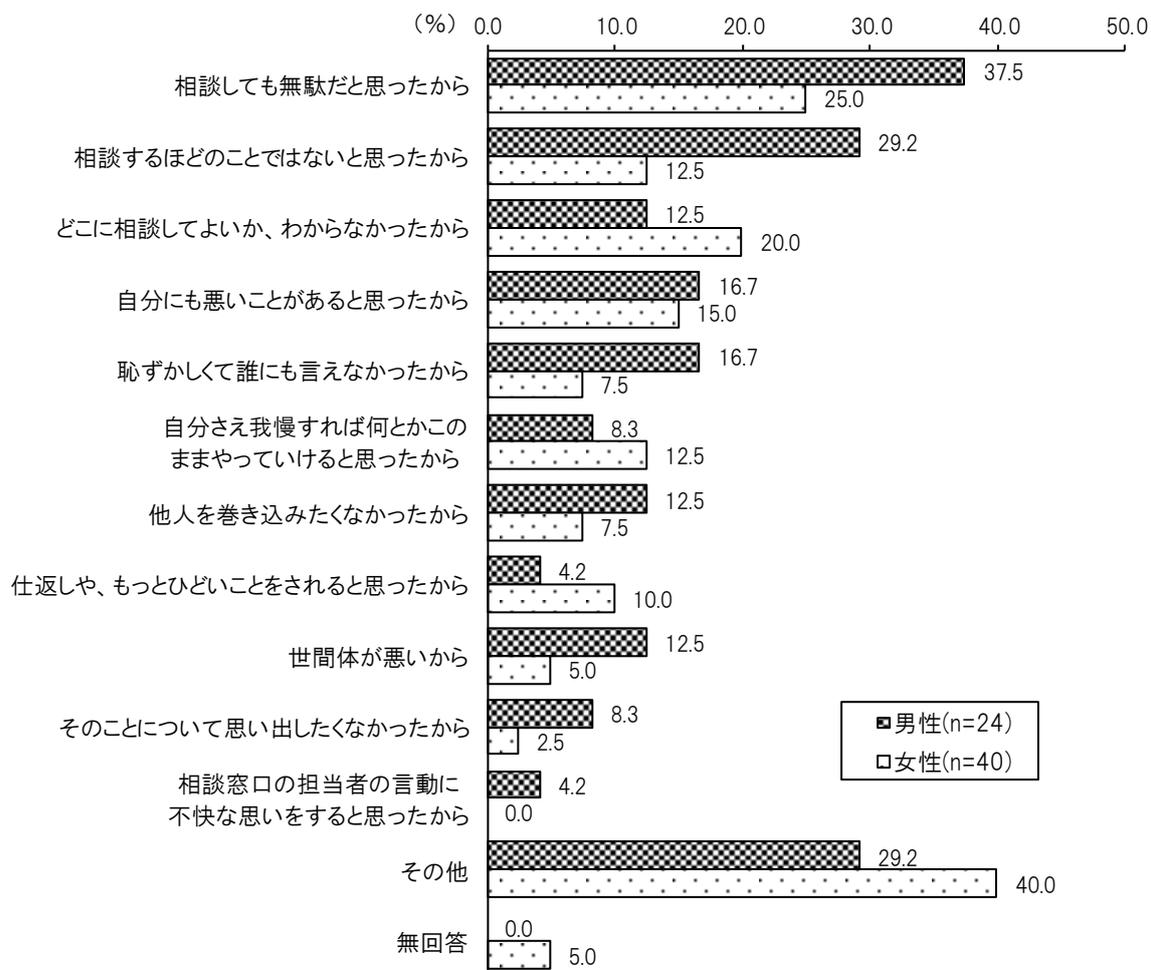
問 34 【問 33 で「10」と回答した人におたずねします】あなたが「どこ（だれ）にも相談しなかった」のは、どのような理由からですか。（○印いくつでも）

どこにも相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」の割合が29.7%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」（18.8%）、「どこに相談してよいか、わからなかったから」（17.2%）、「自分にも悪いことがあると思ったから」（15.6%）の順となっている。

なお、「その他」の回答が35.9%みられるが、「解決済みだった」「職場の同僚で、殴られた跡があったが一度だけだった」「親戚のことだったので、近い親族に任せていた」「相談しても解決しないと思った」「それが理由で離婚したため」「本人が求めていなかったから」などの意見がみられた。



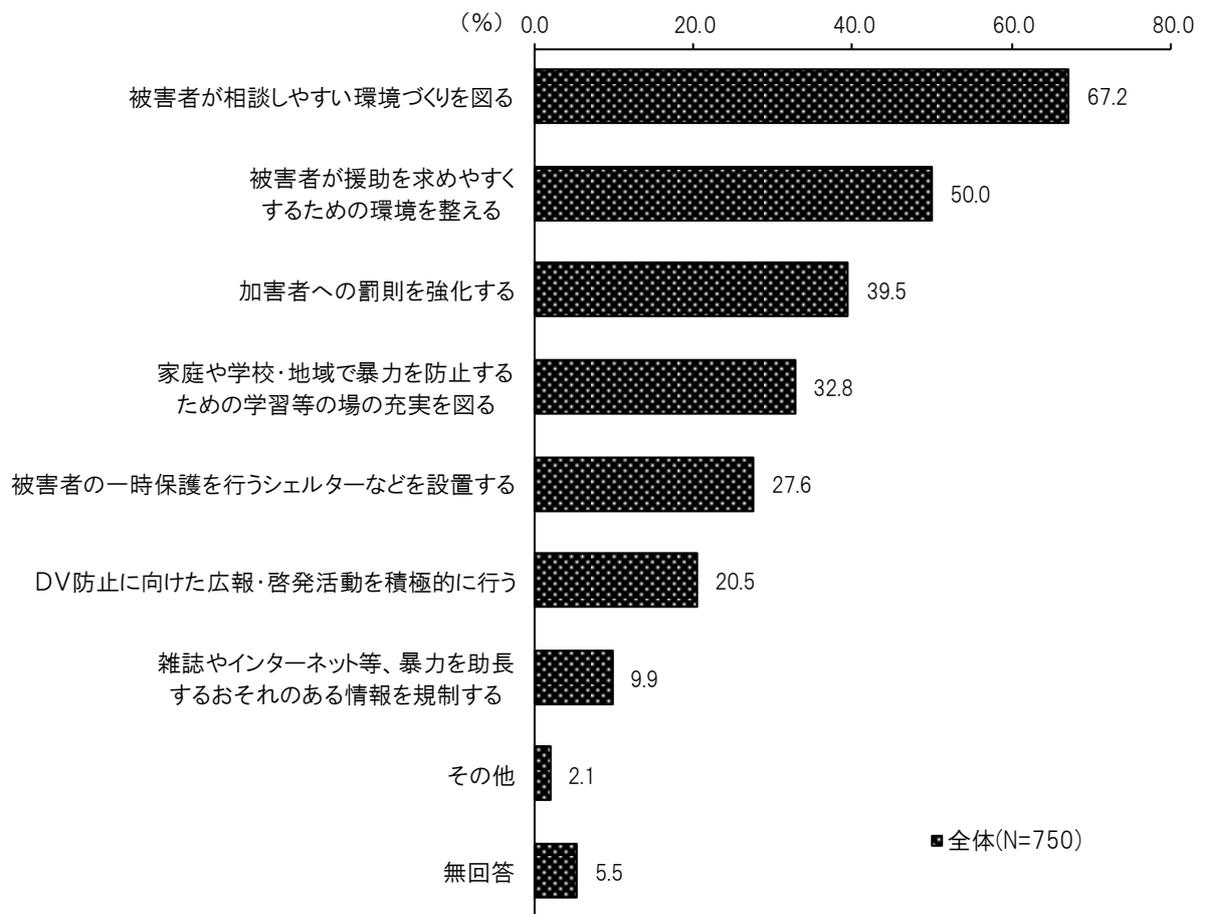
性別でみると、男性は女性に比べ「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「世間体が悪いから」などの割合が高く、女性は「どこに相談してよいか、わからなかったから」「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」「仕返しや、もっとひどいことをされると思ったから」などで男性を上回っている。



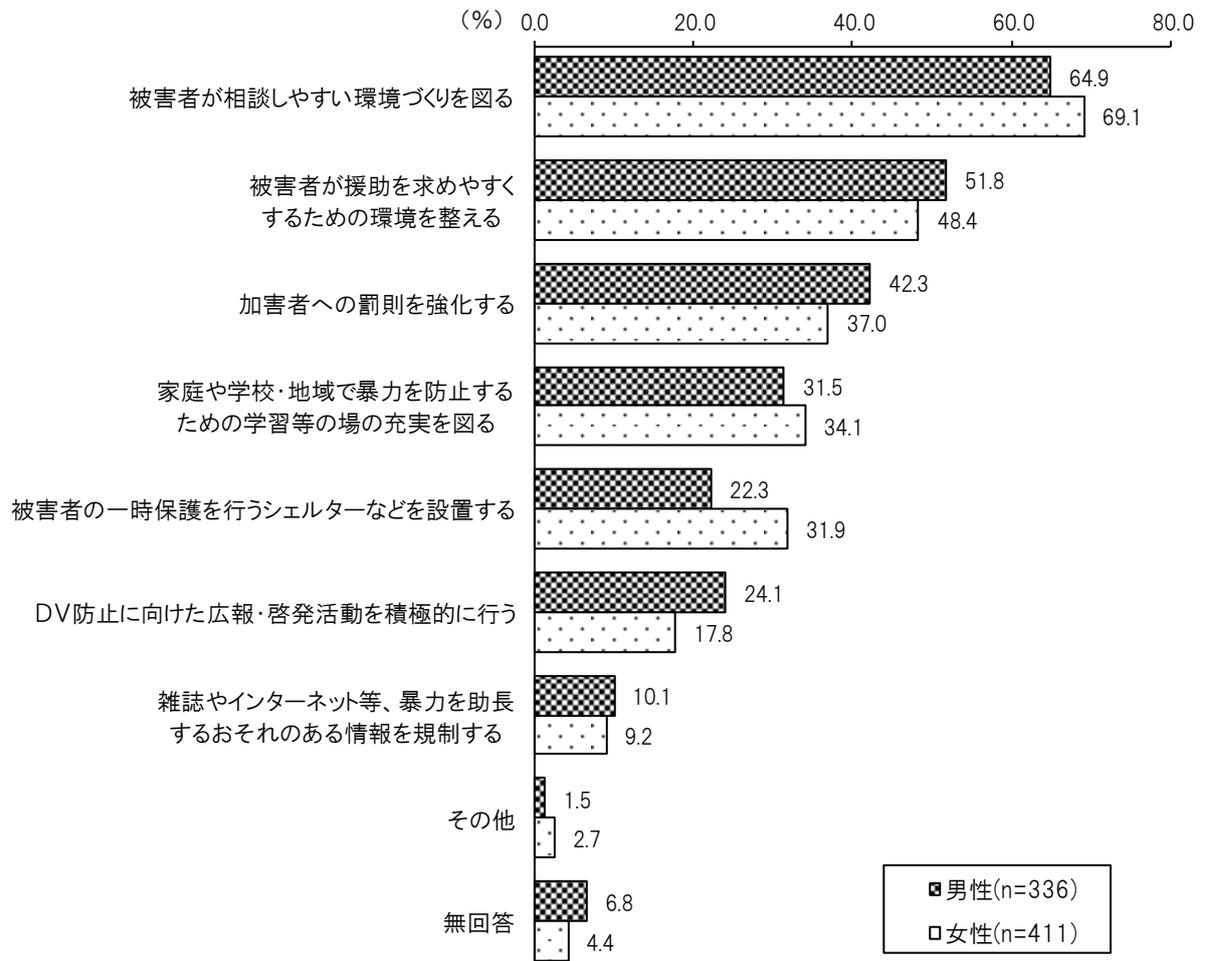
3 DVを防ぐために必要だと思うこと

問 35 今後、ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐためには、どのような取組が必要だと思いますか。（○印3つまで）

DVを防ぐために必要だと思うことについては、「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」の割合が67.2%と最も高く、次いで「被害者が援助を求めやすくするための環境を整える」（50.0%）、「加害者への罰則を強化する」（39.5%）、「家庭や学校・地域で暴力を防止するための学習等の場の充実を図る」（32.8%）の順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「加害者への罰則を強化する」「DV防止に向けた広報・啓発活動を積極的に行う」などが高く、女性は「被害者が相談しやすい環境づくりを図る」「被害者の一時保護を行うシェルターなどを設置する」などで男性を上回っている。



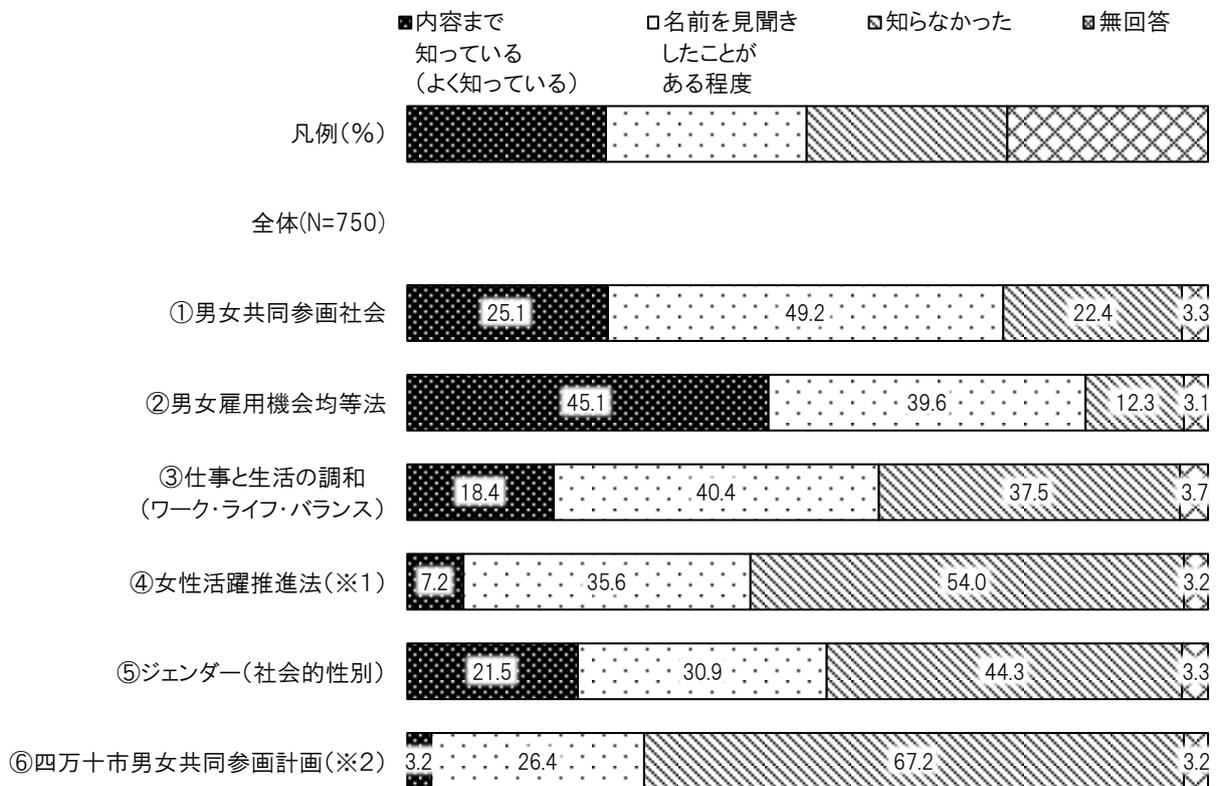
【6】男女共同参画社会について

1 男女共同参画に関する用語の認知状況

問 36 あなたは、次にあげる用語の意味をご存じですか。（○印1つずつ）

①～⑥の男女共同参画に関する用語の認知状況について「内容まで知っている（よく知っている）」の割合が高い順に、「②男女雇用機会均等法」（45.1%）、「①男女共同参画社会」（25.1%）、「⑤ジェンダー（社会的性別）」（21.5%）となっている。

一方で、「知らなかった」の割合が高い順に、「⑥四万十市男女共同参画計画（新・しまんと男女共同参画プラン）」（67.2%）、「④女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）」（54.0%）となっている。



※1 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律

※2 新・しまんと男女共同参画プラン

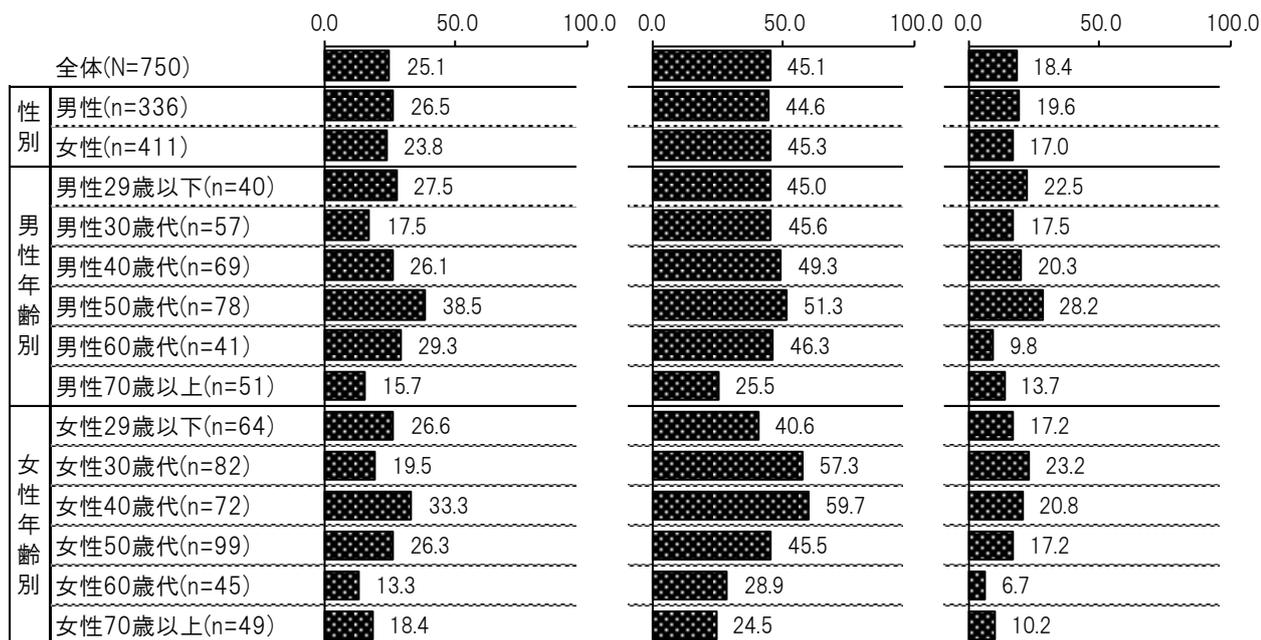
「内容まで知っている（よく知っている）」の割合を属性別で見ると、「②男女雇用機会均等法」では、男性は70歳以上を除き各年齢層ともに4割程度となっているが、女性30～40歳代で半数を超え高くなっている。「⑤ジェンダー（社会的性別）」では、女性40歳代以下の年齢層で高くなっている。

内容まで知っている
(よく知っている)割合

①男女共同参画社会

②男女雇用機会均等法

③仕事と生活の調和
(ワーク・ライフ・バランス)

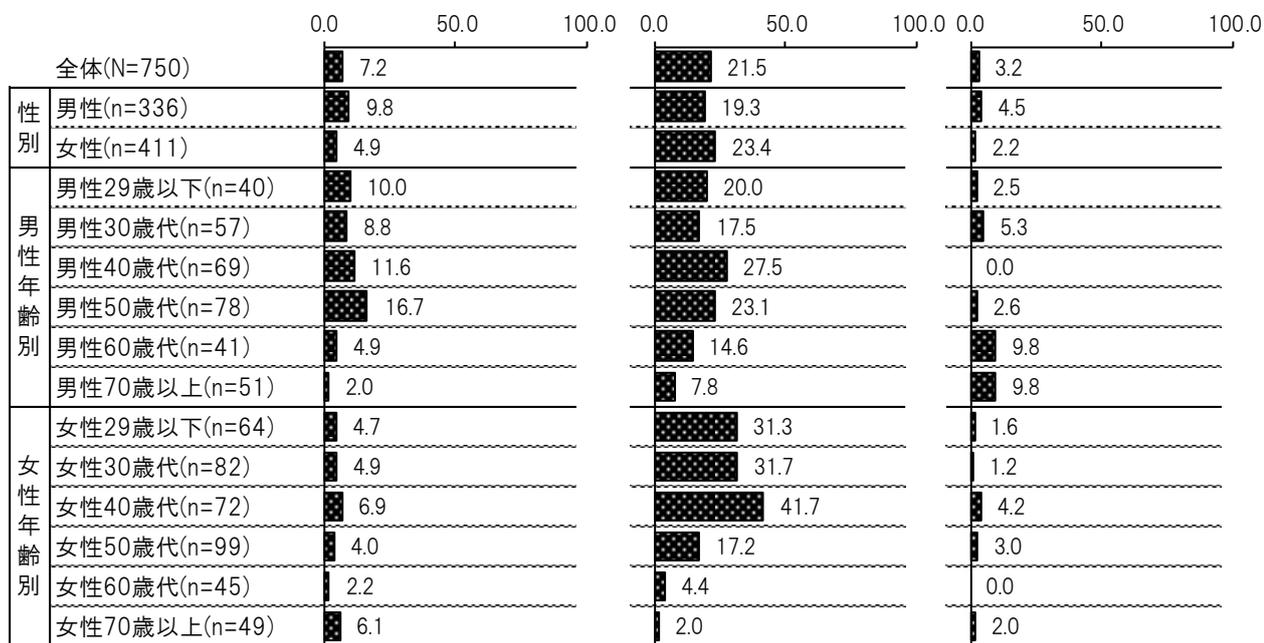


内容まで知っている
(よく知っている)割合

④女性活躍推進法(※1)

⑤ジェンダー(社会的性別)

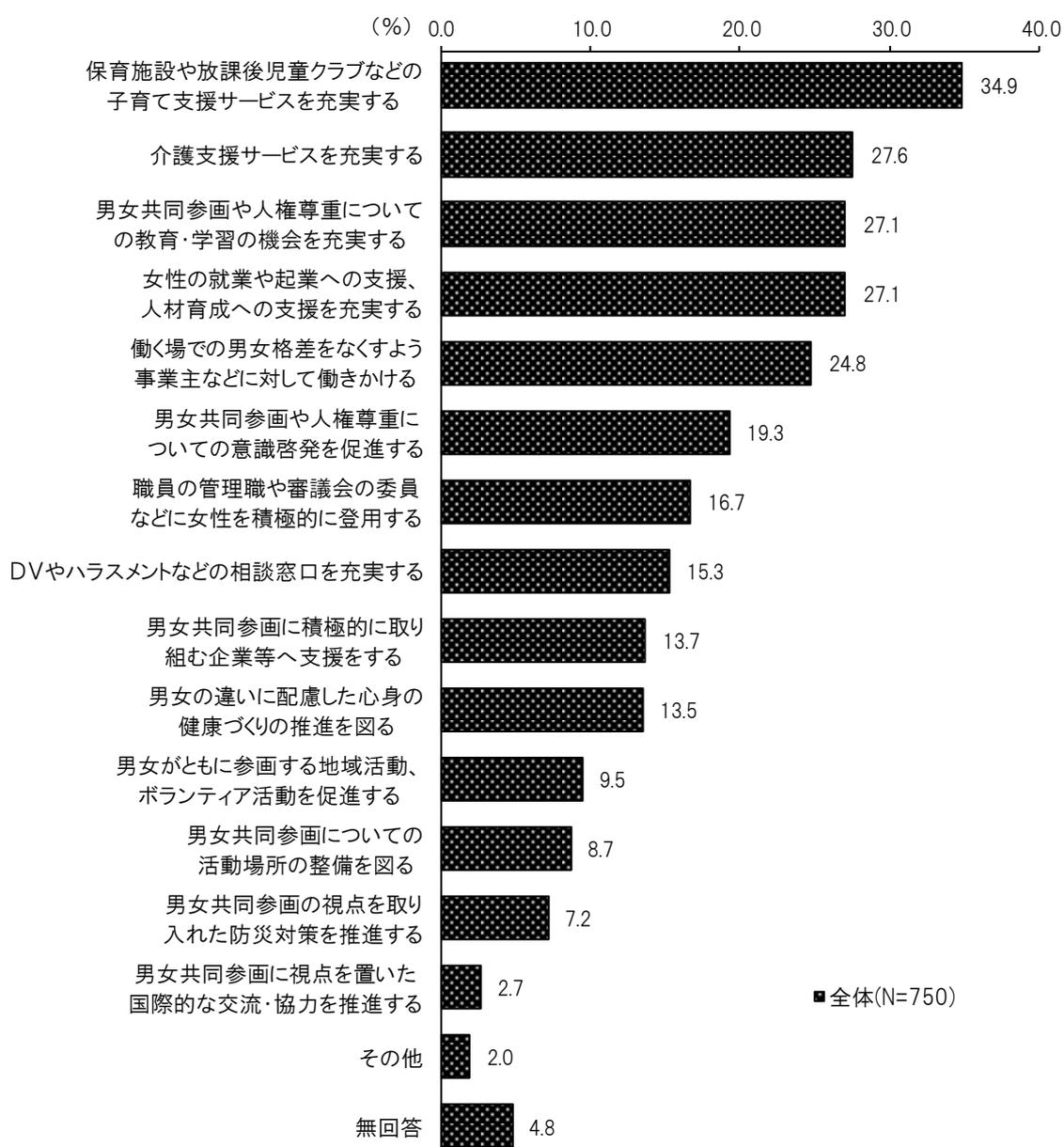
⑥四万十市男女共同参画計画(※2)



2 男女共同参画の推進に必要だと思う施策

問 37 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、四万十市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○印3つまで）

男女共同参画の推進に必要だと思う施策については、「保育施設や放課後児童クラブなどの子育て支援サービスを充実する」の割合が34.9%と最も高く、次いで「介護支援サービスを充実する」(27.6%)、「男女共同参画や人権尊重についての教育・学習の機会を充実する」「女性の就業や起業への支援、人材育成への支援を充実する」(各27.1%)、「働く場での男女格差をなくすよう事業主などに対して働きかける」(24.8%)の順となっている。



四万十市 男女共同参画に関する市民意識調査

～ご協力をお願い～

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。
本市では、平成 25 年 3 月に「新・しまんと男女共同参画プラン」を策定し、男女がともに活躍できる社会を目指して、具体的な施策の取組を進めています。このたび、プランの見直しと今後の男女共同参画の施策を進める上での基礎資料とさせていただくため、標記調査を行うことにいたしました。

このアンケートは、市民の皆様の男女共同参画に関する意識やご意見等をお伺いし、今後の計画づくりのための、基礎的な資料とさせていただくことを目的として実施するものです。

調査の実施にあたっては、18 歳以上の市民の方から無作為に抽出した 2,000 人の方に、アンケート調査を実施することになりました。

このアンケートは無記名であり、個人が特定されることはありません。また、回答は統計的な集計を行い、本調査の目的以外に使用することはありません。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただきまして、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 2 月

四万十市長 中平 正宏

調査のお問い合わせ先

四万十市人権啓発課

〒787-8501 高知県四万十市中村大橋通4丁目 10 番地(電話:0880-35-1035)

記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて(切手を貼らずに)
2月28日(火)までに投函してください。

ご記入にあたってのお願い

- 1 回答は、封筒の宛名のご本人がお答えください。病気や身体の不自由などで、宛名のご本人が直接回答いただくことが難しい場合、家族や介護者の方などが、ご本人の意向を尊重して代筆してください。また、ご不明な点や補助を希望される場合は、表紙に記載の「調査のお問い合わせ先」までお問い合わせください。
- 2 黒の鉛筆又はボールペンでご記入ください。
- 3 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。回答数は、各設問文に（○印1つ）（○印いくつでも）などと指定してありますので、それに従ってご回答ください。
- 4 （○印3つまで）などと回答数の指定がある場合は、あなたの気持ちに最も近いものから順に選んでください。（○印いくつでも）の場合は、あてはまるものを全てお答えください。
- 5 設問によっては、該当する番号に○印をつけた方だけに答えていただく設問がありますので、その説明に従いご記入ください。

1

あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなた（宛名のご本人）の性別をお答えください。（○印1つ）

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの年齢をお答えください。（○印1つ）

- 1 18～29 歳 3 40～49 歳 5 60～69 歳
2 30～39 歳 4 50～59 歳 6 70 歳以上

問3 あなたの職業をお答えください。（○印1つ）

- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| 1 農林水産業の自営業主 | 7 公務員・団体職員 |
| 2 農林水産業の家族従事者 | 8 パート・アルバイト・派遣など |
| 3 商工・サービス業の自営業主 | 9 家事専業 |
| 4 商工・サービス業の家族従事者 | 10 学生 |
| 5 自由業（開業医・弁護士・芸術家など） | 11 無職 |
| 6 正社員・正職員 | 12 その他（ ） |

問4 同居家族の構成についてお答えください。（○印1つ）

- 1 ひとり暮らし（単身世帯）
2 夫婦二人暮らし
3 二世帯同居（親と子）
4 三世帯同居（祖父母と親と子）
5 その他（ ）

問5 あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、次のような方（あなたご自身も含まれます）はいいますか。（○印いくつでも）

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 未就学の子ども | 5 65 歳以上の方 |
| 2 小学生の子ども | 6 介護を必要とする方 |
| 3 中学生の子ども | 7 障害のある方 |
| 4 高校生以上の子ども | 8 いずれもない |

問6 あなたは結婚していますか（婚姻届を出していない「事実婚」を含む）。（○印1つ）

1 未婚 ----- →	問8へお進みください
2 既婚	
3 離別・死別 --- →	問8へお進みください

問7 【問6で「2」と回答した人におたずねします】共働き（パート・アルバイト等含む）の状況についてお答えください。（○印1つ）

1 共働きである
2 共働きではない

2 男女平等意識についておたずねします

問8 あなたは、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④地域活動の中では	1	2	3	4	5	6
⑤議会や政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念やしきたり・慣習では	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体としては	1	2	3	4	5	6

問 12 あなたは、女性が働く上で支障となることは、どのようなことだと思いますか。
 (○印いくつでも)

- | |
|---------------------------|
| 1 家事の負担が大きいこと |
| 2 夫や子どもの世話の負担が大きいこと |
| 3 高齢者など家族介護の負担が大きいこと |
| 4 夫や子どもなどの理解や協力が少ないこと |
| 5 職場で男女格差があること |
| 6 職場で結婚・出産時に退職の慣例があること |
| 7 夫の転勤や長時間労働があること |
| 8 女性の就職先自体が少ないこと |
| 9 保育所不足など子育て支援体制が十分ではないこと |
| 10 その他() |
| 11 支障となることは特にない |

問 13 職場での男女の扱いについては、平等になっていると思いますか。①～③のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

	優 遇 さ れ て い る 男 性 の 方 が	い え ば ど ち ら か と	ほ ぼ 平 等 に な っ て い る	い え ば ど ち ら か と 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い
①募集・採用	1		2	3	4
②賃金・昇給	1		2	3	4
③昇進・昇格	1		2	3	4

問 14 あなたは、これまでに①育児休業(産前・産後休業を除く)や、②介護休業を取得したことがありますか。(○印1つずつ)

①育児休業 (産前・産後休業を除く)	1 取得したことがある 2 取得したことはない 3 取得したかったが取得できなかった 4 取得する必要がなかった
②介護休業	1 取得したことがある 2 取得したことはない 3 取得したかったが取得できなかった 4 取得する必要がなかった

問 15 【問 15 は女性の方のみにおたずねします。男性の方は問 17 へお進みください。】あなたは、これまでに結婚や妊娠・出産の際に、働き方に変化がありましたか。(○印1つ)

- 1 結婚を機に仕事をやめた ----- → **問 16 へお進みください**
- 2 妊娠を機に仕事をやめた ----- → **問 16 へお進みください**
- 3 出産を機に仕事をやめた ----- → **問 16 へお進みください**
- 4 仕事内容や勤務形態を変えずに働いた (産前・産後休業、育児休業を取得する場合を含む)
- 5 同じ職場で仕事内容や勤務形態を変えて働いた (フルタイムからパートタイムなど)
- 6 転職した
- 7 もともと働いていなかった
- 8 その他 ()
- 9 いずれも該当しない



問 15 で 4 ~ 9 と回答した人は、次は問 17 へお進みください。

問 16 【問 15 で「1~3」と回答した人におたずねします】仕事をやめた理由は何ですか。(○印いくつでも)

- 1 もともと仕事をやめたかったから
- 2 家事に十分な時間をかけたかったから
- 3 子育てに十分な時間をかけたかったから
- 4 職場に十分な制度や理解がなかったから
- 5 体力的に自信がなかったから
- 6 家族や親族の理解や協力が得られなかったから
- 7 保育所など子どもを預かってくれる場所がなかったから
- 8 世帯に十分な収入があったから
- 9 その他 ()

問 17 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○印1つ)

- 1 大変働きやすいと思う ----- → **問 19 へお進みください**
- 2 ある程度は働きやすいと思う ----- → **問 19 へお進みください**
- 3 あまり働きやすいとは思わない
- 4 働きやすいとは思わない
- 5 どちらともいえない ----- → **問 19 へお進みください**
- 6 わからない ----- → **問 19 へお進みください**

問 22 あなたは、身近で次のようなことを経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。①～③のそれぞれについてお答えください。（○印それぞれいくつでも）

	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した人がいる	一般的な知識として知っている	詳しくはわからないが、言葉として見聞きしたことがある	知らなかった
①セクシュアルハラスメント（セクハラ）	1	2	3	4	5
②パワーハラスメント（パワハラ）	1	2	3	4	5
③マタニティハラスメント（マタハラ）	1	2	3	4	5

セクシュアルハラスメント（セクハラ）とは

- 職場などにおいて、他の者を不快にさせる性的な言動のこと（性的嫌がらせ）。
 - 男女雇用機会均等法においては、
 - ・職場において、労働者の意に反する性的な言動が行われ、それを拒否したことで解雇、降格、減給などの不利益を受けること（対価型セクシュアルハラスメント）
 - ・性的な言動が行われることで職場の環境が不快なものとなったため、労働者の能力の発揮に大きな悪影響が生じること（環境型セクシュアルハラスメント）
- をいいます。また、性別役割分担意識に基づく言動は、セクシュアルハラスメントが発生する原因や背景になることがあります。

パワーハラスメント（パワハラ）とは

- 「同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為」と定義されます。この定義においては、
 - ・上司から部下に対するものに限られず、職務上の地位や人間関係といった「職場内での優位性」を背景にする行為が該当すること
 - ・業務上必要な指示や注意・指導が行われている場合には該当せず、「業務の適正な範囲」を超える行為が該当することを明確にしています。

マタニティハラスメント（マタハラ）とは

- 働く女性が、妊娠や出産を理由として解雇されることや、職場などで精神的・肉体的な苦痛を与えるような行為です。次のような例があげられます。
 - ・産前休業の取得を上司に相談したところ、「休むなら辞めてほしい」など解雇を示唆されること等、解雇その他不利益な取扱いを示唆するもの
 - ・妊娠したことを同僚に伝えたら、「自分なら今の時期に妊娠しない。あなたも妊娠すべきでなかった。」と繰り返し言われ、就業する上で看過できない程度の支障が生じていること等、妊娠等したことにより嫌がらせをするものなどがあります。

資料：厚生労働省ホームページ内資料より作成

4

家庭生活と男女の役割についておたずねします

問 23 あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。①～⑤のそれぞれについてお答えください。(○印1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (「男は仕事、女は家庭」という考え方)	1	2	3	4	5
③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
④結婚しない人や晩婚化が進んでいるのは、女性の家事や育児の負担感が大きいためである	1	2	3	4	5
⑤男性は、もっと家事や育児、介護などの家庭生活に参画するべきである	1	2	3	4	5

問 24 あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。(○印いくつでも)

- 1 男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる
- 2 男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる
- 3 男女ともに、社会人として自立できるように育てる
- 4 男女ともに、性に関する正しい知識と理解を身につけさせる
- 5 男は外で働き、女は家庭を守るように育てる
- 6 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる
- 7 男女に関わらず、子どもの個性に応じて育てる
- 8 その他 ()

問 25 あなたは、次にあげる家庭内の仕事を、主に誰が分担するのが理想だと思いますか。①～⑤のそれぞれについてお答えください。※結婚されていない方も、結婚して子どもがいると仮定してお答えください。（○印1つずつ）

理 想	主 に 夫	主 に 妻	協 力 し て 夫 婦 が	協 力 し て 家 族 が	子 ど も 主 に	の 人 そ の 他
①生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
②日常の家事	1	2	3	4	5	6
③日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6
④家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6
⑤子育て（育児・しつけ）	1	2	3	4	5	6

問 26 【問 26 は既婚の方のみにおたずねします（問 6 で 2 と回答した人）。該当しない人は問 27 へお進みください。】 それでは、あなたの家庭では、①～⑤のような家庭内の仕事を、実際に誰が分担していますか。（○印1つずつ）

現 実	主 に 夫	主 に 妻	協 力 し て 夫 婦 が	協 力 し て 家 族 が	子 ど も 主 に	の 人 そ の 他
①生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
②日常の家事	1	2	3	4	5	6
③日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6
④家族の介護や看護	1	2	3	4	5	6
⑤子育て（育児・しつけ）	1	2	3	4	5	6

問 30 次にあげる防災や災害、復興の場において、どの程度女性の参画や女性の視点が必要と思いますか。①～⑦のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）

	女性の参画や女性の視点が必要と思う	どちらかといえば必要と思う	あまり必要とは思わない	必要とは思わない
①地域や職場などでの防災訓練の立案、実施及び参加	1	2	3	4
②家庭や避難所での備蓄品の検討や準備	1	2	3	4
③市の防災計画・復興計画の策定過程への参画	1	2	3	4
④避難所の設備（男女別のトイレ・更衣室、入浴施設、授乳室、防犯対策等）	1	2	3	4
⑤避難所の運営（運営組織の役員や妊産婦・幼児等への配慮等）	1	2	3	4
⑥避難所での女性専用物品支給の際の配慮（下着や生理用品）	1	2	3	4
⑦被災者等に対する相談体制	1	2	3	4

問 36 あなたは、次にあげる用語の意味をご存じですか。（○印1つずつ）

	内容まで 知っている (よく知って いる)	名前を見聞き したことが ある程度	知らな かった
①男女共同参画社会 →男女が固定的な役割分担意識や慣習にとらわれ ることなく、それぞれが個性と能力を発揮し、い きいきと暮らすことのできる社会	1	2	3
②男女雇用機会均等法 →募集・採用、配置・昇進について、女性に対し男 性と均等な機会を与えること。また、定年、退職、 解雇などに差別的な取扱いを禁止している法律。	1	2	3
③仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） →一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働 き、仕事上の責任を果たしながら家庭や地域活動 などにおいても、多様な生き方・暮らし方が選択 できること。	1	2	3
④女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の 推進に関する法律） →女性が、職業生活において、その希望に応じて十 分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するた めの法律。これにより、平成 28 年 4 月 1 日から、 労働者 301 人以上の企業は、女性の活躍推進に 向けた行動計画の策定などが新たに義務づけら れた。	1	2	3
⑤ジェンダー（社会的性別） →社会的、文化的につくられた「男らしさ」「女ら しさ」など、画一的で多数派の性差意識	1	2	3
⑥四万十市男女共同参画計画（新・しまんと男女共 同参画プラン） →男女があらゆる場面において共に参画し、活躍で きる社会の実現を目指すことを目的とした、総合 的な取組指針を取りまとめた計画	1	2	3

問 37 男女共同参画を積極的に進めるために、今後、四万十市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○印3つまで）

- 1 男女共同参画や人権尊重についての意識啓発を促進する
- 2 男女共同参画や人権尊重についての教育・学習の機会を充実する
- 3 職員の管理職や審議会の委員などに女性を積極的に登用する
- 4 女性の就業や起業への支援、人材育成への支援を充実する
- 5 保育施設や放課後児童クラブなどの子育て支援サービスを充実する
- 6 介護支援サービスを充実する
- 7 働く場での男女格差をなくすよう事業主などに対して働きかける
- 8 男女共同参画に積極的に取り組む企業等へ支援をする
- 9 男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動を促進する
- 10 男女共同参画の視点を取り入れた防災対策を推進する
- 11 DVやハラスメントなどの相談窓口を充実する
- 12 男女共同参画についての活動場所の整備を図る
- 13 男女共同参画に視点を置いた国際的な交流・協力を推進する
- 14 男女の違いに配慮した心身の健康づくりの推進を図る
- 15 その他（）

四万十市 男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

発 行 / 平成 29 年 (2017 年) 5 月
発 行 者 / 高知県 四万十市
問 合 せ 先 / 四万十市人権啓発課 人権・男女共同参画係
〒787-8501 高知県四万十市中村大橋通 4 丁目 10
TEL (0880) 35-1035
FAX (0880) 34-4271
E - Mail / woman@city.shimanto.lg.jp
